

看護学専攻専門科目教育要項

Nursing Science, Syllabus of the Special Subjects

平成23年度
2011-2012 Prospectus

東京医科歯科大学医学部保健衛生学科
School of Health Sciences, Faculty of Medicine,
Tokyo Medical and Dental University

保健衛生学科の教育理念

本学科は豊かな教養と高い倫理観に裏付けられた医療人としての感性を有し、自ら学び研究し、創意工夫することができる人間の形成を目指す。その視点に立ち看護学、検査技術学の2つの領域において、それぞれの専門的領域の知識、技術を教授することにとどまらず、学際的視野に立ち自ら問題を提起し、これを解決する能力を備えた医療人を養成する。

看護学専攻の教育目的

人々の健康状態を生活や環境との関係で的確に判断し、人々の主体性や価値観を尊重する質の高い看護実務者を養成する。併せて将来の研究者、教育者および指導者につながる知識・技術・態度を養う。

看護学専攻の教育目標

- 1 人々の健康・生活・環境を相互に関連づけて、人々の主体性・価値観を尊重し、全人的な生活者として理解し、健康に関わる生活援助の知識と技術を修得する。
- 2 看護の対象となる個人および集団の健康段階に応じた看護上の問題を発見し、解決するための問題解決思考能力を修得する。
- 3 保健・医療・福祉に関連する他の職種とチームを組み、看護職の専門的役割を有効に発揮できる基礎的能力を修得する。
- 4 自己の知識や技術の向上を目指す研究的姿勢および倫理観に基づく行動を身につけ、看護実践に諸科学の知識と技術を応用できる能力を修得する。

看護学専攻のカリキュラムの特色

保健衛生学科看護学専攻のカリキュラムは、保健衛生学科の教育理念、看護学専攻の教育目的、教育目標に沿って編成されており、以下の点を特色としている。

1) 第1学年では、豊かな教養と学際的な視野に立ち、自らの関心に沿って自己学習できる能力を身に付けるための基盤づくりに重点を置いている。したがって、教養部の教養科目と並行して、専門基礎分野の解剖学、看護学専門科目の基礎看護学Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰ、看護心理学、看護の統合と実践Ⅰを開講し、看護学を学ぶ基盤づくりを行う。

2) 第2学年では、看護学の学習に関連の深い専門基礎科目として、人の形態・構造や機能を理解するとともに、看護の科学的根拠となる学際的な知識を学ぶ。専門基礎科目は、専門基礎分野と専門共通分野の科目によって構成する。専門基礎分野では、解剖学、生理学、生化学、薬理学Ⅰ・Ⅱ、病理学、微生物学、栄養学、病態学を開講する。また、専門基礎合同演習は、これらの科目について学ぶ上で基礎となる幅広い知識や技術の習得を目的とする科目であり、本学科の特徴を生かした実技中心の体験学習科目である。この他に、専門基礎分野では、第3学年に開講する必修科目の疫学と、第2、3学年必修、第4学年選択の英文購読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ならびに専門共通分野に第4学年必須科目の国際保健看護学を置くことで、語学力の向上のみならず広い視野から国際的に活躍できる人材の育成に力を注いでいる。また、専門共通分野では第2学年で必須科目の医療情報学、第2、3、4学年で保健福祉に関連する科目を開講する。

3) 看護学の専門科目は、すべて専門領域別の分野ごとに開講する。基礎看護学分野は第1学年から第2学年に基礎看護学科目を開講し、看護学に共通する基盤づくりを行う。第2学年から第3学年にかけては、成人看護学分野、精神看護学分野、小児看護学分野、在宅看護学分野で、より専門性の高い講義、演習を行う。そして、母性看護学分野、および老年看護学分野の講義・演習は第3学年に集中的に開講する。それぞれの科目では、看護に必要な知識、技術、態度を涵養するとともに、自ら問題を提起し、解決する能力を備えた医療人養成を目指し、DVD等の視聴覚教材、グループワーク、討論、演習、e-learning等を効果的に活用する。また、看護を取り巻く社会システムを含め、統合的な視点から看護を捉えられるよう、地域看護学第3学年から、看護の統合と実践Ⅱを第4学年で開講している。

4) 保健師資格取得に必要な単位は、主に第3学年から第4学年に開講する。地域看護学分野の講義・演習と、専門共通分野の保健統計学、産業保健学、保健医療福祉制度論、保健医療福祉制度論演習を開講する。また、第4学年では国際保健看護学の講義を行い、グローバルな視点を養う。

5) 臨地実習は学習の段階に応じて、すべての学年で行う。第1学年は体験型実習の基礎看護学実習Ⅰ、第2学年は基礎看護学実習Ⅱを行う。また、第3学年では、成人看護学実習Ⅰ、精神看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、老年看護学実習、在宅看護学実習を行ない、分野別のより専門性の高い実践能力を養う。臨地実習では、看護職に求められる看護実践能力の習得にとって欠かせない看護技術項目についてのチェックリストを活用し学生自ら学習機会を創り、実践能力の向上に向けて努力する積極性が求められる。さらに、第4学年では、地域看護学実習と実践に即した成人看護学実習Ⅱ・看護の統合と実践実習を行なう。多職種との協働を図りつつ看護の専門性を発揮できる能力の習得を目指し、専門領域を越えた合同演習等を取り入れている。

6) 第3学年に開講する卒業論文Ⅰでは、具体的な研究方法論について学ぶ。続く第4学年の卒業論文Ⅱでは、看護学の学習を通して関心をもった領域やテーマについて、専門分野の教員から少人数制による指導を受けながら、卒業論文を作成し、発表する。この科目では、自己の知識や技術の向上を目指す研究的姿勢を身につけ、論理的思考能力とそれを表現するリテラシー能力の向上を目指している。

目 次

平成23年度看護学専攻授業計画表	1
------------------	---

【第1学年】

平成23年度看護学専攻授業時間割	3
平成23年度専門基礎科目・専門科目時間割	7
解 剖 学 I	14
基 礎 看 護 学 I	16
基 礎 看 護 学 実 習 I	17
看 護 心 理 学	18
看護の統合と実践 I	20

【第2学年】

*旧カリキュラム対応科目名

※新カリキュラム対応

平成23年度時間割（看護学専攻：第2学年）	21
解 剖 学 ※解剖学 I・II	27
生 理 学	29
生 化 学	31
薬 理 学 I	33
薬 理 学 II *薬理学	33
病 理 学	34
微 生 物 学	35
栄 養 学	36
病 態 学	37
英 文 講 読 I	39
T O E F L / I T P	40
専 門 基 礎 合 同 演 習	41
医 療 情 報 学	42
基 礎 看 護 学 II	44
基 礎 看 護 学 III	45
基 礎 看 護 学 演 習 I	46
基 礎 看 護 学 演 習 II	48
基 礎 看 護 学 実 習 II	49
成 人 看 護 学 I	50
成 人 看 護 学 II	51
精 神 看 護 学	52
小 児 看 護 学 I	54
小 児 看 護 学 演 習 I	55
在 宅 看 護 学 I	56

【第3学年】

平成23年度時間割（看護学専攻：第3学年）	57
疫学	63
英文講読Ⅱ	64
TOEFL／ITP	66
卒業論文Ⅰ	67
成人看護学Ⅲ	69
成人看護学演習	70
成人看護学実習Ⅰ	71
地域精神看護学	73
精神看護学演習	74
精神看護学実習	76
小児看護学Ⅱ	77
小児看護学演習Ⅱ	78
小児看護学実習	79
母性看護学Ⅰ *母性看護学	80
母性看護学Ⅱ	81
母性看護学Ⅲ	82
母性看護学演習	84
母性看護学実習	86
老年看護学	87
リハビリテーション看護学	89
老年看護学演習	90
老年看護学実習	91
地域看護学Ⅰ	92
地域看護学Ⅱ	94
在宅看護学Ⅱ	95
在宅看護学演習	96
在宅看護学実習	97

【第4学年】

平成23年度時間割（看護学専攻：第4学年） *旧カリキュラム対応	99
英文講読Ⅲ【選択科目】	105
保健統計学	107
国際保健看護学	109
産業保健学	110
保健医療福祉制度論	112
保健医療福祉制度論演習	114
卒業論文Ⅱ	116
成人看護学実習Ⅱ	117

地 域 看 護 学 Ⅲ	118
地 域 看 護 学 演 習	120
地 域 看 護 学 実 習	122
緩 和 ケ ア 看 護 学 *ターミナルケア看護学	124
看 護 の 統 合 と 実 践 Ⅱ *看護管理学・看護経済学【選択科目】看護の統合と実践実習	125
学 生 周 知 事 項	127
講 義 室 一 覧	135

【参 考】

東京医科歯科大学学則（抜粋）	137
東京医科歯科大学医学部履修規則・進級要件、履修規則内規	149
保健衛生学科(看護学専攻)教育課程	157
東京医科歯科大学医学部試験規則、試験規則内規	162
看護学専攻第3学年における臨地実習履修条件、履修要件	168
医学部保健衛生学科看護学専攻卒業論文実施要項	170
医学部保健衛生学科レポート書式（見本）	173
専任教員一覧	175

平成23年度授業計画表《看護学専攻》

第 2 学 年			第 3 学 年			第 4 学 年		
区 分	期 間	週 数	区 分	期 間	週 数	区 分	期 間	週 数
前期授業	平成23年 4月 6日(水)～ 7月 15日(金)	15週	前期授業	平成23年 4月 6日(水)～ 7月 15日(金)	15週	前期授業	平成23年 4月 6日(水)～ 7月 8日(金)	14週
前期試験	平成23年 7月 19日(火)～ 7月 29日(金)	2週	前期試験	平成23年 7月 19日(火)～ 7月 27日(水)	2週	前期試験	平成23年 7月 11日(月)～ 7月 13日(水)	1週
			前期授業(指定)	平成23年 7月 28日(木)～ 7月 29日(金) ※保育園実習(期日指定)	1週	前期授業	平成23年 7月 14日(木)～ 8月 1日(月) ※看護の総合と実践実習	3週
夏季休業	平成23年 8月 1日(月)～ 9月 7日(水)	6週	夏季休業	平成23年 8月 1日(月)～ 9月 28日(水)	9週	夏季休業	平成23年 8月 2日(火)～ 9月 20日(火)	8週
後期授業	平成23年 9月 8日(木)～12月 22日(木) ※ [10/12(水)～10/14(金)、10/20(木)] は臨時休業]	15週	後期授業	平成23年 9月 29日(木)～12月 22日(木)	13週	後期授業	平成23年 9月 21日(水)～12月 22日(木)	13週
冬季休業	平成23年 12月 23日(金)～平成24年 1月 4日(水)	2週	冬季休業	平成23年 12月 26日(月)～平成24年 1月 6日(金)	2週	冬季休業	平成23年 12月 23日(金)～平成24年 1月 4日(水)	2週
後期授業	平成24年 1月 5日(木)～ 1月 27日(金)	4週	後期授業	平成24年 1月 10日(火)～ 2月 3日(金)	5週	後期授業	平成24年 1月 5日(木)～ 1月 20日(金)	3週
後期試験	平成24年 1月 30日(月)～ 2月 9日(木)	2週	後期試験	平成24年 2月 6日(月)～ 2月 9日(木)	1週	後期試験	平成24年 1月 23日(月)～ 1月 27日(金)	1週
補講・再試験期間	平成24年 2月 13日(月)～ 2月 17日(金)	1週	補講・再試験期間	平成24年 2月 13日(月)～ 2月 17日(金)	1週	補講・再試験期間	平成24年 1月 30日(月)～ 2月 3日(金)	1週
春季休業	平成24年 2月 20日(月)～		春季休業	平成24年 2月 20日(月)～		春季休業	平成24年 2月 6日(月)～	

【行事】

- | | |
|---------------------------|---|
| 平成23年 4月 4日(月) 新入学生健康診断 | 平成23年 5月 7日(土) 体育祭 |
| 平成23年 4月 5日(火) ガイダンス(2学年) | 平成23年 10月 12日(水) 創立記念日(休業) |
| 平成23年 4月 5日(火) 入学式(学部) | 平成23年 10月 15日(土)・16日(日) お茶の水祭 |
| 平成23年 4月 6日(水) 入学式(大学院) | 平成23年 10月 20日(木) 解剖体温帽式 N2, MT2 (築地本願寺) |
| 平成23年 4月 7日(木) 校外研修(ソバ) | 平成24年 3月 23日(金) 卒業式 |

平成23年度授業時間割 (看護学専攻)

学期	N 2		N 3		N 4	
時間	1時限 8:50~10:20	2時限 10:30~12:00	3時限 13:00~14:30	4時限 14:40~16:10	5時限 16:20~17:50	
月			講義室	講義室	講義室	講義室
1	(*)解剖学【基】5回(4/11,18,25,5/2,9) (*)生理学【基】3回(5/16,23,30)		共用講義室2 (U&Dラボラ-2F)他	老年看護学【山本】12回 (4/11,18,25,5/9,16,23,30,6/6,13,20,27,7/4)	保健衛生学講義室2 (8F)	看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/25,8/1)
2	(*)解剖学【基】5回(4/11,18,25,5/2,9) (*)生理学【基】3回(5/16,23,30) 専門基礎合同演習【岡村】1回(6/13)		光用講義室2 (U&Dラボラ-2F)他 保健衛生学実習室 (7F)	老年看護学【山本】12回 (4/11,18,25,5/9,16,23,30,6/6,13,20,27,7/4)	保健衛生学講義室2 (8F)	産業保健学【森田】8回(4/11,18,25,5/9,16,23,30,6/6) 看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/25,8/1)
3	(*)生化学【森澤】8回(4/11,18,25,5/2,9,16,23,30) 病態学【佐藤(千)】5回(6/6,20,27,7/4,11)		共用講義室2 (U&Dラボラ-2F) 保健衛生学講義室4 (7F)	精神看護学演習【吉本】12回 (4/11,18,25,5/9,16,23,30,6/6,13,20,27,7/4)	保健衛生学講義室2 (8F)	地域看護学Ⅲ【佐々木】8回(4/11,18,25,5/9,16,23,30,6/6) 看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/25,8/1)
4	病態学【佐藤(千)】10回 (4/11,18,25,5/9,16,30,6/6,20,27,7/4,11)		共用講義室2 (U&Dラボラ-2F) 保健衛生学講義室4 (7F)	精神看護学演習【吉本】4回(4/11,18,25,5/9) リハビリテーション看護学【山本】8回 (5/16,23,30,6/6,13,20,27,7/4)	保健衛生学講義室2 (8F)	地域看護学Ⅲ【佐々木】8回(4/11,18,25,5/9,16,23,30,6/6) 看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/25,8/1)
5	病態学【佐藤(千)】8回(4/11,18,25,5/9,16,6/6,27,7/4,11)		共用講義室2 (U&Dラボラ-2F) 保健衛生学講義室4 (7F)	母性看護学Ⅰ【大久保】2回(4/26,6/7) 母性看護学Ⅱ【大久保】4回(4/12,5/10,17,24) 母性看護学Ⅲ【大久保】2回(4/19,5/31)	保健衛生学講義室2 (8F)	看護の統合と実践Ⅱ【深堀】12回 (4/11,18,25,5/9,16,23,30,6/6,13,20,27,7/4) 看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/25,8/1)
火				母性看護学Ⅰ【大久保】2回(4/26,6/7) 母性看護学Ⅱ【大久保】4回(4/12,5/10,17,24) 母性看護学Ⅲ【大久保】2回(4/19,5/31)	保健衛生学講義室2 (8F)	保健医療福祉制度論【森田】4回(6/7,21,28,7/5) 看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/19,26)
1	(*)解剖学【基】3回(4/12,19,26) (*)生理学【基】5回(5/10,17,24,31,6/7)		光用講義室2 (U&Dラボラ-2F)他	母性看護学Ⅰ【大久保】2回(4/26,6/7) 母性看護学Ⅱ【大久保】4回(4/12,5/10,17,24) 母性看護学Ⅲ【大久保】2回(4/19,5/31)	保健衛生学講義室2 (8F)	国際保健看護学【水】1回(6/31) 保健医療福祉制度論【森田】4回(6/7,21,28,7/5) 看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/19,26)
2	(*)解剖学【基】3回(4/12,19,26) (*)生理学【基】5回(5/10,17,24,31,6/7)		光用講義室2 (U&Dラボラ-2F)他	母性看護学Ⅰ【大久保】2回(4/26,6/7) 母性看護学Ⅱ【大久保】4回(4/12,5/10,17,24) 母性看護学Ⅲ【大久保】2回(4/19,5/31)	保健衛生学講義室2 (8F)他	保健医療福祉制度論演習【森田】7回 (4/12,19,26,5/10,6/7,21,28,7/5) 保健医療福祉制度論【森田】4回(6/7,21,28,7/5) 看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/19,26)
3	専門基礎合同演習【岡村】7回(5/10,17,24,31,6/7,14,21) 成人看護学Ⅰ【井上】1回(4/26)		保健衛生学実習室 (7F) 保健衛生学講義室4 (7F)	成人看護学演習【井上】6回(4/19,5/10,24,6/7,21,7/5) 老年看護学演習【山本】5回(4/12,26,5/17,31,6/14) 母性看護学演習【大久保】1回(6/28)	保健衛生学講義室2 (8F)他	保健医療福祉制度論演習【森田】8回 (4/12,19,26,5/10,6/7,21,28,7/5) 保健医療福祉制度論【森田】3回(6/17,24,31) 看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/19,26)
4	専門基礎合同演習【岡村】7回(5/10,17,24,31,6/7,14,21) 成人看護学Ⅰ【井上】1回(4/26)		保健衛生学実習室 (7F)	成人看護学演習【井上】6回(4/19,5/10,24,6/7,21,7/5) 老年看護学演習【山本】5回(4/12,26,5/17,31,6/14) 母性看護学演習【大久保】1回(6/28)	保健衛生学講義室2 (8F)他	保健医療福祉制度論演習【森田】8回 (4/12,19,26,5/10,6/7,21,28,7/5) 保健医療福祉制度論【森田】3回(6/17,24,31) 看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/19,26)
5	専門基礎合同演習【岡村】7回(5/10,17,24,31,6/7,14,21)		保健衛生学実習室 (7F)	成人看護学演習【井上】6回(4/19,5/10,24,6/7,21,7/5) 老年看護学演習【山本】5回(4/12,26,5/17,31,6/14) 母性看護学演習【大久保】1回(6/28)	保健衛生学講義室2 (8F)	看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/19,26)
水			5年特4階講義室 共用講義室2 (U&Dラボラ-2F)他 保健衛生学講義室4 (7F)	小児看護学Ⅱ【木下】13回 (4/6,13,20,27,5/11,18,25,6/1,8,15,22,29,7/6)	保健衛生学講義室2 (8F)	看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/20,27)
1	(*)微生物学【岡村】8回(4/6,13,20,27,5/11,18,25,6/1)		5年特4階講義室 共用講義室2 (U&Dラボラ-2F)他 保健衛生学講義室4 (7F)	英文講義Ⅱ【木下】13回 (4/6,13,20,27,5/11,18,25,6/1,8,15,22,29,7/6)	保健衛生学講義室2 (8F)	卒業論文Ⅱ12回(4/6,13,20,27,5/11,18,25,6/1,8,15,22,29) 看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/20,27)
2	(*)病理学【熊谷】8回(4/6,13,20,27,5/11,18,25,6/1) 英文講義Ⅰ【佐藤】2回(6/15,22)		5年特4階講義室 共用講義室2 (U&Dラボラ-2F)他 保健衛生学講義室4 (7F)	英文講義Ⅱ【木下】13回 (4/6,13,20,27,5/11,18,25,6/1,8,15,22,29,7/6)	保健衛生学講義室2 (8F)	看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/20,27)
3	英文講義Ⅰ【佐藤】13回 (4/6,13,20,27,5/11,18,25,6/1,8,15,22,29,7/6)		保健衛生学講義室4 (7F)	疫学【横山】4回(5/11,25,6/1,8) 英文講義Ⅱ【木下】2回(6/15,22)	保健衛生学講義室2 (8F)	英文講義Ⅲ【木下】11回 (4/6,13,20,27,5/11,18,25,6/1,8,29,7/6) 看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/20,27)
4	病態学【佐藤(千)】5回(4/27,5/25,6/15)		保健衛生学講義室4 (7F)	疫学【横山】4回(5/11,25,6/1,8)	保健衛生学講義室2 (8F)	英文講義Ⅲ【木下】4回(6/15,22,29,7/6) 看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/20,27)
5	病態学【佐藤(千)】3回(4/27,5/25,6/15)		保健衛生学講義室4 (7F)	疫学【横山】4回(5/11,25,6/1,8)	保健衛生学講義室2 (8F)	看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/20,27)
木				小児看護学Ⅱ【廣瀬】5回(4/7,21,5/12,6/9,23) 母性看護学演習【大久保】1回(6/30)	保健衛生学講義室2 (8F)他	看護の統合と実践実習【深堀】2回(7/14,21,28)
1	(*)解剖学【基】4回(4/7,14,21,28) (*)生理学【基】4回(5/12,19,26,6/2)		共用講義室2 (U&Dラボラ-2F)他	成人看護学Ⅲ【井上】7回(4/28,5/12,19,26,6/2,9,7/7) 小児看護学Ⅱ【廣瀬】3回(4/7,21,6/23) 母性看護学演習【大久保】1回(6/30)	保健衛生学講義室2 (8F)他	看護の統合と実践実習Ⅰ【佐々木】4回(5/26,6/2,9,16) 看護の統合と実践実習【深堀】3回(7/14,21,28)
2	(*)解剖学【基】4回(4/7,14,21,28) (*)生理学【基】4回(5/12,19,26,6/2)		共用講義室2 (U&Dラボラ-2F)他	成人看護学Ⅲ【井上】7回(4/28,5/12,19,26,6/2,9,7/7) 小児看護学Ⅱ【廣瀬】3回(4/7,21,6/23) 母性看護学演習【大久保】1回(6/30)	保健衛生学講義室2 (8F)他	看護の統合と実践実習Ⅰ【佐々木】4回(5/26,6/2,9,16) 看護の統合と実践実習【深堀】3回(7/14,21,28)
3	基礎看護学Ⅱ【廣瀬】4回(4/7,21,6/16,23) 基礎看護学Ⅲ【廣瀬】2回(5/19,26) 基礎看護学演習Ⅰ【廣瀬】7回(4/14,28,5/12,6/2,9,30,7/7)		保健衛生学講義室4 (7F)	母性看護学Ⅰ【大久保】1回(4/7) 母性看護学Ⅱ【大久保】2回(5/26,6/9) 母性看護学Ⅲ【大久保】2回(4/21,5/12) 母性看護学演習【大久保】2回(6/23,7/7) 小児看護学演習Ⅱ【廣瀬】6回(4/14,28,5/19,6/2,16,30)	保健衛生学講義室2 (8F)他	地域看護学演習【佐々木】8回 (4/7,14,21,28,5/12,6/23,30) 地域看護学実習Ⅰ【佐々木】4回(5/26,6/2,9,16) 看護の統合と実践実習【深堀】3回(7/14,21,28)
4	基礎看護学Ⅱ【廣瀬】3回(4/7,21,6/23) 基礎看護学Ⅲ【廣瀬】2回(5/19,26) 基礎看護学演習Ⅰ【廣瀬】9回 (4/14,28,5/12,6/2,9,16,30,7/7)		保健衛生学講義室4 (7F)	母性看護学Ⅰ【大久保】1回(4/7) 母性看護学Ⅱ【大久保】2回(5/26,6/9) 母性看護学Ⅲ【大久保】2回(4/21,5/12) 母性看護学演習【大久保】2回(6/23,7/7) 小児看護学演習Ⅱ【廣瀬】6回(4/14,28,5/19,6/2,16,30)	保健衛生学講義室2 (8F)他	地域看護学演習【佐々木】8回 (4/7,14,21,28,5/12,6/23,30) 地域看護学実習Ⅰ【佐々木】4回(5/26,6/2,9,16) 看護の統合と実践実習【深堀】3回(7/14,21,28)
5	基礎看護学Ⅱ【廣瀬】9回 (4/14,5/12,26,6/2,9,16,23,30,7/7) 基礎看護学Ⅲ【廣瀬】1回(5/19)		保健衛生学講義室4 (7F)	母性看護学Ⅰ【大久保】1回(4/7) 母性看護学Ⅱ【大久保】2回(5/26,6/9) 母性看護学Ⅲ【大久保】2回(4/21,5/12) 母性看護学演習【大久保】2回(6/23,7/7) 小児看護学演習Ⅱ【廣瀬】6回(4/14,28,5/19,6/2,16,30)	保健衛生学講義室2 (8F)他	地域看護学演習【佐々木】8回 (4/7,14,21,28,5/12,6/23,30) 地域看護学実習Ⅰ【佐々木】4回(5/26,6/2,9,16) 看護の統合と実践実習【深堀】3回(7/14,21,28)
金				母性看護学Ⅰ【大久保】1回(4/21) 母性看護学Ⅱ【大久保】1回(5/12) 母性看護学Ⅲ【大久保】1回(5/26) 母性看護学演習【大久保】2回(4/7,6/9) 小児看護学演習Ⅱ【廣瀬】3回(4/14,5/19,6/30)	保健衛生学講義室2 (8F)	看護の統合と実践実習【深堀】3回(7/14,21,28)
1	(*)生化学【森澤】7回(4/8,15,22,5/6,13,20,27) 成人看護学Ⅰ【井上】3回(6/3,10,24)		共用講義室2 (U&Dラボラ-2F) 保健衛生学講義室4 (7F)	地域看護学Ⅰ【佐々木】4回(4/8,15,22,5/6) 地域看護学Ⅱ【佐々木】4回(5/13,20,27,6/3) 在宅看護学Ⅱ【本田】4回(6/10,17,24,7/1)	保健衛生学講義室2 (8F)	看護の統合と実践実習【深堀】3回(7/15,22,29)
2	成人看護学Ⅰ【井上】10回 (4/8,22,5/13,20,27,6/3,10,17,24,7/1)		保健衛生学講義室4 (7F)	地域看護学Ⅰ【佐々木】4回(4/8,15,22,5/6) 地域看護学Ⅱ【佐々木】4回(5/13,20,27,6/3) 在宅看護学Ⅱ【本田】4回(6/10,17,24,7/1)	保健衛生学講義室2 (8F)	保健統計学【田中(博)】9回(4/8,15,22,5/13,20,27,6/3,10) 看護の統合と実践実習【深堀】3回(7/15,22,29)
3	基礎看護学演習Ⅰ【廣瀬】3回(4/8,15,5/13) 小児看護学Ⅰ【廣瀬】4回(4/22,5/6,20,27) 小児看護学Ⅱ【廣瀬】2回(6/3,10,17,24) 専門基礎合同演習【岡村】1回(7/1)		保健衛生学講義室4 (7F) 保健衛生学実習室 (7F)	地域精神看護学【吉本】8回(4/8,15,22,5/6,13,20,27,6/3) 在宅看護学演習【本田】4回(6/10,17,24,7/1)	保健衛生学講義室2 (8F)	緩和ケア看護学【本田】4回(4/8,15,22,5/13) 国際保健看護学【水】4回(5/20,6/3,10,17) 看護の統合と実践実習【深堀】9回(7/15,22,29)
4	基礎看護学演習Ⅰ【廣瀬】6回(4/8,15,22,28,5/13,20) 小児看護学Ⅰ【廣瀬】4回(4/22,5/6,20,27) 基礎看護学Ⅱ【廣瀬】2回(5/6,9) 専門基礎合同演習【岡村】1回(7/1)		保健衛生学講義室4 (7F) 保健衛生学実習室 (7F)	在宅看護学演習【本田】8回(5/13,20,27,6/3,10,17,24,7/1)	保健衛生学講義室2 (8F)	緩和ケア看護学【本田】4回(4/8,15,22,5/13) 国際保健看護学【水】5回(5/20,27,6/3,10,17) 看護の統合と実践実習【深堀】3回(7/15,22,29)
5	基礎看護学演習Ⅰ【廣瀬】8回(4/22,5/6) 小児看護学Ⅰ【廣瀬】2回(6/10,17) 専門基礎合同演習【岡村】1回(7/1)		保健衛生学講義室4 (7F)	在宅看護学演習【本田】4回(5/13,20,27,6/3)	保健衛生学講義室2 (8F)	緩和ケア看護学【本田】4回(4/8,15,22,5/13) 国際保健看護学【水】5回(5/20,27,6/3,10,17) 看護の統合と実践実習【深堀】3回(7/15,22,29)
備考	<p>・(合)は、看護学専攻との合同授業を示す。(看護学専攻と協業科目名が一部異なる。)</p> <p>・臨床実習の詳細については、別途連絡する。</p>					

第 1 学年

看護学専攻 平成23年度火曜授業時間割

【参考】

前期

日時	8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:20～17:50
4/12 火	生物学入門-1 (服部)歯学部4階 特別講堂	化学基礎-1 (澤野)歯学部4階 特別講堂	専攻ガイダンス M&D7-1共用講義室2	基礎看護学 I-1 (齋藤)M&D7-1共用講義室2	基礎看護学 I-2 (齋藤)M&D7-1共用講義室2
4/19 火	生物学入門-2 (服部)歯学部4階 特別講堂	化学基礎-2 (澤野)歯学部4階 特別講堂	基礎看護学 I-3 (齋藤)M&D7-1共用講義室2	基礎看護学 I-4 (齋藤)M&D7-1共用講義室2	
4/26 火	生物学入門-3 (服部)歯学部4階 特別講堂	化学基礎-3 (澤野)歯学部4階 特別講堂	基礎看護学 I-5 (齋藤)M&D7-1共用講義室2	基礎看護学 I-6 (齋藤)M&D7-1共用講義室2	
5/10 火	生物学入門-4 (服部)歯学部4階 特別講堂	化学基礎-4 (澤野)歯学部4階 特別講堂	基礎看護学 I-7 (齋藤)M&D7-1共用講義室2	基礎看護学 I-8 (齋藤)M&D7-1共用講義室2	
5/17 火	生物学入門-5 (服部)歯学部4階 特別講堂	化学基礎-5 (澤野)歯学部4階 特別講堂		教養総合講座 (全教員)M&D7-2F大講堂	教養総合講座 (全教員)M&D7-3F大講堂
日時	9:10～10:40	10:50～12:20	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00
5/24 火	生物学入門-6 (服部)6	化学基礎-6 (澤野)8		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
5/31 火	生物学入門-7 (服部)6	化学基礎-7 (澤野)8		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
6/7 火	生物学入門-8 (服部)6	化学基礎-8 (澤野)8		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
6/14 火	生物学入門-9 (服部)6	化学基礎-9 (澤野)8		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
6/21 火	生物学入門-10 (服部)6	化学基礎-10 (澤野)8		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
6/28 火	生物学入門-11 (服部)6	化学基礎-11 (澤野)8		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/5 火	生物学入門-12 (服部)6	化学基礎-12 (澤野)8		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/12 火	生物学入門-13 (服部)6	化学基礎-13 (澤野)8		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/19 火	生物学入門-14 (服部)6	化学基礎-14 (澤野)8		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/26 火	生物学入門-15 (服部)6	化学基礎-15 (澤野)8		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
夏季休業 平成23年8月1日～9月9日					
基礎看護学実習 I 平成22年8月2日～5日(医学部・歯学部附属病院、3号館18階講義室4、17階看護実習室1・2)					
前期試験 平成23年9月12日～9月16日					

後期

日時	8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:20～17:50
10/4 火	医療人間学概論(倫理学)-1 () (3号館18階講義室1)	医療人間学概論(法学)-1 (森本) (3号館18階講義室1)	解剖学 I-1 (3号館18階講義室1)	解剖学 I-2 (3号館18階講義室1)	看護心理学-1 (宮本) (3号館18階講義室1)
10/11 火	医療人間学概論(倫理学)-2 () (M&D7-2F 共用講義室2)	医療人間学概論(法学)-2 (森本) (M&D7-2F 共用講義室2)	解剖学 I-3 (M&D7-2階 共用講義室2)	解剖学 I-4 (M&D7-2階 共用講義室2)	看護心理学-2 (宮本) (M&D7-2階共用講義室2)
10/18 火	医療人間学概論(倫理学)-3 () (M&D7-2F 共用講義室2)	医療人間学概論(法学)-3 (森本) (M&D7-2F 共用講義室2)	解剖学 I-5 (M&D7-2階 共用講義室2)	解剖学 I-6 (M&D7-2階 共用講義室2)	看護心理学-3 (宮本) (M&D7-2階共用講義室2)
10/25 火	医療人間学概論(倫理学)-4 () (M&D7-2F 共用講義室2)	医療人間学概論(法学)-4 (森本) (M&D7-2F 共用講義室2)	解剖学 I-7 (M&D7-2階 共用講義室2)	解剖学 I-8 (M&D7-2階 共用講義室2)	看護心理学-4 (宮本) (M&D7-2階共用講義室2)
11/1 火	医療人間学概論(倫理学)-5 () (M&D7-2F 共用講義室2)	医療人間学概論(法学)-5 (森本) (M&D7-2F 共用講義室2)	解剖学 I-9 (M&D7-2階 共用講義室2)	解剖学 I-10 (M&D7-2階 共用講義室2)	看護心理学-5 (宮本) (M&D7-2階共用講義室2)
11/8 火	医療人間学概論(倫理学)-6 () (M&D7-2F 共用講義室2)	医療人間学概論(法学)-6 (森本) (M&D7-2F 共用講義室2)	解剖学 I-11 (M&D7-2階 共用講義室2)	解剖学 I-12 (M&D7-2階 共用講義室2)	看護心理学-6 (宮本) (M&D7-2階共用講義室2)
11/15 火	医療人間学概論(倫理学)-7 () (M&D7-2F 共用講義室2)	医療人間学概論(法学)-7 (森本) (M&D7-2F 共用講義室2)	解剖学 I-13 (M&D7-2階 共用講義室2)	解剖学 I-14 (M&D7-2階 共用講義室2)	看護心理学-7 (宮本) (M&D7-2階共用講義室2)
11/22 火	医療人間学概論(倫理学)-8 () (M&D7-2F 共用講義室2)	医療人間学概論(法学)-8 (森本) (M&D7-2F 共用講義室2)	解剖学 I-15 (M&D7-2階 共用講義室2)	解剖学 I-16 (M&D7-2階 共用講義室2)	看護心理学-8 (宮本) (M&D7-2階共用講義室2)
11/29 火	医療人間学セミナー I-1 (爪田・丸) (M&D7-2F 共用講義室2)	医療人間学セミナー I-2 (爪田・丸) (M&D7-2F 共用講義室2)	看護の統合と実践 I-1 (深堀) (M&D7-2階 共用講義室2)	看護の統合と実践 I-2 (深堀) (M&D7-2階 共用講義室2)	
12/6 火	医療人間学セミナー I-3 (爪田・丸) (M&D7-2F 共用講義室2)	医療人間学セミナー I-4 (爪田・丸) (M&D7-2F 共用講義室2)	看護の統合と実践 I-3 (深堀) (M&D7-2階 共用講義室2)	看護の統合と実践 I-4 (深堀) (M&D7-2階 共用講義室2)	
12/13 火	医療人間学セミナー I-5 (爪田・丸) (M&D7-2F 共用講義室2)	医療人間学セミナー I-6 (爪田・丸) (M&D7-2F 共用講義室2)	看護の統合と実践 I-5 (深堀) (M&D7-2階 共用講義室2)	看護の統合と実践 I-6 (深堀) (M&D7-2階 共用講義室2)	
12/20 火	医療人間学セミナー I-7 (爪田・丸) (M&D7-2F 共用講義室2)	医療人間学セミナー I-8 (爪田・丸) (M&D7-2F 共用講義室2)	看護の統合と実践 I-7 (深堀) (M&D7-2階 共用講義室2)	看護の統合と実践 I-8 (深堀) (M&D7-2階 共用講義室2)	
冬季休業 平成23年12月26日～平成24年1月7日					
1/10 火	医療人間学セミナー II-1 (爪田・丸) (M&D7-2F 共用講義室2)	医療人間学セミナー II-2 (爪田・丸) (M&D7-2F 共用講義室2)	看護の統合と実践 I-9 (深堀) (M&D7-2階 共用講義室2)	看護の統合と実践 I-10 (深堀) (M&D7-2階 共用講義室2)	
1/17 火	医療人間学セミナー II-3 (爪田・丸) (3号館18階講義室2)	医療人間学セミナー II-4 (爪田・丸) (3号館18階講義室2)	看護の統合と実践 I-11 (深堀) (M&D7-2階 共用講義室2)	看護の統合と実践 I-12 (深堀) (M&D7-2階 共用講義室2)	
1/24 火	医療人間学セミナー II-5 (爪田・丸) (3号館18階講義室2)	医療人間学セミナー II-6 (爪田・丸) (3号館18階講義室2)	看護の統合と実践 I-13 (深堀) (3号館8階講義室2)	看護の統合と実践 I-14 (深堀) (3号館8階講義室2)	
1/31 火	医療人間学セミナー II-7 (爪田・丸) (3号館18階講義室2)	医療人間学セミナー II-8 (爪田・丸) (3号館18階講義室2)	看護の統合と実践 I-15 (深堀) (3号館8階講義室2)	看護の統合と実践 I-16 (深堀) (3号館8階講義室2)	
2/7 火					
火曜補講 平成24年2月7日					
後期試験 平成24年2月13日～2月17日					
春季休業 平成24年2月20日～3月31日					

※ 湯島地区

平成23年度時間割(看護学専攻:第1学年)

(前期)

	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
4/5 火										
6 水										
7 木										
8 金										

①	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
4/11 月										
12 火					専攻ガイダンス	共用2	基礎看護学 I (1)	共用2	基礎看護学 I (2)	共用2
13 水										
14 木										
15 金										

②	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
4/18 月										
19 火					基礎看護学 I (3)	共用2	基礎看護学 I (4)	共用2		
20 水										
21 木										
22 金										

③	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
4/25 月										
26 火					基礎看護学 I (5)	共用2	基礎看護学 I (6)	共用2		
27 水										
28 木										
29 金	昭和の日									

④	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
5/2 月										
3 火	憲法記念日									
4 水	みどりの日									
5 木	こどもの日									
6 金										

⑤	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
5/9 月										
10 火					基礎看護学 I (7)	共用2	基礎看護学 I (8)	共用2		
11 水										
12 木										
13 金										

平成23年度時間割(看護学専攻:第1学年)

⑥	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
5/16	月									
17	火									
18	水									
19	木									
20	金									

⑦	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
5/23	月									
24	火									
25	水									
26	木									
27	金									

⑧	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
5/30	月									
31	火									
6/1	水									
2	木									
3	金									

⑨	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
6/6	月									
7	火									
8	水									
9	木									
10	金									

⑩	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
6/13	月									
14	火									
15	水									
16	木									
17	金									

⑪	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
6/20	月									
21	火									
22	水									
23	木									
24	金									

平成23年度時間割(看護学専攻:第1学年)

	⑫	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
6/27	月										
28	火										
29	水										
30	木										
7/1	金										

	⑬	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
7/4	月										
5	火										
6	水										
7	木										
8	金										

	⑭	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
7/11	月										
12	火										
13	水										
14	木										
15	金										

	⑮	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
7/18	月	海の日									
19	火										
20	水										
21	木										
22	金										

	⑯	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
7/25	月										
26	火										
27	水										
28	木										
29	金										

	⑰	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
8/1	月	基礎看護学実習 I (8/1~5)【医学部・歯学部附属病院、3号館18階保健衛生学講義室1、3号館17階看護学実習室1・2・症例検討室】									
2	火										
3	水										
4	木										
5	金										

平成23年度時間割(看護学専攻:第1学年)

(後期)

	①	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
10/3	月										
4	火					解剖学 I (1)	1	解剖学 I (2)	1	看護心理学(1)	1
5	水										
6	木										
7	金										

	②	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
10/10	月	体育の日									
11	火					解剖学 I (3)	共用2	解剖学 I (4)	共用2	看護心理学(2)	共用2
12	水	創立記念日									
13	木	臨時休業									
14	金	臨時休業									

	③	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
10/17	月										
18	火					解剖学 I (5)	共用2	解剖学 I (6)	共用2	看護心理学(3)	共用2
19	水										
20	木	臨時休業(解剖体追悼式)									
21	金										

	④	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
10/24	月										
25	火					解剖学 I (7)	共用2	解剖学 I (8)	共用2	看護心理学(4)	共用2
26	水										
27	木										
28	金										

	⑤	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
10/31	月										
11/1	火					解剖学 I (9)	共用2	解剖学 I (10)	共用2	看護心理学(5)	共用2
2	水										
3	木	文化の日									
4	金										

平成23年度時間割(看護学専攻:第1学年)

⑥	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
11/7	月									
8	火				解剖学 I (11)	共用2	解剖学 I (12)	共用2	看護心理学(6)	共用2
9	水									
10	木									
11	金									

⑦	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
11/14	月									
15	火				解剖学 I (13)	共用2	解剖学 I (14)	共用2	看護心理学(7)	共用2
16	水									
17	木									
18	金									

⑧	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
11/21	月									
22	火				解剖学 I (15)	共用2	解剖学 I (16)	共用2	看護心理学(8)	共用2
23	水	勤労感謝の日								
24	木									
25	金									

⑨	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
11/28	月									
29	火				看護の統合と実践 I (1)	共用2	看護の統合と実践 I (2)	共用2		
30	水									
12/1	木									
2	金									

⑩	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
12/5	月									
6	火				看護の統合と実践 I (3)	共用2	看護の統合と実践 I (4)	共用2		
7	水									
8	木									
9	金									

⑪	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
12/12	月									
13	火				看護の統合と実践 I (5)	共用2	看護の統合と実践 I (6)	共用2		
14	水									
15	木									
16	金									

⑫	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室
12/19	月									
20	火				看護の統合と実践 I (7)	共用2	看護の統合と実践 I (8)	共用2		
21	水									
22	木									

平成23年度時間割(看護学専攻:第1学年)

	⑫	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室	
1/9	月	成人の日										
10	火					看護の統合と実践 I (9)	共用2	看護の統合と実践 I (10)	共用2			
11	水											
12	木											
13	金											
	⑬	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室	
1/16	月											
17	火					看護の統合と実践 I (11)	共用2	看護の統合と実践 I (12)	共用2			
18	水											
19	木											
20	金											
	⑭	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室	
1/23	月											
24	火					看護の統合と実践 I (13)	2	看護の統合と実践 I (14)	2			
25	水											
26	木											
27	金											
	⑮	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室	
1/30	月											
31	火					看護の統合と実践 I (15)	2	看護の統合と実践 I (16)	2			
2/1	水											
2	木											
3	金											
	⑯	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室	
2/6	月											
7	火											
8	水											
9	木											
10	金											
	⑰	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	12:50~14:20	講義室	14:30~16:00	講義室	16:20~17:50	講義室	
2/13	月	後期定期試験										
14	火	後期定期試験										
15	水	後期定期試験										
16	木	後期定期試験										
17	金	後期定期試験										

解剖学 (I)

Anatomy (I)

星 治

1 科目の概要

解剖学は人体を構成する体の仕組みを細胞から器官レベルについて探求する学問で、生命科学の基礎となる重要な学問である。

2 教育方針・教育目標

人体を構成している細胞から器官にいたる各单位について、それらの基本的な形態と構造について理解させる。さらに看護学を学ぶための学問体系の基礎をなす人体の構造を講義のみならず、実物観察にも主眼をおいて理解させることが教育方針である。

3 教育内容

人体を各系統に分け、それらを構成する各器官の形態と構造について講義し、基礎的な人体解剖学の概念を十分に理解できるように努める。

回数	項目	内容	担当者
1,2	総論	人体構造学とはなにか、人体の構成単位、器官とその系統、細胞、組織とその分類	星
3	発生学	ヒトの発生、受精から出生までのあらまし	〃
4 5	骨格系	骨組織、骨の発生、骨の連結(靭帯、関節)、脳頭蓋、顔面頭蓋、脊柱、胸郭、骨盤、上・下肢帯骨、上肢・下肢骨	〃
6 7	筋系	筋の形態と構造、筋膜、顔面筋、咀嚼筋、鰓弓(頸部)筋、体幹筋(腹筋・背筋)、横隔膜、骨盤隔膜、上・下肢帯筋、上肢・下肢筋	〃
8 9 10	脈管系	胎生時の循環系、血管の構造、心臓の構造、刺激伝導系、心膜腔、動脈系(肺循環・体循環)、静脈系、リンパ系、	〃
11 12	呼吸器系	鼻、鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺の構造、胸腔、縦隔	〃
13 14	消化器系	消化管の構造、口腔、咽頭、食道、胃、肝臓、胆嚢、膵臓、小腸、大腸、肛門、腹腔、骨盤腔	〃
15	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、卵巣、精巣、脾臓、胸腺	〃
16	生殖器系(男性、女性)	生殖器の発生、精巣、精管、前立腺、陰茎、陰嚢、精巣下行、卵巣、卵管、子宮、膣、外陰部、骨盤の構成、骨盤腔	〃

[単位] 必修2単位

[場所] 保健衛生学講義室1(3号館18階)、共用講義室2(M&Dタワー2階)

4 教科書・参考書

教科書 佐藤健次：解剖学，医歯薬出版 第2版

参考書 解剖学用語，日本解剖学会，丸善

佐藤達夫訳：人体解剖学カラーアトラス，南江堂

越智淳三訳：解剖学アトラス，文光堂

藤田恒夫，藤田尚男：標準組織学，総論，各論，医学書院

藤田恒夫：入門人体解剖学，南江堂

5 他科目との関連

人体の様々な病態を理解するためには、その体の構造を熟知しなければならない。このため解剖学は他の多くの科目と関連している。特に、生理学，病理学，病態学とは密接な関連がある。

6 受講上の注意

時間数が限られているので、講義に関連した領域について各自、予習、復習することが必要である。特に、人体に関する様々な基本的事項について、まず記憶し、理解することが求められる。

7 成績評価方法

筆記試験を行う。

基礎看護学 I

Fundamental Nursing I

齋藤 や よ い

1 科目の概要

基礎看護学では看護学専門科目に共通する知識と技術を学ぶ。基礎看護学 I は、看護学概論として、看護の本質となる「看護」「健康」「人間」「環境」の概念を理解し、看護の機能と役割、対象の全人的理解のための基礎的知識を養う。

2 教育方針・教育目標

看護の共通基盤となる看護の理論、概念・目的や、看護実践能力の基礎となる人間観、生活観、社会観、健康観、自然観とそれらの関連性について総合的に理解する。また、看護独自の機能と、保健医療チームの中での看護の役割と連携について理解する。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1	4/12(火) 4	オリエンテーション	看護と看護学	齋藤
2	4/12(火) 5	看護の概念	看護の概念と対象の理解	齋藤
3	4/19(火) 3	健康と環境	看護の機能 健康と環境の概念	齋藤
4	4/19(火) 4	看護の歴史	看護の歴史と今後の展望	齋藤
5	4/26(火) 3	看護理論	看護理論の分類 看護モデルの比較	齋藤
6	4/26(火) 4	看護ニーズ	看護の諸理論	齋藤
7	5/10(火) 3	看護技術	看護技術の定義 看護技術の定義と構成する要素と内容	齋藤
8	5/10(火) 4	保健医療の概念	保健医療の概念と看護活動—看護の実践の場	齋藤

[単位] 必修 1 単位

[場所] M&D タワー 2階 共用講義室 2

4 教科書・参考書

V. ヘンダーソン (湯楨ます, 他訳) : 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会
高橋照子 : 看護学原論, 南江堂, 2009
その他テーマに関連した参考図書を随時紹介

5 他科目との関連

看護学の独自性や看護の専門機能を理解するために、学習の基礎となる教養の自然科学系、社会学系の科目、特に人間科学、社会学、心理学、哲学などの学習が望ましい。

6 受講上の注意

看護学の基礎となる理論や概念を学ぶために、柔軟な思考力が必要となる。これまでの学習経験や生活体験、社会体験を踏まえ、幅広い分野の書物に触れ、社会情勢にも関心を持つことが望ましい。

7 成績評価方法

単元ごとのミニレポート、課題レポート、および出席状況により評価する。

基礎看護学実習 I (看護早期体験実習)

Early Exposure Practice

齋藤 や よ い

1 実習の概要・目的

専門科目の学習の初期において、医療の現場を知り、健康障害をもった人々と直接関わることを通して、看護の機能と役割を理解する。また、本実習を通して、今後の学習への動機づけとする。

2 教育目標

- 1) 大学病院の概要と機能について知る。
- 2) 医学部、および歯学部附属病院の理念と病院組織の概要を知る。
- 3) 看護部の理念と基本方針を知る。
- 4) 病院の機能からみた構造上の特徴と、病院内での各部門の配置を知る。
- 5) 療養環境としての病棟・病室環境の特徴を知る。
- 6) 看護活動の場と看護の実際を知る。
- 7) 入院患者の特徴を知る。
- 8) 専門職の役割・連携を知る。
- 9) 学生間で体験を共有する。

3 実習内容・方法等

〔実習期間〕 : 8月1日(月) ~ 8月5日(金)

〔場 所〕 : 保健衛生学講義室1 (3号館18階)、看護実習室1および2 (3号館17階)
医学部附属病院および歯学部附属病院

〔単 位〕 : 必修1単位

(詳細については、後日配布する実習要項に提示)

看護心理学

Nursing Psychology

宮本真巳

1 科目の概要

心の健康と精神的援助の全容を概観し、看護実践の心理学的な基礎を築く。

2 教育方針・教育目標

心のしくみと働きについて理解を深めると共に、健康上の問題を抱える人々に精神的な援助を提供する上で欠くことのできない基本的な知識、技術、態度を養うことを学習の目標とする。そこでまず、人格診断、心理測定、自己分析の方法を自分自身に適用してみる。さらに、日常的に体験しているストレスや生活習慣について吟味し、自分自身の心と身体を素材にして健康と不健康、適応と不適応を区別できる判断力を磨く。また、リラクゼーション技法、呼吸法等、心の健康の回復・維持・増進に有効と考えられる方法の一端を体験し、精神的な健康をめぐる援助について視野を広げる。こうした学習を通じて、セルフケア支援としての看護について基本的な考え方を身につける。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1	10/4(火) 5	心のしくみと心の健康	心のしくみと働き(知情意の区別と関連性)、人格の構造、人格と精神状態の評価方法(心理測定法)	宮本真巳
2	10/11(火) 5	環境への適応と不適応(1)	人間と環境との相互作用(応答的な環境)、対人関係とコミュニケーション、心理的ストレスの発生、ストレス対処の過程と類型	宮本真巳
3	10/18(火) 5	環境への適応と不適応(2)	心的外傷(トラウマ)の発生、生活習慣と嗜癖行動(アディクション)、暴力的な対人関係(虐待、いじめ、DV)、精神疾患と脆弱性	上岡陽江
4	10/25(火) 5	心と人格の発達	エリクソンの発達図式、母子相互作用と乳幼児期の発達、青年期の挫折とアイデンティティ形成、中高年の危機と生涯発達	渡邊敦子
5	11/1(火) 5	ストレス・マネジメント	代替療法と統合医療(ホリスティックメディスン)、リラクゼーション技法(呼吸法、漸進的筋弛緩法)	宮本真巳
6	11/8(火) 5	体験としての病	病気という体験(がん患者とその家族を中心に)、当事者同士の支え合い、病気の受容、病と共に生きるということ	沖原幸江
7	11/15(火) 5	感性を磨く技法(1)	異和感の対自化、感情活用能力、カウンセリングと自己一致、フォーカシング、問題の明確化、意思決定支援	宮本真巳
8	11/22(火) 5	感性を磨く技法(2)	看護場面の再構成法(臨地実習の体験)、援助関係の形成、セルフケア支援としての看護	宮本真巳

[単位] 選択1単位

[場所] 保健衛生学講義室1(3号館18階)、共用講義室2(M&Dタワー)

4 教科書・参考書

教科書(いずれも3学年まで使用)

日本精神科看護技術協会監修「改定 精神看護学」中央法規出版、2006

宮本真巳「感性を磨く技法1 看護場面の再構成」日本看護協会出版会、1995

参考書

宮本真巳「感性を磨く技法2 異和感と援助者アイデンティティ」日本看護協会出版会、1996

宮本真巳「感性を磨く技法3 セルフケアを援助する」日本看護協会出版会、1996

服部祥子「生涯人間発達論」医学書院、2000

リチャード・ラザルス(本明寛他訳)「ストレスの心理学」実務教育出版、1991

ユージン・ジェンドリン(村山正治訳)「フォーカシング」福村出版、1982

ダニエル・ゴールマン(土屋京子訳)「EQ—こころの知能指数」講談社、1995

5 他科目との関連

基礎看護学，精神看護学，精神看護学演習等の科目と関連する。

6 受講上の注意

自分自身の心と身体を学習素材とした体験学習を通じて，自己の内面に生じてくるどんな反応も“やさしく”受け入れてみることを糸口にして、看護職、医療職に求められる姿勢を築いて欲しい。

7 成績評価方法

人間理解，自己理解，援助関係、セルフケア等のテーマに関するレポートによって評価する。

看護の統合と実践 I

Integration of acquaintances for nursing practice I

深堀 浩樹

1 科目の概要

看護学の各分野で学ぶ内容の基礎として、様々な領域の看護学・看護実践、および多職種の活動を知り、広い視野に基づき看護を学んでいくための基本的な態度を身につける。

2 教育方針・教育目標

- 1) 様々な場面における看護のあり方について知る。
- 2) 生涯に渡り看護に携わっていくための態度を養う。

3 教育内容

回	日時	内容	担当者
1	11/29(火) 3限	オリエンテーション / 様々な領域の看護学 ①	深堀
2	11/29(火) 4限	様々な領域の看護学 ②, ③	保健衛生学科教員
3	12/6(火) 3限	様々な領域の看護学 ④, ⑤	保健衛生学科教員
4	12/6(火) 4限	看護学における資料・文献の探し方 ①	図書館司書
5	12/13(火) 3限	様々な領域の看護学 ⑥, ⑦	保健衛生学科教員
6	12/13(火) 4限	看護学における資料・文献の探し方 ②	図書館司書
7	12/20(火) 3限	様々な領域の看護学 ⑧, ⑨	保健衛生学科教員
8	12/20(火) 4限	部門見学・インタビュー内容の検討(グループワーク)	深堀
9	1/10(火) 3限	起業した看護職	中友美 (株)A-Line
10	1/10(火) 4限	災害看護	石田千絵 (昭和大学)
11	1/17(火) 3限	国際看護	小黒道子 (聖路加看護大学)
12	1/17(火) 4限	看護・医療職への部門見学・インタビュー (グループ別)	深堀
13	1/24(火) 3限	発表資料作成 (グループワーク)	深堀
14	1/24(火) 4限		
15	1/31(火) 3限	プレゼンテーション	深堀
16	1/31(火) 4限		

注1) 日時・内容は変更する場合がありますので、掲示に注意すること。

注2) 保健衛生学科教員とは各講座(地域保健看護学、在宅ケア看護学、リプロダクティブヘルス看護学、精神保健看護学、小児・家族発達看護学、先端侵襲緩和ケア看護学、高齢者看護・ケアシステム開発学、健康教育学、国際看護開発学)の教員のことを示す。

[単位] 必修2単位

[場所] M&Dタワー 2階 共用講義室2

(PCを使う場合はM&Dタワー 3階 情報検索室。日時は別途連絡)

[時間] 3限 12:50-14:20 4限 14:30-16:00

4 教科書・参考書(予定)

- ・授業において必要な参考書は提示する。

5 他科目との関連

「看護の統合と実践」は、他の看護の専門分野と密接なかわりを持つ。今回学んだ内容は、今後学習予定の看護学の各科目と、将来的に関連付けられていくことが望ましい。

6 受講上の注意

内容・日時・場所については変更が生じうるので適宜掲示で確認すること。

7 成績評価方法

レポート、出席により評価する。

第 2 学年

平成23年度時間割(看護学専攻:第2学年)

(前期)

	①	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
4/5	火					学年ガイダンス(共用講義室2)終了後専攻別ガイダンス(保健衛生学講義室4)					
6	水	微生物学(1)	5号館 4階講義室	病理学(1)	5号館 4階講義室	英文講読 I (1)	4				
7	木	解剖学(1)	1	解剖学(2)	1	基礎看護学 II (1)	4	基礎看護学 II (2)	4		
8	金	生化学(1)	1	成人看護学 I (1)	4	基礎看護学演習 I (1)	4	基礎看護学演習 I (2)	4		
	②	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
4/11	月	解剖学(3)	共用2	解剖学(4)	共用2	生化学(2)	共用2	病態学(1)	共用2	病態学(2)	共用2
12	火	解剖学(5)	共用2	解剖学(6)	共用2						
13	水	微生物学(2)	共用2	病理学(2)	共用2	英文講読 I (2)	4				
14	木	解剖学(7)	共用2	解剖学(8)	共用2	基礎看護学演習 I (3)	4	基礎看護学演習 I (4)	4	基礎看護学演習 I (5)	4
15	金	生化学(3)	共用2			基礎看護学演習 I (6)	4	基礎看護学演習 I (7)	4		
	③	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
4/18	月	解剖学(9)	共用2	解剖学(10)	共用2	生化学(4)	共用2	病態学(3)	共用2	病態学(4)	共用2
19	火	解剖学(11)	共用2	解剖学(12)	共用2						
20	水	微生物学(3)	共用2	病理学(3)	共用2	英文講読 I (3)	4				
21	木	解剖学(13)	共用2	解剖学(14)	共用2	基礎看護学 II (3)	4	基礎看護学 II (4)	4		
22	金	生化学(5)	共用2	成人看護学 I (2)	4	基礎看護学 II (5)	4	基礎看護学演習 I (8)	4	基礎看護学演習 I (9)	4
	④	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
4/25	月	解剖学(15)	共用2	解剖学(16)	共用2	生化学(6)	共用2				
26	火	解剖学(17)	共用2	解剖学(18)	共用2	成人看護学 I (3)	4	成人看護学 I (4)	4		
27	水	微生物学(4)	共用2	病理学(4)	共用2	英文講読 I (4)	4	病態学(5)	4	病態学(6)	4
28	木	解剖学(19)	共用2	解剖学(20)	共用2	基礎看護学演習 I (10)	4	基礎看護学演習 I (11)	4		
29	金	昭和の日									
	⑤	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/2	月	解剖学(21)	共用2	解剖学(22)	共用2	生化学(7)	共用2				
3	火	憲法記念日									
4	水	みどりの日									
5	木	こどもの日									
6	金	生化学(8)	共用2			基礎看護学 II (6)	4	基礎看護学 II (7)	4	基礎看護学演習 I (12)	4
	⑥	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/9	月	解剖学(23)	共用2	解剖学(24)	共用2	生化学(9)	共用2	病態学(7)	共用2	病態学(8)	共用2
10	火	生理学(1)	共用2	生理学(2)	共用2	専門基礎合同演習(1)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(2)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(3)	7 F 実習室
11	水	微生物学(5)	共用2	病理学(5)	共用2	英文講読 I (5)	4				
12	木	生理学(3)	共用2	生理学(4)	共用2	基礎看護学演習 I (13)	4	基礎看護学演習 I (14)	4	基礎看護学演習 I (15)	4
13	金	生化学(10)	共用2	成人看護学 I (5)	4	基礎看護学演習 I (16)	4	基礎看護学演習 I (17)	4		

平成23年度時間割(看護学専攻:第2学年)

⑦		8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/16	月	生理学(5)	共用2	生理学(6)	共用2	生化学(11)	共用2	病態学(9)	共用2	病態学(10)	共用2
17	火	生理学(7)	共用2	生理学(8)	共用2	専門基礎合同演習(4)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(5)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(6)	7 F 実習室
18	水	微生物学(6)	共用2	病理学(6)	共用2	英文講読 I (6)	4				
19	木	生理学(9)	共用2	生理学(10)	共用2	基礎看護学Ⅲ(1)	4	基礎看護学Ⅲ(2)	4	基礎看護学Ⅲ(3)	4
20	金	生化学(12)	共用2	成人看護学 I (6)	4	基礎看護学Ⅱ(8)	4	基礎看護学演習 I (18)	4		

⑧		8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/23	月	生理学(11)	共用2	生理学(12)	共用2	生化学(13)	共用2				
24	火	生理学(13)	共用2	生理学(14)	共用2	専門基礎合同演習(7)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(8)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(9)	7 F 実習室
25	水	微生物学(7)	共用2	病理学(7)	共用2	英文講読 I (7)	4	病態学(11)	4	病態学(12)	4
26	木	生理学(15)	共用2	生理学(16)	共用2	基礎看護学Ⅲ(4)	4	基礎看護学Ⅲ(5)	4	基礎看護学演習 I (19)	4
27	金	生化学(14)	共用2	成人看護学 I (7)	4	基礎看護学Ⅱ(9)	4	基礎看護学Ⅱ(10)	4		

⑨		8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/30	月	生理学(17)	1	生理学(18)	1	生化学(15)	1	病態学(13)	1		
31	火	生理学(19)	1	生理学(20)	1	専門基礎合同演習(10)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(11)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(12)	7 F 実習室
6/1	水	微生物学(8)	症例 検討	病理学(8)	症例 検討	英文講読 I (8)	4	病態学(14)	4		
2	木	生理学(21)	1	生理学(22)	1	基礎看護学演習 I (20)	4	基礎看護学演習 I (21)	4	基礎看護学演習 I (22)	4
3	金	成人看護学 I (8)	4	成人看護学 I (9)	4	小児看護学 I (1)	4	小児看護学 I (2)	4		

⑩		8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
6/6	月					病態学(15)	共用2	病態学(16)	共用2		
7	火	生理学(23)	共用2	生理学(24)	共用2	専門基礎合同演習(13)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(14)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(15)	7 F 実習室
8	水					英文講読 I (9)	4	病態学(17)	4		
9	木					基礎看護学演習 I (23)	4	基礎看護学演習 I (24)	4	基礎看護学演習 I (25)	4
10	金	成人看護学 I (10)	4	成人看護学 I (11)	4	小児看護学 I (3)	4	小児看護学 I (4)	4	小児看護学 I (5)	4

⑪		8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
6/13	月			専門基礎合同演習(16)	7 F 実習室						
14	火					専門基礎合同演習(17)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(18)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(19)	7 F 実習室
15	水			英文講読 I (10)	4	英文講読 I (11)	4	病態学(18)	4	病態学(19)	4
16	木					基礎看護学Ⅱ(11)	4	基礎看護学演習 I (26)	4	基礎看護学演習 I (27)	4
17	金			成人看護学 I (12)	4	小児看護学 I (6)	4	小児看護学 I (7)	4	小児看護学 I (8)	4

⑫		8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
6/20	月					病態学(20)	共用2	病態学(21)	共用2		
21	火					専門基礎合同演習(20)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(21)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(22)	7 F 実習室
22	水			英文講読 I (12)	4	英文講読 I (13)	4				
23	木					基礎看護学Ⅱ(12)	4	基礎看護学Ⅱ(13)	4	基礎看護学演習 I (28)	4
24	金	成人看護学 I (13)	4	成人看護学 I (14)	4	小児看護学 I (9)	4	小児看護学 I (10)	4		

平成23年度時間割(看護学専攻:第2学年)

	⑬	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
6/27	月					病態学(22)	共用2	病態学(23)	共用2	病態学(24)	共用2
28	火					専門基礎合同演習(23)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(24)	7 F 実習室	専門基礎合同演習(25)	7 F 実習室
29	水					英文講読 I (14)	4				
30	木					基礎看護学演習 I (29)	4	基礎看護学演習 I (30)	4	基礎看護学演習 I (31)	4
7/1	金		成人看護学 I (15)	4							

	⑭	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
7/4	月					病態学(25)	共用2	病態学(26)	共用2	病態学(27)	共用2
5	火										
6	水					英文講読 I (15)	4				
7	木					基礎看護学演習 I (32)	4	基礎看護学演習 I (33)	4	基礎看護学演習 I (34)	4
8	金										

	⑮	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
7/11	月					病態学(28)	共用2	病態学(29)	共用2	病態学(30)	共用2
12	火	補講									
13	水	補講									
14	木	補講									
15	金	補講									

	①	8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50		
7/18	月	海の日										
19	火	前期定期試験										
20	水	前期定期試験										
21	木	前期定期試験										
22	金	前期定期試験				TOEFL/ITP試験						

	②	8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50	
7/25	月	前期定期試験									
26	火	前期定期試験									
27	水	前期定期試験									
28	木	前期定期試験									
29	金	前期定期試験									

		8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50	
8/1	月	夏季休業 ~9/7(水)									

前期定期試験 7/ 19(火)~7/25(月) ※TOEFL/ITP試験:7/22(金)13:00~15:50

夏季休業 8/1(月)~9/7(水) 追試・再試7/26(火)~7/29(金)

平成23年度時間割(看護学専攻:第2学年)

(後期)

	①	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
9/8	木	基礎看護学実習Ⅱ									4	
9	金	基礎看護学実習Ⅱ									4	
9/12	②	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
	月	基礎看護学実習Ⅱ									4	
	13	火	基礎看護学実習Ⅱ									4
	14	水	基礎看護学実習Ⅱ									4
	15	木	基礎看護学実習Ⅱ									4
	16	金	基礎看護学実習Ⅱ									4
9/19	③	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
	月	敬老の日										
	20	火	基礎看護学実習Ⅱ		4							
	21	水	基礎看護学実習Ⅱ		4	症例検討室						
	22	木	基礎看護学実習Ⅱ		4							
	23	金	秋分の日									
9/26	④	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
	月											
	27	火										
	28	水										
	29	木										
	30	金										
10/3	⑤	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
	月					病態学(31)	4	病態学(32)	4			
	4	火		栄養学(1)	4	小児看護学演習Ⅰ(1)	4	小児看護学演習Ⅰ(2)	4			
	5	水										
	6	木		在宅看護学Ⅰ(1)	4	精神看護学(1)	4	精神看護学(2)	4			
	7	金										
10/10	⑥	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
	月	体育の日										
	11	火										
	12	水	創立記念日									
	13	木	臨時休業									
	14	金	臨時休業									
10/17	⑦	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
	月					病態学(33)	4	病態学(34)	4	病態学(35)	4	
	18	火	栄養学(2)	4	成人看護学Ⅱ(1)	4	小児看護学演習Ⅰ(3)	4	小児看護学演習Ⅰ(4)	4		
	19	水										
	20	木	臨時休業(解剖体追悼式)									
	21	金		成人看護学Ⅱ(2)	4	基礎看護学Ⅲ(6)	4	基礎看護学Ⅲ(7)	4			
10/24	⑧	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
	月					病態学(36)	4	病態学(37)	4			
	25	火	栄養学(3)	4	成人看護学Ⅱ(3)	4	小児看護学演習Ⅰ(5)	4	小児看護学演習Ⅰ(6)	4		
	26	水	薬理学Ⅰ(1)	共用2	薬理学Ⅰ(2)	共用2						
	27	木			在宅看護学Ⅰ(2)	4	在宅看護学Ⅰ(3)	4				
	28	金										
10/31	⑨	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
	月					病態学(38)	4	病態学(39)	4			
	11/1	火	栄養学(4)	4	成人看護学Ⅱ(4)	4	小児看護学演習Ⅰ(7)	4	小児看護学演習Ⅰ(8)	4		
	2	水	薬理学Ⅰ(3)	共用2	薬理学Ⅰ(4)	共用2						
	3	木	文化の日									
	4	金		成人看護学Ⅱ(5)	4							

平成23年度時間割(看護学専攻:第2学年)

	⑩	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
11/7	月					病態学(40)	4	病態学(41)	4		
8	火	栄養学(5)	4	成人看護学Ⅱ(6)	4	小児看護学演習Ⅰ(9)	4	小児看護学演習Ⅰ(10)	4		
9	水	薬理学Ⅰ(5)	共用2	薬理学Ⅰ(6)	共用2						
10	木			在宅看護学Ⅰ(4)	4						
11	金			成人看護学Ⅱ(7)	4	基礎看護学演習Ⅱ(1)	4	基礎看護学演習Ⅱ(2)	4	基礎看護学演習Ⅱ(3)	4

	⑪	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
11/14	月					病態学(42)	4	病態学(43)	4		
15	火	栄養学(6)	4	栄養学(7)	4	小児看護学演習Ⅰ(11)	4	小児看護学演習Ⅰ(12)	4		
16	水	薬理学Ⅰ(7)	共用2	薬理学Ⅰ(8)	共用2						
17	木	在宅看護学Ⅰ(5)	4	在宅看護学Ⅰ(6)	4	精神看護学(3)	4	精神看護学(4)	4		
17	木	在宅看護学Ⅰ(5)	4	在宅看護学Ⅰ(6)	4	精神看護学(3)	4	精神看護学(4)	4		

	⑫	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
11/21	月					病態学(44)	4	病態学(45)	4		
22	火										
23	水	勤労感謝の日									
24	木	在宅看護学Ⅰ(7)	4	在宅看護学Ⅰ(8)	4	精神看護学(5)	4	精神看護学(6)	4		
25	金			成人看護学Ⅱ(9)	4	基礎看護学演習Ⅱ(7)	4	基礎看護学演習Ⅱ(8)	4	基礎看護学演習Ⅱ(9)	4

	⑬	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
11/28	月					病態学(46)	4	病態学(47)	4	病態学(48)	4
29	火	栄養学(8)	4	成人看護学Ⅱ(10)	4	小児看護学演習Ⅰ(13)	4	小児看護学演習Ⅰ(14)	4		
30	水	薬理学Ⅱ(1)	共用2	薬理学Ⅱ(2)	共用2						
12/1	木					精神看護学(7)	4	精神看護学(8)	4		
2	金										

	⑭	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
12/5	月					病態学(49)	4	病態学(50)	4	病態学(51)	4
6	火			成人看護学Ⅱ(11)	4	小児看護学演習Ⅰ(15)	4	小児看護学演習Ⅰ(16)	4		
7	水	薬理学Ⅱ(3)	共用2	薬理学Ⅱ(4)	共用2						
8	木					精神看護学(9)	4	精神看護学(10)	4		
9	金					基礎看護学Ⅲ(8)	4	基礎看護学Ⅲ(9)	4		

	⑮	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
12/12	月										
13	火			成人看護学Ⅱ(12)	4						
14	水										
15	木					精神看護学(11)	4	精神看護学(12)	4		
16	金							基礎看護学Ⅲ(10)	4	基礎看護学Ⅲ(11)	4

	⑯	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
12/19	月										
20	火			成人看護学Ⅱ(13)	4						
21	水										
22	木										

冬季休業 12/23(金)~1/4(水)

平成23年度時間割(看護学専攻:第2学年)

①	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
1/5	木				精神看護学(13)	4	精神看護学(14)	4		
6	金				医療情報学(1)	情報検査室	医療情報学(2)	情報検査室		
②	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
1/9	月	成人の日								
10	火									
11	水	薬理学Ⅱ(5)	共用2	薬理学Ⅱ(6)	共用2					
12	木				精神看護学(15)	4	精神看護学(16)	4		
13	金		成人看護学Ⅱ(14)	4	医療情報学(3)	情報検査室	医療情報学(4)	情報検査室		
③	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
1/16	月									
17	火									
18	水	薬理学Ⅱ(7)	共用2	薬理学Ⅱ(8)	共用2					
19	木				基礎看護学演習Ⅱ(10)	4	基礎看護学演習Ⅱ(11)	4	基礎看護学演習Ⅱ(12)	4
20	金		成人看護学Ⅱ(15)	4	医療情報学(5)	情報検査室	医療情報学(6)	情報検査室		
④	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
1/23	月									
24	火									
25	水									
26	木				基礎看護学演習Ⅱ(13)	4	基礎看護学演習Ⅱ(14)	4	基礎看護学演習Ⅱ(15)	4
27	金				医療情報学(7)	情報検査室	医療情報学(8)	情報検査室		
①	8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50	
1/30	月	後期定期試験								
31	火	後期定期試験								
2/1	水	後期定期試験								
2	木	後期定期試験								
3	金	後期定期試験								
②	8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50	
2/6	月	後期定期試験								
7	火	後期定期試験								
8	水	後期定期試験								
9	木	後期定期試験								
10	金	後期定期試験								
③	8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50	
2/13	月	補講・再試								
14	火	補講・再試								
15	水	補講・再試								
16	木	補講・再試								
17	金	補講・再試								

後期定期試験 1/30(月)~2/10(木)

補講・再試 2/13(月)~2/17(金)

春季休業 2/20(月)~

解剖学

Anatomy

星 治

1 科目の概要

解剖学は人体を構成する体の仕組みを細胞から器官レベルについて探求する学問で、生命科学の基礎となる重要な学問である。

2 教育方針・教育目標

人体を構成している細胞から器官にいたる各単位について、それらの基本的な形態と構造について理解させる。さらに看護学を学ぶための学問体系の基礎をなす人体の構造を講義のみならず、実物観察にも主眼をおいて理解させることが教育方針である。

3 教育内容

人体を各系統に分け、それらを構成する各器官の形態と構造について講義し、基礎的な人体解剖学の概念を十分に理解できるように努める。

回数	項目	内容	担当者
1,2	総論	人体構造学とはなにか、人体の構成単位、器官とその系統、細胞、組織とその分類	星 治
3	発生学	ヒトの発生、受精から出生までのあらまし	〃
4 5	骨格系	骨組織、骨の発生、骨の連結(靭帯、関節)、脳頭蓋、顔面頭蓋、脊柱、胸郭、骨盤、上・下肢帯骨、上肢・下肢骨	〃
6 7	筋系	筋の形態と構造、筋膜、顔面筋、咀嚼筋、鰓弓(頸部)筋、体幹筋(腹筋・背筋)、横隔膜、骨盤隔膜、上・下肢帯筋、上肢・下肢筋	〃
8 9 10	脈管系	胎生時の循環系、血管の構造、心臓の構造、刺激伝導系、心膜腔、動脈系(肺循環・体循環)、静脈系、リンパ系、	〃
11 12	呼吸器系	鼻、鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺の構造、胸腔、縦隔	〃
13 14	消化器系	消化管の構造、口腔、咽頭、食道、胃、肝臓、胆嚢、膵臓、小腸、大腸、肛門、腹腔、骨盤腔	〃
15	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、卵巣、精巣、脾臓、胸腺	〃
16,17	生殖器系(男性、女性)	生殖器の発生、精巣、精管、前立腺、陰茎、陰囊、精巣下行、卵巣、卵管、子宮、膣、外陰部、骨盤の構成、骨盤腔	〃
18	泌尿器系	泌尿器の発生、腎臓、尿管、膀胱、男性尿道、女性尿道	〃
19 20 21 22	神経系(中枢神経系、末梢神経系)	神経系の構造、中枢神経系、脳と脊髄、大脳、小脳、間脳、中脳、橋、延髄、脳幹、脳室、脳脊髄膜、伝導路、末梢神経系、前根と後根、脳神経、脊髄神経、自律神経系、交感神経系、副交感神経系	〃
23 24	感覚器系	眼球とその付属器、聴覚器、平衡覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚(乳腺)	〃

[単位] 必修3単位

[場所] 共用講義室2 (M&Dタワー2階)、保健衛生学講義室1 (3号館18階)等

4 教科書・参考書

教科書 佐藤健次：解剖学，医歯薬出版 第2版

参考書 解剖学用語，日本解剖学会，丸善

佐藤達夫訳：人体解剖学カラーアトラス，南江堂

越智淳三訳：解剖学アトラス，文光堂

藤田恒夫，藤田尚男：標準組織学，総論，各論，医学書院

5 他科目との関連

人体の様々な病態を理解するためには，その体の構造を熟知しなければならない。このため解剖学は他の多くの科目と関連している。特に，生理学，病理学，病態学とは密接な関連がある。

6 受講上の注意

時間数が限られているので，講義に関連した領域について各自，予習，復習することが必要である。特に，人体に関する様々な基本的事項について，まず記憶し，理解することが求められる。

7 成績評価方法

講義：前期の試験期間に筆記試験を行う。

生 理 学

Physiology

星 治

1 科目の概要

生命のあるもの、すなわち生体の生命現象のメカニズムを自然科学の立場から実験とその観察に基づいて究明する学問。

2 教育方針・教育目標

生体の働きについてのメカニズムの基本的事項を、解剖学の知識を基盤にヒトの体の機能を中心に理解させることを目標とする。臨床医学の基盤として正常な人体の機能を正しく理解することは疾病により人体機能の変化を理解する上で、看護学にとって極めて大切なことである。

3 教育内容

生体の機能は基本的機能と高次機能に大別して考えられている。基本的機能は動物と植物の両者に共通に認められる機能を意味し、呼吸、血液循環、消化と吸収、代謝、排泄、内分泌等の生体の維持に関する機能がこれに属する。一方、高次機能は動物において発達、特殊化した機能を意味し、運動、神経、感覚等がこれに属する。これらの生体の機能について順次、要点を講義する。

【生理検査学講義 (I)】

回数	項目	内 容	担当者
1	総論	生理学の概念、意義	星 治
2,3	体液と血液と生体防御	体液、血液とその成分、血液型、リンパ液、組織液、細胞の機能、生体防御	〃
4,5	心臓と血液循環の仕組み	心臓の機能、血液循環、血管の構造、血流の調節、血圧、動脈系循環、冠状循環、脳循環、腹腔循環、静脈系の循環、リンパ循環、循環器系の検査 (心電図、心音図、脈波、心臓エコー)	〃
6,7	呼吸運動、ガス交換の仕組み	呼吸器の機能、呼吸運動 (胸式、腹式)、呼吸の調節、呼吸器系の検査 (呼吸機能、ガス代謝、血液ガス)	〃
8,9	消化、吸収、排泄	咀嚼機能、嚥下作用、消化腺の分泌、消化液の酵素とその作用、栄養吸収と水分吸収、排便の仕組み、腸管運動、消化器系の検査 (腹部エコー)	〃
10,11	栄養と代謝	栄養素、糖質代謝、脂質代謝、蛋白質代謝、エネルギー代謝、基礎代謝、補助栄養素、酸塩基平衡	〃
12,13	尿の生成と排泄	腎臓の機能と尿の生成、排尿の仕組み	〃
14	体温調節	体温、熱の産生、放熱、発汗の仕組み	〃
15	内分泌	ホルモン分泌器官、各種ホルモンの作用	〃
16	生殖	男性生殖機能 (精子形成、射精)、女性生殖機能 (排卵、受精、着床)、妊娠と分娩	〃
17	神経、シナプスと筋	神経生理の基礎、活動電位、神経線維の種類、シナプス伝達、筋、筋系の検査 (筋電図)	〃
18,19 20	神経系	体性神経系 (脳神経と脊髄神経系)、自律神経の機能 (交感神経と副交感神経) 中枢神経系 (脳と脊髄)、大脳と大脳辺縁系、脳幹 (延髄、橋、中脳、小脳、間脳)、睡眠、神経系の検査 (脳波、画像解析)	〃
21,22	感覚	体性感覚、内臓感覚、特殊感覚、視覚、眼球運動、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚	〃
23,24	運動器 (筋系)	筋の分類とその機能、骨格筋収縮の仕組み (筋電図)、運動とその調節、平滑筋、心筋、発声の仕組み	〃

〔単位〕 必修3単位

〔場所〕 未定

4 教科書・参考書

- 教科書 佐藤健次，北村清吉：生理学，医歯薬出版 第2版
参考書 木邑富久子，根木英雄：シンプル生理学，南江堂
本郷利憲，廣重 力，豊田順一，熊田 衛編集：標準生理学，医学書院
真島英信：生理学，文光堂
佐々木成一，佐藤健次編集：コメディカルの基礎生理学，廣川書店

5 他科目との関連

人体の構造を熟知したのち，それらの様々な機能についての基本的事項を理解するのが生理学である。生理学は解剖学とは表裏一体をなすとともに，他の多くの科目，特に薬理学，生化学，栄養学，病態学等とは密接な関係がある。

6 受講上の注意

時間数が限られているので，講義に関連した領域について各自，予習ならびに復習することが必要である。

7 成績評価方法

講義：前期の試験期間に筆記試験を行う。

生 化 学

Biochemistry

赤澤 智宏

1 科目の概要

生化学は生体の機能と構造を分子レベルで理解することを目標としている。すなわち、生体を構成している物質（生分子）がどのような化学構造や性質を持ち、どのような相互作用を通して生理機能を果たしているか、またそれらがどのようにして合成され、分解されていくのかを理解することです。また、生化学では食物からどのようにして生体に必要なエネルギーや生体構成成分の原料を取り出すかも学びます。

2 教育方針・教育目標

生化学の近年の進歩は目覚しく、生体の各種の現象が生分子の分子構造やその変化の過程としてかなり具体的に把握できるようになってきている。講義はこのような最新の知識を基に進めるますが、生命現象の本質的な部分については体系的に学ぶようにしています。その上で、医療において特に必要な生化学的知識を身につけることを目指す。またこのような勉強を通して生命への畏敬の念を育んでほしい。

3 教育内容

糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸などの主要な生分子の基本性質と代謝における意義について学ぶ。とくに、ATP を中心とする生体でのエネルギー変換過程の理解が重要である。また、核酸の塩基配列に組み込まれた情報にしたがって、特定の場所に特定の量の特定の配列をもつタンパク質が作られ、それが働くことによって細胞の機能が発揮され、われわれの身体が維持されることを学ぶ。また主要な疾患の病態生化学を理解する。

[検査技術学専攻と合同講義]

回数	項 目	内 容	担当者
1	序論	細胞の基本構造、細胞内小器官、細胞骨格、生分子、水、	赤澤 智宏
2	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸、立体異性体、ペプチド結合、タンパク質、生体高分子	〃
3	酵素	触媒、酵素、酵素反応速度論、補酵素、ビタミン、活性調節	〃
4	糖質の化学	単糖類、二糖類、オリゴ等類、多等類、不斉炭素、異性体	〃
5	脂質の化学	脂質の定義・分類、脂肪酸、中性脂肪、複合脂質、ステロイド、プロスタグランジン、	〃
6	核酸の化学	ヌクレオチド、ヌクレオシド、DNA、RNA、クロマチン、遺伝情報	〃
7	代謝学入門	代謝学総論、ホメオスターシス、代謝調節、代謝異常	〃
8	糖質代謝	解糖系、ペントースリン酸回路、グリコーゲン代謝、糖質代謝異常症	〃
9	脂質代謝	脂肪酸のβ酸化と生合成、コレステロール代謝、ケトン体、リポタンパク質代謝、脂質代謝異常、	〃
10	生体酸化	トリカルボン酸回路、呼吸鎖、ATP 合成、	〃
11	アミノ酸代謝	アミノ酸の異化、尿素回路、糖新生、生体アミン、必須アミノ酸、臓器相関	〃
12	代謝の統合・栄養学	代謝経路の切り換え、代謝間の繋がり、コリの回路、飢餓、肥満	〃
13	タンパク質合成のしくみ	複製、転写とプロセッシング、翻訳、翻訳御修飾	〃
14	遺伝の生化学	遺伝子と染色体、遺伝子の構造と機能、遺伝と疾患	〃
15	病気の生化学	代謝異常症、肝疾患、腎疾患	〃

[場所] 保健衛生学講義室 1 (3号館 18階)

[単位] 必修2単位

4 教科書・参考書

イラストレットッド ハーパー生化学 (上代淑人 監訳：丸善)
ストライヤー生化学 (入村・岡山・清水 訳：東京化学同人)
ヴォート 生化学 上下 (田宮信雄ほか 訳：東京化学同人)
臨床検査学講座 生化学 (阿南功一ほか：医歯薬出版)
レーニンジャーの新生化学 上下 (山科郁男 監訳：広川書店)
細胞の分子生物学 第4版 (中村・松原 監訳：ニュートンプレス)

5 他科目との関連

生化学の対象は広く、ほとんど全部の科目と関連しているが、特に関連の深い科目として、栄養学、生理学、薬理学がある。

6 受講上の注意

時間数が限られているので、講義で触れられなかった領域は教科書を利用して必ず学習をすること。

7 成績評価方法

試験期間に筆記試験を行い評価する。

薬 理 学 I ・ II

Pharmacology I ・ II

安 原 眞 人

1 科目の概要

薬理学は、薬物の吸収・分布・代謝・排泄といった薬物動態と薬物が生体に及ぼす作用を、個体レベルから、臓器・組織レベル、細胞レベル、さらには分子レベルで研究する学問である。医療において、薬物治療は重要な位置を占めており、薬物に関する正しい知識を身につけることは適正な薬物療法を行うために必要不可欠である。

2 教育方針・教育目標

薬理学の学習はたくさんの薬物名の暗記に終始しがちである。最近の薬理学の進歩は速く、次々に新薬が作られており、覚えるべき薬物の数も増加する一方である。しかし、より良い薬物療法を目指すには、まず、薬物療法の基礎となる原理を正確に理解する必要がある。

3 教育内容

以下の項目について講義を行う。

回数	項 目	内 容	担当者
1	【薬理学 I】 総論	薬理学の構成, 薬物とは何か, 薬物と法律, 薬理作用と作用機序, 薬物の反応に影響を与える因子	安原真人
2	薬物動態 (1)	薬物の投与経路, 吸収, 分布	
3	薬物動態 (2)	薬物の代謝, 排泄, 薬物相互作用	
4	自律神経 (1)	コリン作動薬, コリン作動性効果遮断薬	〃
5	自律神経 (2)	アドレナリン作動薬, アドレナリン作動性効果遮断薬, 筋弛緩薬, 局所麻酔薬	〃
6	中枢神経 (1)	全身麻酔薬, 鎮静睡眠薬, 麻薬性鎮痛薬	
7	中枢神経 (2)	抗てんかん薬, 抗パーキンソン病薬	〃
8	中枢神経 (3), 薬物依存	抗精神病薬, 抗うつ薬, 薬物依存	
9	【薬理学 II】 ホルモン	脳下垂体, 甲状腺, インスリン, カルシウム代謝	〃
10	抗炎症薬, 免疫抑制薬	ステロイド, 抗炎症薬, 免疫抑制薬	
11	心・血管系	強心薬, 抗狭心症薬, 抗不整脈薬, 降圧薬,	
12	腎臓, 呼吸器系, 消化器系	利尿薬, 鎮咳薬, 喘息治療薬, 潰瘍治療薬, 下剤, 貧血治療薬, 止血薬, 抗凝固薬	〃
13	抗感染症薬	抗菌薬, 抗ウイルス薬	〃
14	抗悪性腫瘍薬	抗悪性腫瘍薬	
15	薬物の安全性	ヘルシンキ宣言, 治験, GCP	〃
16	薬害	薬害被害者による講演(教育委員会主催)	

[単位] 必修 2 単位

[場所] M&D タワー 2 階 共用講義室 2

4 教科書・参考書

教科書として

植松ほか (編) : シンプル薬理学 (南江堂)

を使用して講義を進める。他の参考書としては以下のものがある。

田中千賀子・加藤隆一 (編) : NEW 薬理学 (南江堂)

今井ほか (編) : 標準薬理学 (医学書院)

5 他科目との関連

薬理学は基礎医学と臨床医学の中間に位置する。すなわち、薬理学は主に生化学および生理学的手法を用いて研究がなされることから、薬理学を理解するには生化学、生理学、細菌学などの基礎知識が必要である。一方で、薬理学で得た知識は、内科学をはじめとする臨床での薬物療法の基礎となる。

6 受講上の注意

時間数は限られているので、講義で触れられなかった領域のことなどを各自自習する必要がある。

7 成績評価方法

筆記試験を行い、評価する。

病 理 学

Pathology

熊 谷 二 朗

1 科目の概要

病理学は疾病の本態を解明する学問であり、基礎と臨床との両者にまたがった医学・医療の基本となる分野である。従って、病理学的知識・思考は専門課程2学年から4学年に至る間、何らかの形で常に教授される。

2 教育方針・教育目標

病理学では、疾病病変の共通の変化を論じ、病態の本質、その成因を系統的に把握、理解する。病理学の学習を通して疾病の本態を理解し、医学・医療の基本的知識・思考が習得されることを目標とする。

3 教育内容

回数	項 目	内 容	担当者
1	細胞・組織の病的変化	病的変化の基本（適応、壊死、変性、代謝の異常）	熊谷 二郎
2	進行性病変	肉芽組織と器質化、再生・化生・肥大・過形成	〃
3	循環障害	全身性および局所性の循環障害	〃
4	炎症	炎症とは何か、炎症の経過・転帰・分類	〃
5	免疫・感染症	免疫の機構・免疫不全および感染症	江石 義信
6	腫瘍	腫瘍の定義・形態・進展様式・分類	熊谷 二郎
7	病理学の概観	病理学の歴史、考え方、現状	〃
8	総括	病理総論から疾患を説明する	〃

〔単位〕 必修1単位

〔場所〕 未定

4 教科書・参考書

大西俊造, 梶原博毅, 神山隆一編：スタンダード病理学, 文光堂
臨床検査学講座：病理学／病理検査学, 医歯薬出版
中村恭一, 坂本穆彦：系統看護講座 専門基礎4 病理学, 医学書院
横山武：図解病理学, 文光堂
細田泰弘他：イラスト病理学, 文光堂
西山保一：マクロ病理アトラス, 文光堂
飯島宗一他：組織病理アトラス, 文光堂
北川知行他：癌の病理組織アトラス, 南江堂
飯島宗一他：現代病理学体系, 中山書店
Robbins, S. L. 他：Basic Pathology, W. B. Saunders

5 他科目との関連

病理学は医学・医療の基本をなす分野であり、基礎(特に解剖・組織学, 生理学, 生化学)ならびに臨床科目とは密接に関連している。

6 受講上の注意

自ら進んで学習し、医学・医療の基本である病理学を習得して欲しい。

7 成績評価方法

筆記試験によって評価する。

微生物学

Medical Microbiology

岡村 登

1 科目の概要

感染症の原因である微生物および微生物とその宿主（特に人間）との相互関係に関する学問である医学微生物学について学ぶ。また人間をとりまく環境中の微生物についても学習する。

2 教育方針・教育目標

微生物の示す生命現象および感染症を中心とした医学微生物の基礎的な事項について学ぶ。

3 教育内容

医学微生物学全般（細菌学，ウイルス学，真菌学，免疫学）にわたる基礎的な事項について講義を行う。感染症に関してもその概略を述べる。

回数	項目	内容	担当者
1	微生物とは？ 微生物の分類・命名	微生物学の概念と歴史，微生物細胞の形態と構造 微生物の分類法，主な微生物の分類学的位置	岡村 登
2	代謝・培養・増殖 滅菌と消毒	微生物（特に細菌）の代謝，および培養法，滅菌・消毒の原理 とその応用	〃
3	微生物遺伝学	微生物の遺伝，環境と微生物	〃
4	感染と免疫	免疫・宿主の感染に対する抵抗性，微生物の病原因子	〃
5	感染症の予防と治療	感染症の予防とコントロール，化学療法（抗生物質療法）	〃
6	主な病原微生物と感染症	主な細菌・真菌・ウイルスとその感染症 (1)	〃
7	主な病原微生物と感染症	主な細菌・真菌・ウイルスとその感染症 (2)	〃
8	主な病原微生物と感染症	主な細菌・真菌・ウイルスとその感染症 (3)	〃

〔単位〕 必修1単位

〔場所〕 未定

4 教科書・参考書

教科書は特に指定しない。参考書に関しては最初の講義の時間に紹介する。

5 他科目との関連

生化学，病理学，公衆衛生学，臨床医学（感染症学）などの科目と密接な関係を持っている。

6 受講上の注意

微生物学の範囲は広く，講義時間数は限られているので，講義内容の復習，講義で詳しくふれなかった事項も個人学習すること。

7 成績評価方法

試験は微生物学の講義で学習した範囲に関して行う。

栄 養 学

Nutritional Science

佐藤 千史

1 科目の概要

栄養学の基礎および臨床応用について講義する。

2 教育方針・教育目標

人間はエネルギーを外部から取り入れ、体内で利用して活動している。この過程を解明する学問分野が栄養学である。個々の代謝は生化学、消化吸収は生理学の対象でもあるが、ここでは栄養素がどのようにして体内に入り利用されているのかを学ぶ。正常人における栄養のあり方を学ぶことは疾病予防の上で重要であり、また一方で病気における栄養のあり方（病態栄養学という）を学ぶことが重要である。栄養学の目的はこれらを総合的に理解することである。

3 教育内容

中心的になるものは消化・吸収、食品と栄養価、栄養過剰・欠乏の問題などである。また糖尿病の栄養管理は栄養学の知識を十分に応用している代表的なものといえよう。実際の病態については疾患論で学ぶので、ここでは基本的な考え方を提示する。

回数	日時	項目	内容	担当者
1	10/4(火) 2	エネルギー代謝	基礎代謝、生活活動代謝について	佐藤(千)
2	10/18(火) 1	栄養素	3大栄養素、ビタミン・ミネラルの意義	〃
3	10/25(火) 1	消化吸収	栄養素の消化と吸収のメカニズム	〃
4	11/1(火) 1	栄養所要量	栄養摂取基準、栄養状態の判定	〃
5	11/8(火) 1	食品学、病態栄養	食品の特性と加工調理、機能性食品 栄養素の欠乏、過剰による疾患	〃
6	11/15(火) 1	栄養計算(1)	1日の摂取食品の栄養計算	佐久間、佐藤(千)
7	11/15(火) 2	栄養計算(2)	1日の摂取食品の栄養計算	〃
8	11/29(火) 1	特別制限食の作成	課題特別食の献立作成と実地体験	〃

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室4（3号館7階）

4 教科書・参考書

「五訂食品成分表 2011年版」（女子栄養大学出版部），「食品 80 キロカロリーガイドブック」（女子栄養大学出版部），「糖尿病患者のための食品交換表」（日本糖尿病学会編：文光堂）は必携。いずれも将来にわたって活用できるので用意しておくこと。

5 他科目との関連

生理学、生化学の知識を応用するものであり、それらの知識を整理しておく必要がある。また疾患とも密接に関連しており、病態論と関連づけながら学ぶ必要がある。

6 受講上の注意

特になし。

7 成績評価方法

試験と演習のレポートで評価する予定。

病 態 学

Clinical Medicine

佐藤 千史

1 科目の概要

看護学では様々な健康障害をもつ人々に対する看護支援の方法を習得する。それを実現するためには、そのような健康障害をもたらす病態・疾病についての基礎知識を有することが必須である。病態学では、主として成人期における臓器・器官別の様々な病態について、その発症機序と症候・診断・治療の概要を学ぶ。成人期に照準を合わせたこの病態学の基礎知識は、異なる発達段階にある人々の病態を学ぶ上でも基本となるものである。

2 教育方針・教育目標

講義は内科学的、外科学的立場から、保健衛生学科教官の他、内科系、外科系関連教員により行われる。それらの講義を通じて医学分化の趨勢に触れるとともに、器官系統別に主要な病態について内科学的、外科学的視点を統合して発症機序と症候に対する理解を深め、患者の身体を統合的に把握する上での看護の役割の重要性を理解する。

講義時間が少ないので自学実習により理解を確実にする態度を身に付けることが重要である。その経験を通して、他の発達段階にある場合の病態を理解する基盤とするとともに、臨地実習において講義を受けていない疾患の患者を受け持つ場合にも対応できるようにする。

3 教育内容

- (1) 内科的診断・治療の基本的考え方について理解する。
- (2) 内科的治療を要する主要疾患について、器官系統別の自然経過、病態、検査・診断および治療の概要を理解する。
- (3) 外科的治療を要する疾患について、共通する病態および基本的処置・管理について理解する。
- (4) 外科的治療を要する疾患について、器官系統別の自然経過、病態、検査・診断、手術・治療、および術前・術後管理の概要を理解する。

前期

回数	日時	項目	講義内容	予定担当者
1	4/11(月)	病態学総論①	・病態学の考え方と看護における意義	4,5限:佐藤千史
2	4,5	内科総論①	・内科学的概要および内科的診断・治療の基本的考え方,	
3	4/18(月)	放射線①	・放射線による画像診断の意義と方法	4限:大橋 勇 5限:野田裕美
4	4,5	腎臓内科①	・腎疾患の病態とその症候・機序, 診断法と治療, 透析療法	
5	4/27(水)	外科総論①②	・外科学的概要および相互の関係	4,5限:佐藤健次
6	4,5		・損傷, 創傷の治癒, 熱傷, 凍傷, 炎症, 外科的感染症, 外科的特異性炎症	
7	5/9(月)	呼吸器内科①	・呼吸器疾患の病態とその症候・機序, 診断法と治療	4限:三宅修司 5限:内藤省太郎
8	4,5	腎臓内科②	・腎疾患の病態とその症候・機序, 診断法と治療, 透析療法	
9	5/16(月)	消化器内科①	・消化器疾患の病態とその症候・機序, 診断法と治療	4限:佐藤千史 5限:三宅修司
10	4,5	呼吸器内科②	・呼吸器疾患の病態とその症候・機序, 診断法と治療	
11	5/25(水)	外科総論 ③④	・腫瘍総論・各論, 診断・手術術式	4,5限:佐藤健次
12	4,5			
13	5/30(月)	循環器内科①	・循環器疾患の病態とその症候・機序, 診断法と治療	4限:川良徳弘
14	6/1(水)	血液内科①	・血液疾患の病態とその症候・機序, 診断法と治療	4限:小山高敏
15	6/6(月)	膠原病内科①	・膠原病の病態と症候・機序, 診断法と治療	3限:窪田哲朗 4限:川良徳弘
16	3,4	循環器内科②	・循環器疾患の病態とその症候・機序, 診断法と治療	
17	6/8(水)	血液内科②	・血液疾患の病態とその症候・機序, 診断法と治療	4限:小山高敏
18	6/15(水)	外科系総論 ⑤⑥	・潰瘍総論・各論, 診断, 手術術式 ・手術補助療法, 臓器移植, 医療過誤	3,4限:佐藤健次
19	4,5			
20	6/20(月)	内分泌・代謝①	・内分泌疾患の病態とその症候・機序, 診断法と治療	3限:三原正朋 4限:吉本貴宣
21	3,4	②	・代謝疾患の病態とその症候・機序, 診断法と治療	
22	6/27(月)	膠原病内科②	・膠原病の病態とその症候・機序, 診断法と治療	3限:窪田哲朗 4限:佐藤千史 5限:林 敬二
23		消化器内科②	・消化器疾患の病態とその症候・機序, 診断法と治療	
24		放射線②	・放射線による治療の意義と方法	

25 26 27	7/4(月) 3,4,5	麻酔① 胸部外科①②	・手術麻酔 ・心臓疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法 ・肺疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法	3限: 田中直文 4限: 宮城直人 5限: 藤原直之
28 29 30	7/11(月) 3,4,5	感染症① 泌尿器科①②	・感染症総論, 診断法と治療の概要 ・男性生殖器と尿路疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法	3限: 岡村 登 4限: 松岡陽 5限: 石岡淳一郎

後期

31 32	10/3(月) 3,4	乳腺外科① 上部消化管 外科①	・乳房疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法 ・胃疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法	3限: 佐藤隆宣 4限: 加藤敬二
33 34 35	10/17(月) 3,4,5	肝胆膵外科① 下部消化管 外科① 上部消化管②	・肝・胆・膵疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法 ・下部消化管疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法 ・食道疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法	3限: 工藤 篤 4限: 小林宏寿 5限: 川田研郎
36 37	10/24(月) 3,4	皮膚科①②	・皮膚疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法	3,4限: 高山かおる
38 39	10/31(月) 3,4	婦人科①②	・婦人科疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法	3,4限: 若林晶
40 41	11/7(月) 3,4	耳鼻咽喉科 ①②	・耳鼻咽喉科領域疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法	3,4限: 高橋正時
42 43	11/14(月) 3,4	神経内科①②	神経系疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法・	3,4限: 石川欽也
44 45	11/21(月) 3,4	血管外科① 整形外科①	・血管疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法 ・脊椎疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法	3限: 工藤敏文 4限: 新井嘉容
46 47 48	11/28(月) 3,4,5	眼科① 整形外科② 麻酔②	・眼球疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法 ・四肢骨・関節疾患、外傷の病態と症候、機序、診断法、手術療法 ・ペインクリニック	3限: 菅本良治 4限: 柳下和慶 5限: 舛田昭夫
49 50 51	12/5(月) 3,4,5	脳外科①② 予備	・中枢神経系疾患の病態とその症候・機序, 診断法, 手術療法	3,4限: 成相 直 5限:

(注) 予定担当者は昨年度実績であり、講師の異動や救急業務に伴い講師名および講義日の変更が生じる場合がある。

[単位] 必修5単位

[場所] 前期: 共用講義室2 (M&D タワー2階)、保健衛生講義室4 (3号館7階)

後期: 保健衛生学講義室 4 (3号館7階)

4 教科書・参考書

教科書

- ・内科系: ナースの内科学, 奈良信雄(編著), 中外医学社
- ・外科系: ナースの外科学, 磯野可一(編著), 中外医学社

参考書

- ・病気・病態・重症度からみた疾患別看護過程, 井上・佐藤(編集), 医学書院
- ・系統看護学講座, 別巻1, 臨床外科看護学総論, 医学書院
- ・標準外科学, 第8版, 武藤輝一・田部達三編, 医学書院

5 他科目との関連

看護の対象となる人々の疾患や障害を理解するためには、解剖学, 生理学, 病理学の知識を基盤にして病態を理解する必要がある。病態学では, 単なる知識の集積にとどまらず, これら専門基礎科目で学習した事柄を関連づけて考えることが重要である。

6 受講上の注意

参考書の指定箇所について予習をして臨むこと。

7 成績評価方法

学期末筆記試験により評価する。

各講師より出題されるので, 全ての総合知識が要求される(内科・外科各100問以上出題)。

英文講読 I

English for Nursing I

佐美真理

1 科目の概要

指定した教科書を用い、健康・医療・看護に関する英文を講読する。

2 教育方針・教育目標

健康・医療・看護について書かれた自然な英文に慣れることを目標とする。一文ずつ丁寧に読みながら、まずは英語の基礎的な文法や語彙を確認する。そして正確に書かれている情報を読み取り、全体の内容を理解することが重要である。さらに、医療の場や医療関係の文脈などの実地で使われる英語表現を覚え、高度かつ多様な文章を読むための能力を身につけることも目指したい。医療に関する語彙・英語表現も確実に増やしていく。

3 教育内容

基本的に毎週 1 Lesson 読み進めていく。文章を精読することを主軸とし、付随した問題演習や単語のエクササイズにも取り組む。語彙を増やし、実用的な英語表現を覚えてもらうため、Lesson ごとに単語のテストを行う。さらに、随時、補助教材（リスニングCDやビデオなど）を用いて英語の聞き取りの練習も行い、文章の内容に関連する知識や理解を深める補助とする。

〔時間割〕

4/6(水)3 時限 4/13(水)3 時限 4/20(水)3 時限 4/27(水)3 時限 5/11(水)3 時限 5/18(水)3 時限
5/25(水)3 時限 6/1(水)3 時限 6/8(水)3 時限 6/15(水)2 時限・3 時限 6/22(水)2 時限・3 時限
6/29(水)3 時限 7/6(水)3 時限

〔単位〕 必修 1 単位

〔場所〕 保健衛生講義室 4（3号館 7階）

4 教科書・参考書

Health Care in a New Language (Upper Intermediate)
（『生きた英語で学ぶ健康・医療・看護 (2) 』）、Macmillan Language House

5 他科目との関連

英語に触れる可能性のある他のすべての科目と関連があると言える。

6 受講上の注意

英文講読の授業なので、毎回予習をしていくことが大前提である。辞書で単語を調べ、自分で理解できる限り文章を読んでいくことが大事である。授業にも辞書を持っていくこと。

7 成績評価方法

出席点、平常点（単語テストの点数および授業への参加度）、学期期末試験。以上を総合的に評価する。パーセンテージなどの詳細は授業で明らかにする。

Test of English as a Foreign Language/Institutional Testing Program (TOEFL/ITP)

保健衛生学科教育委員会

1 実施の目的

TOEFL テストは 1964 年に、英語を母国語としない人々の英語力を測るテストとして、米国の非営利教育団体により開発された。高い信頼性のもと、40 年以上にわたり客観的かつ正確な、世界で最も優れたアカデミックな英語テストとして注目を集め、現在 TOEFL テストのスコアは英語運用能力テストのグローバルスタンダードとなっている。本学科の学生も TOEFL を定期的に受験して、各自の実践的な英語力の増進に役立て、将来は国際的に活躍してもらいたい。

2 実施内容

- 1) セクション 1 (35 分) : リスニング
- 2) セクション 2 (25 分) : 英文と文章表現
- 3) セクション 3 (55 分) : 読解

3 実施対象

N 2、MT 2、N 3、MT 3 全員

4 実施日

平成 23 年 7 月 22 日 (金) 13:00~15:50

(欠席する場合は事前に教務課まで連絡のこと)

5 実施場所

- N 2 : 保健衛生学講義室 4 (7 F)
- MT 2 : 保健衛生学講義室 5 (7 F)
- N 3 : 保健衛生学講義室 2 (8 F)
- MT 3 : 保健衛生学講義室 3 (8 F)

6 実施方法

試験監督：教養部英語学担当教員

保健衛生学科医学英語担当教員

受験：各試験監督の指示に従い受験する。(試験開始 10 分前までに着席のこと。)

7 受験料

受験料：入学時に徴収済み

8 成績評価

医学英語担当教員が TOEFL/ITP の結果を考慮し、医学英語科目と合わせて評価する。

N 2 : 英文講読 I (必修 1 単位)

N 3 : 英文講読 II (必修 1 単位)

MT 2 : 医学英語演習 (I) (前・後期 2 単位のうち前期分 1 単位に考慮する。)

MT 3 : 医学英語演習 (II) (前・後期 2 単位のうち前期分 1 単位に考慮する。)

9 TOEFL/ITP のスコアの活用

各自が英語力を自己評価し、市販の教材やテレビ、ラジオなどを活用して、毎回得点を上昇させる努力をして欲しい。医学部学生の海外研修派遣選考基準としても活用する。

専門基礎合同演習

Practice of Medical Sciences

岡 村 登

1 科目の概要

本学科の特徴をいかすべく、平成11年度から発足した大綱化カリキュラムに必修科目として組み入れられた新科目で、看護学専攻の専門基礎科目についての実習を統合し、専門基礎合同演習として7回の実習を行う。

2 教育方針・教育目標

専門基礎科目の解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、微生物学の各担当科目について演習を行い、専門基礎科目を学んでいく上で基礎となる幅広い知識や技術を習得する。

3 教育内容

回数	日 時	項 目	内 容	担当者
1 2 3		解剖学	解剖実習体見学	(未定)
4 5		解剖学	骨学	(未定)
6 7	6/7(火)	病理学	病理解剖体肉眼観察	熊谷二郎 吉田祥子
8 9	6/13(月)	微生物学	細菌の培養	岡村 登
10 11	6/14(火)	微生物学	細菌の染色	//
12 13	6/21(火)	生理学	心電図	川良徳弘
14 15	6/28(火)	生化学	核酸の化学 (DNAの抽出と精製)	鈴木喜晴

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学実習室 (3号館7階)

4 教科書・参考書

特に指定しない。各教員の教科書は参考書と考えられる。

5 他科目との関連

基礎ならびに専門の看護学に関係する全ての科目に関連している。

6 受講上の注意

全演習の出席を原則とする。演習に関しての詳細は各担当教員に確認すること。
実習は白衣着用のこと。

7 成績評価方法

各演習科目において、試験、提出レポート、標本スケッチ等により、担当教員が個々に成績評価をおこなった後、生体検査科学専攻主任が総合的に判定をおこなう。

医療情報学

Medical Informatics

田 中 博

1 科目の概要研究遂行

今日の医療の発展には、高度な情報科学の進歩が寄与しているといっても過言ではない。医療人として、情報科学の進歩のもたらす果実を享受し、それを十分に活用できるよう、本学では教養部から一貫したシラバスに基づく情報教育を目指している。

本科目では、看護分野における医療情報の関わりを中心に、より基礎的な応用ソフトウェアの実習から最先端の生命情報学までレクチャーする。

2 教育方針・教育目標

日々進歩の激しい情報化社会の中で、看護ニーズとしての医療情報を、早く正確に入手して理解し、活用できる基礎能力を修得させるため、医療情報の現状を教授する。またパソコンの応用ソフトの実習を通して、情報化社会において基本的な情報リテラシーを修得させる。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1	1/6(金)	医療情報学概論	医療情報学の基礎を学ぶ。医療にどのように情報システムが取り入れられていったか、病院情報システムの世代論・構成論を述べる。	田中 博
2	3,4	病院情報システム		
		情報リテラシー実習1	プレゼンテーションソフトの基礎的な操作実習を行う。	水島 洋
3	1/13(金)	生命情報学	生命情報に関する講義と、それに関するアプリケーションプログラムを使った実習を行う。	水島 洋
4	3,4	情報リテラシー実習2	インターネットを利用した情報入手方法について、論文検索を中心に実習を行う。	
5	1/20(金)	遠隔医療	遠隔医療の歴史と現状を紹介し、なぜこのような医療が必要なのかを講義する。	水島 洋
6	3,4	情報化社会のセキュリティ	インターネットを中心とする現在の計算機環境におけるセキュリティ問題（コンピュータウイルス・盗聴等）について説明し、情報化社会の中での医療における安全性への配慮・データ保護にも触れる。	
7	1/27(金)	情報リテラシー実習3-1	プレゼンテーションソフトを用いた発表実習を行う。	水島 洋
8	3,4	情報リテラシー実習3-2	プレゼンテーションソフトを用いた発表実習を行う。	

[単位] 必修1単位

[場所] 情報検索室 (M&D タワー4階) ほか

4 教科書・参考書

教科書 田中 博：電子カルテと IT 医療 NMブック新医療叢書シリーズ (エム・イー振興協会)

参考書 キャサリン・J・ハンナ他編集：看護情報学への招待 (中山書店)

5 他科目との関連

情報科学 (1年) , 保健統計学 (4年) などと関連が深い。

6 受講上の注意

医療情報システムは最近急速に発展している。新聞・テレビなどマスメディア等で、先端的な事例が報告されることもあるので、日頃からこれらに関心を持つことが望ましい。

7 成績評価方法

出席点・グループ発表の内容・レポートで総合的に評価するが、出席点の比重が大きい。

8 その他

医療情報学の土台である情報科学を理解するためには、コンピュータの基礎的な理解が必要である。そのためには、実際にコンピュータに触ってみることが何よりも重要であろう。

本学では、情報検索室（M&D タワー4階）や、歯学部視聴覚研修室（歯科校舎棟6階）を、どの学部学生にも開放している。これらに設置されているパソコンを利用するなどして、日頃からスキルアップを図ることが望まれる。

基礎看護学Ⅱ

Fundamental Nursing Ⅱ

齋藤 や よ い

1 科目の概要

看護学専門科目に共通する基本技術を学ぶ。

2 教育方針・教育目標

日常生活行動の援助を中心に、技術の科学的根拠となる基礎的知識と具体的な方法を理解する。

3 教育内容

回数	項目	内容	担当者
1	環境	入院患者の病床環境について学ぶ	大黒
2	休息	安楽な体位とリラクゼーション	大黒
3 4	看護と人間工学	ボディメカニクスと看護活動 身体の機能的・効率的な活用の仕方の基盤となる知識を人間工学的に学習し、看護ケアの中で活用する能力を養う。	齋藤真
5 6	身体の清潔	入院患者における清潔の意義を理解し、身体各部の構造に基づいた清潔ケアの方法を学ぶ。	大黒
7	感染看護	感染予防の実際 Infection Control の実際を学び、事故を防止し、安全を確保するための基礎能力を養う。	小野和代
8	グリーフケア	死を迎える対象および周囲の人々への理解を深める。	佐々木

*日時は変更する場合がある。4/7（木）に配布する基礎看護学開講科目日程表を参照のこと。

〔単位〕 必修1単位

〔場所〕 保健衛生学講義室4（3号館7階）、看護実習室1（3号館17階）ほか

4 教科書・参考書

香春知永、齋藤やよい：基礎看護技術、南江堂、2009

山口瑞穂子：看護技術講義・演習ノート上巻、医学芸術社、2006

三上れつ、小松万喜子：演習・実習に役立つ基礎看護技術、ヌーヴェル・ヒロカワ、2008

川村佐和子他：基礎看護学，ヘルスアセスメント，MCメディカ出版、2006

菱沼典子、小松浩子：看護実践の根拠を問う、南江堂、2007

その他テーマに関連した参考図書を随時紹介

5 他科目との関連

基礎看護学Ⅰ，基礎看護学演習Ⅰの他に，学習の基礎となる教養の自然科学系，社会学系の科目，特に人間科学，社会学，心理学，哲学などを学習しておく。

6 受講上の注意

看護学の基礎となる理論や概念を学ぶために，柔軟な思考力が必要となる。これまでの学習経験や生活体験，社会体験を踏まえ，幅広い分野の書物に触れ，社会情勢にも関心を持つことが望ましい。

7 成績評価方法

単元毎の課題レポート，学期末筆記試験，および出席状況により評価

基礎看護学Ⅲ

Fundamental Nursing III

齋藤 や よ い

1 科目の概要

看護学専門科目に共通する問題解決の思考プロセスとして、看護過程を概念と展開の方法を学ぶ。

2 教育方針・教育目標

- 1) 看護過程の役割と意義を理解する。
- 2) 看護過程のステップを理解する。
- 3) 看護実践における看護過程の展開方法を理解する。
- 4) ビデオ事例を通じた看護過程展開の実際を理解する。

3 教育内容

回数	日時*	項目	内容	担当者
1	5/13(金) 3	看護過程の定義	看護過程とはなにか、背景と特徴 看護過程と問題解決方法 (POS) との関係	香春知永
2	5/13(金) 4	看護過程の構成要素	看護過程の5つの構成要素とその課題	香春知永
3	5/20(金) 3	アセスメント・診断	看護の観察と分析 看護診断と看護診断名	香春知永
4	5/20(金) 4	計画 実施・評価	目標 (成果) と計画立案 調整, 実施, 記録 (目的と種類) 問題の達成評価	香春知永
5	9/22(木) 1	事例による展開 (1)	受け持ち患者の看護過程 (グループワーク)	齋藤, 大黒, 佐々木 他
6	9/22(木) 2	事例による展開 (2)	受け持ち患者の看護過程 (グループワーク)	齋藤, 大黒, 佐々木 他
7	10/21(金) 3	事例による展開 (3)	受け持ち患者の看護過程 (グループワーク)	齋藤, 大黒, 佐々木 他
8	10/21(金) 4	事例による展開 (4)	受け持ち患者の看護過程 (グループワーク)	齋藤, 大黒, 佐々木 他

*日時は変更する場合がある。4/7 (木) に配布する、基礎看護学開講科目日程表を参照のこと。

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室4 (3号館7階) ほか

4 教科書・参考書

参考資料を配付

その他テーマに関連した参考図書を随時紹介

5 他科目との関連

既習の専門知識と技術を看護実践の一連のプロセスの中に活かせるよう、これまで学習したすべての看護専門科目をよく理解しておくこと。

6 受講上の注意

講義と事例による演習を並行して行う。5回と6回では受け持ち患者の看護体験をもとに、個々の看護過程を振り返る。あらゆる看護実践の基盤となる思考プロセスの学習であり、グループワークに積極的に参加することで、理解を深めること。

7 成績評価方法

学期末の筆記試験、および出席状況により評価する。

基礎看護学演習 I

Seminar of Fundamental Nursing I

齋藤 や よ い

1 科目の概要

全ての人に共通する看護実践の基礎的知識と技術を学習する科目である。ここでは日常生活行動の援助を中心に、看護技術を構成する知識、技能、態度の3要素を、演習を通して身につける。

2 教育方針・教育目標

基礎看護学 I・II で学んだ、看護の概念や看護ケアの方法を、実際のケアに活かせるよう演習する。演習はグループ単位に行い、看護を必要とする人々の生活理解に基づき、ニーズをアセスメントし必要なケアを計画、実施する。また、援助の科学的根拠を追求する姿勢を養い、知識を活用して、考えながら行動するための基本的な技能と態度を身につける。

3 教育内容

回数	項目	内容	担当者
1 2	ベッドメイキング 環境整備	入院患者の病床環境の調整を行なうための方法と、ベッドメイキングの方法を学ぶ。	齋藤, 大黒, 佐々木 他
3 4 5	身体の観察 I バイタルサインの観察	生命の徴候を客観的に観察し、情報を収集する方法を学ぶ。呼吸・体温・血圧・脈拍測定の方法を学び、測定値の示す意味とその変動条件について理解する。	齋藤, 大黒, 佐々木 他
6 7 8	全身清拭 足浴 手浴 洗髪	身体各部位の構造・機能に基づいた清潔ケアの方法を学ぶ。	齋藤, 大黒, 佐々木 他
9 10	コミュニケーション	コミュニケーションの理論と看護技術としてのコミュニケーション方法を学ぶ。	江龍伸子
11 12 13	体位変換 移送・移動 リラクゼーション	活動と休息に関連する援助技術として基本的な安楽な体位の保持, 体位変換, 移動 (移送) の方法を学ぶ。また, 休息 (睡眠) を妨げる要因を知り, 援助方法を学ぶ。	齋藤, 大黒, 佐々木 他
14 15 16	食生活 食事介助, 口腔ケア	食生活としての食事の意義と栄養補給, 健康について理解し, 食事援助方法と口腔の清潔を保持する方法を学ぶ。	齋藤, 大黒, 佐々木 他
17 18 19 20	手洗い, 無菌操作 ガウンテクニック	手洗い, 滅菌手袋の装着, ガウンテクニック, 滅菌物の取り扱いの方法を学ぶ。	齋藤, 大黒, 佐々木 他
21 22 23	身体の観察 II クリティカルケア	看護活動に必要な全身の系統的な観察方法とアセスメント方法を学ぶ。	千明政好 齋藤, 大黒, 佐々木 他
24 25 26	寝衣交換 シーツ交換	適切な衣服選択と衣服着脱の援助方法, 就床患者のシーツ交換の方法を学ぶ。	齋藤, 大黒, 佐々木 他
27 28 29	身体の観察 III フィジカルアセスメント	看護活動に必要な全身の系統的な観察方法とアセスメント方法を学ぶ。	城生弘美 齋藤, 大黒, 佐々木 他
30 31 32	排泄 尿器・便器の取り扱い 導尿・洗腸 陰部洗浄 おむつ交換	健康および生命維持における排泄の意義を理解し, 排泄に関する観察方法と, ニーズに応じた援助方法を学ぶ。排泄障害に伴う導尿と洗腸の方法を習得し, 実施に伴う効果の評価方法や, 副作用を理解する。	齋藤, 大黒, 佐々木 他
33 34	安全・電法	医療事故の現状と患者の権利と責務を理解し, 安全や安楽を確保するための基礎能力を養う。 電法の効用を理解し, 効果的な電法の方法を習得する。	齋藤, 大黒, 佐々木 他
	技術試験	習得した技術の到達レベルを評価する。	齋藤, 大黒, 佐々木 他

*日時は変更する場合がある。4/7（木）に配布する基礎看護学開講科目日程表を参照のこと。

〔単位〕 必修2単位

〔場所〕 保健衛生学講義室4（3号館7階），看護実習室1および2（3号館17階）ほか

4 教科書・参考書

香春知永、齋藤やよい：基礎看護技術、南江堂、2009

山口瑞穂子：看護技術講義・演習ノート上巻、医学芸術社、2006

三上れつ、小松万喜子：演習・実習に役立つ基礎看護技術、ヌーヴェル・ヒロカワ、2008

その他、基礎看護学—学内演習の手引き—，テーマに関連した資料を配付

テーマに関連した参考図書は随時紹介

5 他科目との関連

既習の基礎看護学Ⅰ・Ⅱ，解剖学，生理学，薬理学，微生物学，生化学，栄養学などの科目との関連性が高い。また，これから開講されるすべての看護専門科目で学ぶ看護技術の基礎となる。

6 受講上の注意

1) 演習には指定されたユニフォームを着用し，身だしなみを調べてから参加する。

2) 未熟な技術は医療事故の大きな原因となる。看護技術は1回の演習で習得できるものではなく、繰り返しの学習や実践での応用によって身につくものである。したがって，1つ1つの技術の熟達度を高めるよう自助努力が必要である。視聴覚教材の活用や，実習室での自己・グループ学習に，積極的に参加すること。申し出があれば，必要に応じて実習室での自習も許可する。

3) すべての演習は，目的に応じた物品の準備と環境の調整から，実施，後かたづけ，評価の一連のプロセスで構成する。実習室内の環境を整備し，使用後の物品を放置することのないよう，常に現状復帰を心がける。

4) 出席を重視する。欠席などで未履修の単元は，友人の協力を得て自主的に学習すること。必要があれば，申し出により補習指導を受けることもできる。

7 成績評価方法

演習の事前・事後レポート，実技試験，筆記試験，出席状況と演習参加の姿勢により総合的に評価する。

基礎看護学演習Ⅱ

Seminar of Fundamental Nursing Ⅱ

齋藤 や よ い

1 科目の概要

健康障害をもった人々に対して行われる診療に伴う看護の方法を理解する。

2 教育方針・教育目標

薬物療法に伴う看護，検査に伴う看護を中心に診療に伴う看護の方法を身につける。演習はグループ単位に行う。対象の症状や病態，心理的反応の理解に基づいたニーズのアセスメントを行い，必要な看護ケアをシミュレーターで実施する。

3 教育内容

回数	項目	内容	担当者
1 2 3 4	検査と看護 採血	検査の種類，検査における看護婦の役割を知り，適切な援助方法を学ぶ。 検査の実際として血液検査を取り上げ，血液検体の採取技術を学ぶ。	齋藤，大黒， 佐々木 他
5 6 7 8	薬物療法と看護 経口与薬，注射法 (点滴の準備，筋肉内注射， 静脈内注射)	薬物を取り扱う際の法的責任について知る。また，薬物の正しい管理や取り扱い，正しい与薬を実施するための知識を学ぶ。そして，各種与薬方法の特徴を理解し，適切な援助方法を学ぶ。	齋藤，大黒， 佐々木 他
9 10	人間の尊厳	看護倫理：看護における人間理解 生命倫理：生命の本質と看護との関わり	田畑邦治
11 12	看護とセクシュアリティ	セクシュアリティに関する理解を深め，看護実践の中で，対象と看護者のセクシュアリティを尊重した看護を考える。	大谷真千子
13 14 15 16	グループワーク	1年を通じて学習してきた看護技術について，グループワークを行う。	齋藤，大黒， 佐々木 他

*日時は変更する場合がある。4/7(木)に配布する，基礎看護学開講科目日程表を参照のこと。

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室4(3号館7階)，看護実習室1および2(3号館17階)ほか

4 教科書・参考書

香春知永、齋藤やよい：基礎看護技術、南江堂、2009
 山口瑞穂子：看護技術講義・演習ノート下巻、医学芸術社、2006
 三上れつ、小松万喜子：演習・実習に役立つ基礎看護技術、ヌーヴェル・ヒロカワ、2008
 その他、基礎看護学一学内演習の手引き一、テーマに関連した資料を配付
 テーマに関連した参考図書は随時紹介

5 他科目との関連

基礎看護学関連科目，応用看護学の概論，解剖学，生理学，薬理学，微生物学，生化学，栄養学などの科目との関連性が高い。

6 受講上の注意

生体への侵襲を伴う技術であり，技術の未熟さが直接医療事故に結びつく。学生単独ではなく，必ず教員の指導の下で演習すること。その他，演習上の注意は基礎看護学演習Ⅰと同じ。

7 成績評価方法

演習の事前・事後レポート，筆記試験，出席状況と演習参加の姿勢により総合的に評価する。

基礎看護学実習Ⅱ

Practice of Fundamental Nursing Ⅱ

齋藤 や よ い

1 実習の概要・目的

既習の知識・技術を統合し、対象の個別性を考慮した看護を実践するための方法を学ぶ。さらに、看護の実践を通して、看護の責務と態度について考える機会とする。

この実習は、看護に共通する方法や技術を学習することを目的とし、続いて行われる領域別看護実習へ展開させる基礎となる。

2 教育目標

1) 受持患者の生活援助を中心とした看護過程を展開し、基礎的な看護技術を実施する。

- (1) 対象を看護の視点でアセスメントする方法を学ぶ。
- (2) 対象の個別性を重視した看護の方法を学ぶ。
- (3) 日常生活上のニーズをとらえ、基礎的な看護技術を実施する。

2) 専門援助的な人間関係をつくる。

- (1) 患者との関係を予測し、援助者としての自分を調える。
- (2) 目標に向かって相互協力関係を成立させる。

3) 臨床場面における看護師としての責務と姿勢・態度を学ぶ。

- (1) 事故を予防し安全を促進する責任を学ぶ。
- (2) 感染防止の実際を学ぶ。
- (3) 生命の尊厳とプライバシーの保護の方法と重要性を学ぶ。

4) 学生としての適切な態度・行動をとる。

- (1) 患者・家族との適切なコミュニケーションをとる。
- (2) 看護チームとの連携をとる。
- (3) 他者からの評価を受け入れ、次の行動に活かす。
- (4) カンファレンスに積極的に参加する。
- (5) 適切な言葉遣いをする。
- (6) 身だしなみがよく、清潔感がある。
- (7) 記録が適切であり、期限内に提出する。
- (8) 収集した医療看護情報を、適切な時期に報告・伝達する。

3 実習内容・方法等

〔実習対象〕 基礎看護学Ⅰ、基礎看護学Ⅱ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得した者

〔実習期間〕 9月8日(木)～9月21日(水)

〔場 所〕 保健衛生学講義室4(3号館7階)、看護実習室1(3号館17階)
医学部附属病院および歯学部附属病院

〔単 位〕 必修2単位

(詳細については、後日配布する実習要項に提示)

成人看護学 I (概論)

Adult Health Nursing I

井上 智子

1 科目の概要

成人看護学は、I～IVで構成している。そのうち、Iは成人期にある人々の特徴を理解し、外科的治療および内科的治療を必要とする患者の急性期から回復期、および慢性期にいたる疾病段階にある人々に対して必要な看護の原則について講義を通して学ぶ。これを通して、健康障害のある患者の看護を身体系統別に理解する上での基礎的知識を養う。

2 教育方針・教育目標

- 1) 成人期にある人々の特徴を理解できる。
- 2) 成人期の健康問題とその影響、必要な看護ケアを理解できる。
- 3) 外科的・内科的治療を必要とする患者の看護ケアを理解できる。
- 4) 回復期、慢性期、退院に関する看護ケアを理解できる。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1	4/8(金) 2	成人看護学概論 (1)	オリエンテーション・成人期の特徴と成人各期の理解	井上 智子
2	4/22(金) 2	成人看護学概論 (2)	成人の健康問題と健康生活を促す看護	井上 智子
3	4/26(火) 3	手術患者の看護 (1) (術前の看護①)	手術を受ける患者の身体および心理的特徴の理解	佐々木 吉子
4	4/26(火) 4	手術患者の看護 (2) (術前の看護②)	術前における看護の実際 (術前指導・検査看護ほか)	佐々木 吉子
5	5/13(金) 2	手術患者の看護 (3) (術中の看護①)	手術室看護師の役割と看護の実際	佐々木 吉子
6	5/20(金) 2	手術患者の看護 (4) (術後の看護②)	術後急性期における看護 (観察、全人的アセスメント、合併症予防、回復促進のためのケアについて)	川本 祐子
7	5/27(金) 2	手術患者の看護 (5) (術後の看護③)	術後回復期における看護 (後障害への適応に向けた看護の役割と家族支援について)	川本 祐子
8	6/3(金) 1	退院指導 (1)	退院調整活動の理解	吉田 千文
9	6/3(金) 2	退院指導 (2)	退院調整活動の実際	吉田 千文
10	6/10 (金) 1	慢性病患者の看護 (1)	慢性病の動向、慢性病患者の特徴の理解	内堀 真弓
11	6/10(金) 2	慢性病患者の看護 (2)	慢性病患者の生活支援方法とQOLについて	内堀 真弓
12	6/17(金) 2	がん看護 (1)	がん患者を取り巻く諸問題と看護の展望	亀田 真美
13	6/24(金) 1	がん看護 (2)	がんの治療の特徴 (特に血液疾患患者への化学療法) と治療に伴うさまざまな問題、看護支援について	小澤 桂子
14	6/24(金) 2	救急看護 (1)	本邦における救急医療システムと看護の役割	佐々木 吉子
15	7/1(水) 2	救急看護 (2)	災害看護	佐々木 吉子

[単位] 必修2単位

[場所] 保健衛生学講義室4 (3号館7階) ほか

4 教科書・参考書

テーマによる参考図書を紹介

5 他科目との関連

6 受講上の注意

解剖・生理学、病態学を習得のこと。

7 成績評価方法

学期末筆記試験、および課題レポートにより評価する。

成人看護学Ⅱ（各論）

Adult Health Nursing II

井上 智子

1 科目の概要

既習の病態学および成人看護学Ⅰをもとに、身体系統別の健康障害を有する成人期にある人々を理解し、それらの人々に対しての具体的な看護支援方法を学ぶ。

2 教育方針・教育目標

アセスメント、一般的看護問題とその成因および看護活動が理解できる。

3 教育内容

回数	日時	項目	担当者
1	10/18(火) 2	呼吸器系障害患者の看護 (1) 「基礎編」	矢富 有見子
2	10/21(金) 2	呼吸器系障害患者の看護 (2) 「実践編」	矢富 有見子
3	10/25(火) 2	循環器系障害患者の看護 (1)	三村 昭美
4	11/1(火) 2	循環器系障害患者の看護 (2)	三村 昭美
5	11/4(金) 2	内分泌・代謝系障害患者の看護	内堀 真弓
6	11/8(火) 2	腎障害患者の看護	斉藤 しのぶ
7	11/11(金) 2	感覚器系障害患者の看護	花出 正美
8	11/18(金) 2	女性生殖器系障害患者の看護	川本 祐子
9	11/25(金) 2	運動器系障害患者の看護	佐々木 吉子
10	11/29(火) 2	膠原病・難病患者の看護	川瀬 祥子
11	12/6(火) 2	泌尿器系障害患者の看護	三村 昭美
12	12/14(火) 2	消化器系障害患者の看護 (1) 「肝胆脾編」	小池 智子
13	12/20(火) 2	消化器系障害患者の看護 (2) 「管腔臓器編」	武田 祐子
14	1/13(金) 2	脳神経系障害患者の看護 (1) 「急性期看護」	佐々木 吉子
15	1/20(金) 2	脳神経系障害患者の看護 (2) 「回復期・慢性期看護」	佐々木 吉子

[単位] 必修2単位

[場所] 保健衛生学講義室4（3号館7階）

4 教科書・参考書

テーマによる参考図書の紹介

5 他科目との関連

前期での成人看護学Ⅰ（概論）および解剖・生理学、病態学の授業内容をよく理解しておくこと。

6 受講上の注意

解剖学、生理学、病態学、薬理学との知識を統合させながら、講義内容の理解に努めること。

7 成績評価方法

学期末筆記試験、および課題レポートにより評価する。

精神看護学

Psychiatric Nursing

宮本真巳

1 科目の概要

精神看護学の前提となる精神科診断学、治療学等の精神医学的な知識をと共に、精神科リハビリテーション、リエゾン精神医学、司法精神医療等、精神医療の関連領域におけるアセスメントとセラピーの方法とその理論的背景について学ぶ。併せてそれらの内容を看護学の視点から吟味し、再構成を図る。

2 教育方針・教育目標

精神的な機能の障害を精神医学的な疾患論、病理学、障害学、診断学に基づいて評価する方法や、薬物療法、精神療法、芸術療法などによって回復をもたらす方法について学ぶ。また、精神医療システムの中で看護職が保健医療チームの一員として、それらの知識や方法を看護的援助に生かしながら、どのような役割をとっていく必要があるかについて考察を深める。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1	10/6(木) 3	精神障害の成因と分類	精神的機能の障害と精神病理、精神疾患の分類と国際障害分類	宮本真巳
2	10/6(木) 4	器質性精神病の診断と治療	意識障害と精神症状、せん妄、健忘その他の認知障害、身体疾患による精神症状	竹内 崇
3	11/17(木) 3	統合失調症の診断と治療	統合失調症の概念、病型（解体型、緊張型、妄想型等）、症状、診断、経過、治療	山本直樹
4	11/17(木) 4	気分障害の診断と治療	気分障害の概念、うつ状態と躁状態、気分障害の治療	西川 徹
5	11/24(木) 3	てんかんの診断と治療	てんかんの発作と分類、てんかん性精神障害、脳波検査法	原 恵子
6	11/24(木) 4	生物学的精神医学の到達点	脳科学、分子生物学の進歩による精神科治療の発展とその可能性	西川 徹
7	12/1(木) 3	精神科の薬物療法	向精神薬の薬理作用と副作用、抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬	車地暁生
8	12/1(木) 4	神経症と人格障害の診断と治療	神経症の概念、不安障害、強迫性障害、転換性障害、心気症／人格障害の概念、類型、経過、人格障害の患者との治療的接触	大島一成
9	12/8(木) 3	絵画療法の実践（1）	キミ子方式による絵画療法の理論と実際(1)	松本一郎
10	12/8(木) 4	絵画療法の実践（2）	キミ子方式による絵画療法の理論と実際(2)	松本一郎
11	12/15(木) 3	ボディワーク（1）	ボディワーク（野口体操）の理論と実践(1)	高岸昭代
12	12/15(木) 4	ボディワーク（2）	ボディワーク（野口体操）の理論と実践(2)	高岸昭代
13	1/5(木) 3	精神医学と精神看護学	精神疾患患者の心理教育とセルフケア支援、治療共同体と集団精神療法、日常的行為の精神病理、暴力の精神病理と司法に関連する精神医学・精神看護学	宮本真巳
14	1/5(木) 4	アディクションの診断と治療	アディクションの概念、アルコール依存症とアルコール精神病、その他の依存症	宮本真巳
15	1/12(木) 3	リエゾン精神医学	リエゾン精神医学の歴史と概念、身体疾患患者の持つ精神的な問題、リエゾン精神科医の役割	松島英介
16	1/12(木) 4	精神療法と芸術療法	個人精神療法と絵画療法	前田健二郎

[単位] 必修2単位

[場所] 保健衛生学講義室4（3号館7階）ほか

4 教科書・参考書

教科書

日本精神科看護技術協会監修「改訂 精神看護学」中央法規出版, 2006

参考書

中井久夫・山口直彦著「看護のための精神医学」医学書院, 2001

融道男他監訳「ICD-10 精神及び行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン 新訂版」医学書院, 2005

高橋三郎他訳「DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引 新訂版」医学書院, 2003

世界保健機関 (WHO) 「国際生活機能分類－国際障害分類改訂版」中央法規, 2002

笠原嘉「精神病」岩波書店, 1998

神田橋條治「追補精神科診断面接のコツ」岩崎学術出版, 1994

土居健郎「新訂方法としての面接」医学書院, 1992

C.S. エイメンソン (松島義博他訳) 「家族のための精神分裂病入門」星和書店, 2001

松本キミ子「キミ子方式スケッチ入門」JTB, 2001

齊藤学「アルコール依存症に関する12章」有斐閣, 1986

宮本真巳・安田美弥子編著「アディクション看護」医学書院, 2008

宮本真巳他編著「実践精神科看護テキスト 14 薬物・アルコール依存症看護」精神看護出版, 2008

J.R. ランデル他 (松浦雅人、松島英介訳) 「コンサルテーション・リエゾン精神医学ガイド」
メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2002

5 他科目との関連

看護心理学, 地域精神看護学, 精神看護学演習等の科目と関連する。

6 受講上の注意

様々な精神障害の特徴について国際的な分類基準に沿って学ぶと共に, 精神医学の見方と精神障害を持つ人の体験や看護の視点との関連についても考えて欲しい。

7 成績評価方法

学期末の筆記試験によって行う。

小児看護学 I

Pediatric Nursing I

廣 瀬 たい子

1 科目の概要

小児は成長発達する存在であり、大人とは質的に異なる面がある。小児の特徴を生涯発達の視点から理解する。また、学校保健の視点から成長期にある幼児、児童、生徒、学生の健康の保持増進をはかるための、学校教育および学校保健管理活動を理解する。

2 教育方針・教育目標

小児は生理的、認知的、情緒的、生活能力の面で未熟な部分を保有しながら出生し、環境と相互作用しながら成長・発達する。個体と環境との力動関係を理解しながら、小児の発達について学習することを目標とする。加えて、学校教育の場で成長発達の途上にある小児の生活・健康について、学校保健活動を通して理解する。また、学校保健行政施策を含めて、様々な専門領域から小児看護学および、学校看護を理解する。

3 教育内容

子どもの成長発達の理解、子どもをとりまく環境と生活の理解と支援を学ぶために、また、学校保健の理念と実践、技法を学ぶため、以下の講義内容を編成する。

回数	項 目	内 容	担当者
1	子どもとは	子ども観の変遷	廣 瀬
2	小児の健康 乳児期の発育	小児保健統計・ヘルスプロモーション 乳幼児期の形態・機能発育	
3	乳児期の成長発達	乳児期の精神・運動発達	廣 瀬
4	幼児期の成長発達	幼児期の精神・運動発達と生活の特徴	岡 光
5	学童期の成長発達	学童期の精神・運動発達と生活の特徴	廣 瀬
6	学校保健総論	学校保健の目的、対象、内容、方法	佐見由紀子
7	学校保健管理の実際	健康診断・相談、生活・環境管理、学校安全	
8	学校保健法	学校保健法	
9	思春期の成長発達	思春期の精神・運動発達と生活の特徴	廣 瀬
10	学校保健管理の実際	学校給食・栄養教育	笹原道子

[単位] 必修 1 単位

[場所] 保健衛生学講義室 4 (3号館 7階) ほか

4 教科書・参考書

教科書 中野綾美：小児の発達と看護 (メディカ出版)

中野綾美：小児看護技術 (メディカ出版)

参考書 上田礼子：生涯人間発達学 (三輪書店)

上田礼子他編著：小児保健学 (福林出版)

黒田泰弘編：最新育児小児病学 改訂第4版 (南江堂)

イリングワース(山口規容子監訳)：ノーマルチャイルド (メディカル・インターナショナル)

高石昌弘, 出井美智子：学校保健マニュアル第5版 (南山堂)

鈴木路子, 眞野喜洋編：教育健康学—教育と医療の接点を求めて (ぎょうせい)

5 成績評価方法

期末試験, 小テスト, レポート

小児看護学演習 I

Seminar of Pediatric Nursing I

廣 瀬 たい子

1 科目の概要

多様化しつつある子どもの環境および生活の中で、小児看護は発達と健康を支援するための知識・技術が幅広く求められている。小児特有の疾患を理解し、必要なケアと技術を学習する。

2 教育方針・教育目標

常に成長・発達を続ける小児に見られる特有な疾患の特徴を理解し、必要なケア及び態度・技術を学習する。

3 教育内容

小児特有の疾患を理解し、看護実践に必要な知識とスキルを習得するための学習をする。

回数	項目	内容	担当者
1	小児看護の対象と役割 小児を取り巻く環境	小児看護とは（小児と医療システムも含む） 病気・入院による小児と家族の反応	廣 瀬
2	疾患論：内分泌、代謝性疾患	内分泌、代謝性疾患の特徴	鹿島田健一
3	疾病論：血液、腫瘍性疾患、 アレルギー、免疫	血液・腫瘍性疾患、アレルギー、免疫疾患の特徴	大川洋二
4	疾患論：消化器、腎疾患	消化器、腎疾患の特徴	元吉八重子
5	疾病論：神経、運動器疾患	神経、運動器疾患の特徴	荒木 聡
6	急性疾患をもつ小児の看護	小児の急性期の主要症状と看護	岡 光
7	疾病論：小児外科	小児外科系疾患の特徴	川嶋 寛
8	疾病論：小児外科		
9	慢性疾患をもつ小児の看護	慢性疾患をもつ小児と家族の看護（腎疾患）	山崎道子
10	疾病論：循環器	循環器の特徴	土井庄三郎
11	疾患論：感染症	感染症の特徴	
12	疾患論：呼吸器、川崎病、膠原病、 予防接種	呼吸器、川崎病、膠原病、予防接種の特徴	土井庄三郎
13	急性疾患をもつ小児の看護	周手術期にある小児と家族の看護（外科系疾患）	岩崎美和
14	慢性疾患をもつ小児の看護	ターミナル期にある小児の看護	井桁洋子
15	慢性疾患をもつ小児の看護	慢性疾患をもつ小児と家族の看護（小児がん）	廣 瀬
16	慢性疾患をもつ小児の看護	慢性疾患をもつ小児と家族の看護（内分泌）	駒松仁子

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室4（3号館7階）

4 教科書・参考書

教科書：奈良間美保編著 系統看護学講座 小児看護学（2）小児臨床看護各論 改訂版（医学書院）2006

岡田洋子，荃津智子，井上由紀子，志賀加奈子著：小児看護学3 家族への系統的アプローチの実践 医歯薬出版株式会社 2006

参考書：野中淳子編著 子どもの看護技術（へるす出版）

木口チヨ，小林八千代：イラスト小児の生活と援助（文光堂）

病児の遊びと生活を考える会編：入院時のための遊びとおもちゃ（中央法規）

筒井真優美：これからの小児看護（南江堂）

黒田泰弘編：最新育児小児病学 改訂第4版（南江堂）

5 他科目との関連

小児看護学 I で学んだ健康な小児の理解を基に、小児の疾患、小児看護の各論について学習する。解剖学、生理学で学んだ小児の特徴について知識を習得していることが必要である。

6 成績評価方法

期末試験，小テスト

在宅看護学 I

Home Care Nursing I

本田彰子

松下祥子

1. 科目の概要

保健医療福祉の中での在宅看護、特に訪問看護の役割機能を学ぶとともに、制度の中で展開される看護実践について理解する。

2. 教育方針・教育目標

保健医療福祉の領域で、特に地域で生活する人々、自宅で療養生活を送る人々に対して、実際の看護提供の仕組みを理解した上で、看護の役割と実際を学ぶ。

3. 教育内容

回	日時	時限	内容	担当教員
1	10月6日	Ⅱ	在宅看護の概念	本田彰子
2	10月27日	Ⅱ	訪問看護の特徴と取り巻くしくみ	松下祥子
3		Ⅲ	訪問看護ステーションの成り立ち	本田彰子
4	11月10日	Ⅱ	訪問看護の実際 終末期療養者	本田彰子
5	11月17日	Ⅰ	訪問看護の実際 高齢者・難病療養者	松下祥子
6		Ⅱ		
7	11月24日	Ⅰ	訪問看護の実際 精神疾患療養者	千葉信子 多摩たんぽぽ介護サービスセンター
8		Ⅱ		

〔単位〕 必修1単位

〔場所〕 保健衛生学講義室4(3号館7階)

4. 教科書・参考書

川越博美, 佐藤美穂子, 山崎摩耶編著: 最新 訪問看護研修テキスト, 日本看護協会出版会.

5. 他の科目との関連

3年次に学習する在宅看護学Ⅱ、在宅看護学演習、在宅看護学実習の基礎となる科目であるので、2年次に履修および単位取得していることが進級に必要である。

6. 受講上の注意

7. 成績評価方法

出席、および定期試験

第 3 学年

平成23年度時間割(看護学専攻:第3学年)

(前期) ※3年次実習の詳細については、別途連絡する。

	①	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
4/6	水	学年別オリエンテーション	2	英文講読Ⅱ(1)	2						
7	木	小児看護学Ⅱ(1)	2	小児看護学Ⅱ(2)	2	母性看護学Ⅰ(1)	2	母性看護学演習(1)	実習室1,2	母性看護学演習(2)	実習室1,2
8	金	地域看護学Ⅰ(1)	2	地域看護学Ⅰ(2)	2	地域精神看護学(1)	2				
	②	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
4/11	月	老年看護学(1)	2	老年看護学(2)	2	精神看護学演習(1)	2	精神看護学演習(2)	2		
12	火	母性看護学Ⅱ(1)	2	母性看護学Ⅰ(2)	2	老年看護学演習(1)	2	老年看護学演習(2)	2	老年看護学演習(3)	2
13	水			英文講読Ⅱ(2)	2						
14	木					小児看護学演習Ⅱ(1)	2	小児看護学演習Ⅱ(2)	2	小児看護学演習Ⅱ(3)	2
15	金	地域看護学Ⅰ(3)	2	地域看護学Ⅰ(4)	2	地域精神看護学(2)	2				
	③	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
4/18	月	老年看護学(3)	2	老年看護学(4)	2	精神看護学演習(3)	2	精神看護学演習(4)	2		
19	火	母性看護学Ⅲ(1)	2	母性看護学Ⅱ(2)	2	成人看護学演習(1)	2	成人看護学演習(2)	2		
20	水			英文講読Ⅱ(3)	2						
21	木	小児看護学Ⅱ(3)	2	小児看護学Ⅱ(4)	2	母性看護学Ⅲ(2)	2	母性看護学Ⅲ(3)	2	母性看護学Ⅰ(3)	2
22	金	地域看護学Ⅰ(5)	2	地域看護学Ⅰ(6)	2	地域精神看護学(3)	2				
	④	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
4/25	月	老年看護学(5)	2	老年看護学(6)	2	精神看護学演習(5)	2	精神看護学演習(6)	2		
26	火	母性看護学Ⅰ(4)	2	母性看護学Ⅰ(5)	2	老年看護学演習(4)	2	老年看護学演習(5)	2	老年看護学演習(6)	2
27	水			英文講読Ⅱ(4)	2						
28	木			成人看護学Ⅲ(1)	2	小児看護学演習Ⅱ(4)	2	小児看護学演習Ⅱ(5)	2		
29	金	昭和の日									
	⑤	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/2	月										
3	火	憲法記念日									
4	水	みどりの日									
5	木	こどもの日									
6	金	地域看護学Ⅰ(7)	2	地域看護学Ⅰ(8)	2	地域精神看護学(4)	2				
	⑥	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/9	月	老年看護学(7)	2	老年看護学(8)	2	精神看護学演習(7)	2	精神看護学演習(8)	2		
10	火	母性看護学Ⅱ(3)	2	母性看護学Ⅱ(4)	2	成人看護学演習(3)	2	成人看護学演習(4)	2	成人看護学演習(5)	2
11	水			英文講読Ⅱ(5)	2	疫学(1)	2	疫学(2)	2		
12	木	小児看護学Ⅱ(5)	2	成人看護学Ⅲ(2)	2	母性看護学Ⅲ(4)	2	母性看護学演習(3)	2	母性看護学Ⅱ(5)	2
13	金	地域看護学Ⅱ(1)	2	地域看護学Ⅱ(2)	2	地域精神看護学(5)	2	在宅看護学演習(1)	2	在宅看護学演習(2)	2

平成23年度時間割(看護学専攻:第3学年)

	⑦	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/16	月	老年看護学(9)	2	老年看護学(10)	2	精神看護学演習(9)	2	リハビリテーション看護学(1)	2		
17	火	母性看護学Ⅱ(6)	2	母性看護学演習(4)	2	老年看護学演習(7)	2	老年看護学演習(8)	2	老年看護学演習(9)	2
18	水			英文講読Ⅱ(6)	2						
19	木			成人看護学Ⅲ(3)	2	小児看護学演習Ⅱ(6)	2	小児看護学演習Ⅱ(7)	2	小児看護学演習Ⅱ(8)	2
20	金	地域看護学Ⅱ(3)	2	地域看護学Ⅱ(4)	2	地域精神看護学(6)	2	在宅看護学演習(3)	2	在宅看護学演習(4)	2

	⑧	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/23	月	老年看護学(11)	2	老年看護学(12)	2	精神看護学演習(10)	2	リハビリテーション看護学(2)	2		
24	火	母性看護学Ⅱ(7)	2	母性看護学Ⅲ(5)	2	成人看護学演習(6)	2	成人看護学演習(7)	2	成人看護学演習(8)	2
25	水			英文講読Ⅱ(7)	2	疫学(3)	2	疫学(4)	2		
26	木			成人看護学Ⅲ(4)	2	母性看護学Ⅱ(8)	2	母性看護学Ⅲ(6)	2	母性看護学Ⅲ(7)	2
27	金	地域看護学Ⅱ(5)	2	地域看護学Ⅱ(6)	2	地域精神看護学(7)	2	在宅看護学演習(5)	2	在宅看護学演習(6)	2

	⑨	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/30	月	老年看護学(13)	2	老年看護学(14)	2	精神看護学演習(11)	2	リハビリテーション看護学(3)	2		
31	火	母性看護学Ⅲ(8)	2	母性看護学演習(5)	2	老年看護学演習(10)	2	老年看護学演習(11)	2	老年看護学演習(12)	2
6/1	水			英文講読Ⅱ(8)	2	疫学(5)	2	疫学(6)	2		
2	木			成人看護学Ⅲ(5)	2	小児看護学演習Ⅱ(9)	2	小児看護学演習Ⅱ(10)	2	小児看護学Ⅱ(6)	2
3	金	地域看護学Ⅱ(7)	2	地域看護学Ⅱ(8)	2	地域精神看護学(8)	2	在宅看護学演習(7)	2	在宅看護学演習(8)	2

	⑩	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
6/6	月	老年看護学(15)	2	老年看護学(16)	2	精神看護学演習(12)	2	リハビリテーション看護学(4)	2		
7	火	母性看護学Ⅰ(6)	2	母性看護学演習(6)	2	成人看護学演習(9)	2	成人看護学演習(10)	2		
8	水			英文講読Ⅱ(9)	2	疫学(7)	2	疫学(8)	2		
9	木	小児看護学Ⅱ(7)	2	成人看護学Ⅲ(6)	2	母性看護学Ⅱ(9)	2	母性看護学Ⅰ(7)	2	母性看護学演習(7)	2
10	金	在宅看護学Ⅱ(1)	2	在宅看護学Ⅱ(2)	2	在宅看護学演習(9)	2	在宅看護学演習(10)	2		

	⑪	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
6/13	月	老年看護学(17)	2	老年看護学(18)	2	精神看護学演習(13)	2	リハビリテーション看護学(5)	2		
14	火					老年看護学演習(13)	2	老年看護学演習(14)	2	老年看護学演習(15)	2
15	水			英文講読Ⅱ(10)	2	英文講読Ⅱ(11)	2				
16	木					小児看護学演習Ⅱ(11)	2	小児看護学演習Ⅱ(12)	2	小児看護学Ⅱ(8)	2
17	金	在宅看護学Ⅱ(3)	2	在宅看護学Ⅱ(4)	2	在宅看護学演習(11)	2	在宅看護学演習(12)	2		

	⑫	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
6/20	月	老年看護学(19)	2	老年看護学(20)	2	精神看護学演習(14)	2	リハビリテーション看護学(6)	2		
21	火					成人看護学演習(11)	2	成人看護学演習(12)	2	成人看護学演習(13)	2
22	水			英文講読Ⅱ(12)	2	英文講読Ⅱ(13)	2				
23	木	小児看護学Ⅱ(9)	2	小児看護学Ⅱ(10)	2	母性看護学演習(8)	2	母性看護学演習(9)	2		
24	金	在宅看護学Ⅱ(5)	2	在宅看護学Ⅱ(6)	2	在宅看護学演習(13)	2	在宅看護学演習(14)	2		

平成23年度時間割(看護学専攻:第3学年)

	⑬	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
6/27	月	老年看護学(21)	2	老年看護学(22)	2	精神看護学演習(15)	2	リハビリテーション看護学(7)	2		
28	火			成人看護学Ⅲ(7)	2	母性看護学演習(10)	実習室1,2	母性看護学演習(11)	実習室1,2	母性看護学Ⅰ(8)	2
29	水			英文講読Ⅱ(14)	2						
30	木	母性看護学演習(12)	実習室1,2	母性看護学演習(13)	実習室1,2	小児看護学演習Ⅱ(13)	2	小児看護学演習Ⅱ(14)	2	小児看護学演習Ⅱ(15)	2
7/1	金	在宅看護学Ⅱ(7)	2	在宅看護学Ⅱ(8)	2	在宅看護学演習(15)	2	在宅看護学演習(16)	2		

	⑭	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
7/4	月	老年看護学(23)	2	老年看護学(24)	2	精神看護学演習(16)	2	リハビリテーション看護学(8)	2		
5	火			母性看護学演習(14)	2	成人看護学演習(14)	2	成人看護学演習(15)	2	成人看護学演習(16)	2
6	水			英文講読Ⅱ(15)	2						
7	木			成人看護学Ⅲ(8)	2	母性看護学演習(15)	実習室2,準備室1,他	母性看護学演習(16)	実習室2,準備室1,他		
8	金										

	⑮	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
7/11	月										
12	火										
13	水										
14	木										
15	金										

	①	8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50		
7/18	月	海の日										
19	火	前期定期試験										
20	水	前期定期試験										
21	木	前期定期試験										
22	金	前期定期試験					TOEFL/ITP試験					

	②	8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50	
7/25	月	前期定期試験									
26	火	前期定期試験									
27	水	前期定期試験									

※授業	①	8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50	
7/28	木	保育園実習									
29	金	保育園実習									

		8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50	
8/1	月	夏季休業 ~9/28(水)									

前期定期試験 7/19(火)~7/25(月) ※TOEFL/ITP試験:7/22(金)13:00~15:50

保育園実習 7/28(木)~7/29(金) 追試・再試7/26(火)~7/27(水)

夏季休業 8/1(月)~9/28(水)

平成23年度時間割(看護学専攻:第3学年)

(後期)

9/29 30	①	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
	木	実習オリエンテーション									
	金										
10/3 4 5 6 7	②	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
	月	臨地実習									
	火										
	水	卒業論文 I (1)	2	卒業論文 I (2)	2						
	木	臨地実習									
金											
10/10 11 12 13 14	③	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
	月	体育の日									
	火	臨地実習									
	水										
	木	臨地実習									
金											
10/17 18 19 20 21	④	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
	月	臨地実習									
	火										
	水	卒業論文 I (3)	2	卒業論文 I (4)	2						
	木	臨地実習									
金											
10/24 25 26 27 28	⑤	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
	月	臨地実習									
	火										
	水	卒業論文 I (5)	2	卒業論文 I (6)	2						
	木	臨地実習									
金											
10/31 11/1 2 3 4	⑥	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
	月	臨地実習									
	火										
	水			卒業論文 I (7)	2						
	木	文化の日									
金											

平成23年度時間割(看護学専攻:第3学年)

	⑦	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
11/7	月	臨地実習									
8	火	臨地実習									
9	水			卒業論文 I (8)	2						
10	木	臨地実習									
11	金	臨地実習									
	⑧	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
11/14	月	臨地実習									
15	火	臨地実習									
16	水			卒業論文 I (9)	2						
17	木	臨地実習									
18	金	臨地実習									
	⑨	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
11/21	月	臨地実習									
22	火	臨地実習									
23	水	勤労感謝の日									
24	木	臨地実習									
25	金	臨地実習									
	⑩	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
11/28	月	臨地実習									
29	火	臨地実習									
30	水			卒業論文 I (10)	2						
12/1	木	臨地実習									
2	金	臨地実習									
	⑪	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
12/5	月	臨地実習									
6	火	臨地実習									
7	水										
8	木	臨地実習									
9	金	臨地実習									
	⑫	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
12/12	月	臨地実習									
13	火	臨地実習									
14	水			卒業論文 I (11)	2						
15	木	臨地実習									
16	金	臨地実習									
	⑬	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
12/19	月	臨地実習									
20	火	臨地実習									
21	水										
22	木	臨地実習									

冬季休業 12/23(金)~1/9(月)

平成23年度時間割(看護学専攻:第3学年)

1/10	①	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
	火	臨地実習										
	11	水		卒業論文 I (12)	2							
	12	木	臨地実習									
	13	金	臨地実習									
1/16	②	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
	17	火	臨地実習									
	18	水		卒業論文 I (13)	2							
	19	木	臨地実習									
	20	金	臨地実習									
1/23	③	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
	24	火	臨地実習									
	25	水		卒業論文 I (14)	2							
	26	木	臨地実習									
	27	金	臨地実習									
1/30	④	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室	
	31	火	臨地実習									
	2/1	水		卒業論文 I (15)	2							
	2	木	臨地実習									
	3	金	臨地実習									
2/6	①	8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50		
	7	月	後期定期試験									
	8	火	後期定期試験									
	9	水	後期定期試験									
	10	木	後期定期試験									
2/13	②	8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50		
	14	月	補講・再試									
	15	火	補講・再試									
	16	水	補講・再試									
	17	木	補講・再試									

後期定期試験 2/6(月)~2/10(木)

補講・再試期間 2/13(月)~2/17(金)

春季休業 2/20(月)~

疫 学

Epidemiology

横 山 徹 爾

1 科目の概要

疫学は、人間集団を対象にして、疾病、異常、傷害、さらに、健康の頻度（率）の分布を記述し、これらの状態を規定している因子を研究する学問である。一言でいうと、集団レベルで、原因不明の疾病の原因を追求する学問である。

2 教育方針・教育目標

疫学の原理と方法を学ぶことによって、疾病の予防、健康増進を目的とした保健活動を科学的に行えるようにする知識、技術を習得する。看護の場では、科学的根拠に基づいて、妥当性の高いケアを実践できるようにする。

3 教育内容

総論では、疫学の原理と方法に関する基礎的知識を学習する。各論では、歴史的事件等を材料にして、疫学方法論の知識を深める。演習では、具体的な事例を題材にして、健康問題の発見、当該健康問題の原因追及、予防対策の樹立、予防対策の実施、予防対策の評価をシミュレーションし、疫学の応用あるいは公衆衛生活動のあり方を学習する。

回数	日 時	項 目	内 容	担当者
1	5/11(水)	総論 1	疫学の概要, 疾病頻度の測定	横山徹爾
2	3, 4	総論 2	記述疫学, 疫学的仮説の設定	
3	5/25(水)	総論 3	症例・対照研究とコホート研究, 介入研究	〃
4	3, 4	総論 4	因果関係の推理, 交絡変数の調整	
5	6/1(水)	各論 1	循環器疾患の疫学	〃
6	3, 4	各論 2	がんの疫学	
7	6/8(水)	各論 3	環境問題と疫学	〃
8	3, 4	演習	健康問題の解決	

[単位] 必修 1 単位

[場所] 保健衛生学講義室 2 (3号館 8階) ほか

4 教科書・参考書

「疫学入門演習－原理と方法」第3版(南山堂)を教科書として用いるので必携。

5 他科目との関連

衛生学・公衆衛生学の基礎的学問である。保健統計学は、疫学的研究の手段として利用される。疫学の考え方、疫学で使われる手法は卒業論文、学位論文などの研究にも密接に結びついている。

6 受講上の注意

感染症, common diseases などの定義, 症状, 診断手技, 治療の概要を知っておくことが大切である。統計学の入門レベル, 例えば, 平均値, 標準偏差, 平均値の差の検定, 率の差の検定, 相関係数の算出とその意義ぐらいを習得しておくことは必須である。

7 成績評価方法

筆記試験, 課題レポートにより評価する予定。

英文講読 II

English for Nursing II

木下裕太

1 科目の概要

医療に関する文章を英語で読み、医学英語の知識を深める。

2 教育方針・教育目標

医学英語に用いられる語彙や表現に親しみ、医療に関する英文テキストの内容を把握することを目的とする。併せて音声・DVD 教材なども用いて、総合的な英語力を高める。

3 教育内容

昨年度(2年時)に引き続き、テキスト *Health Care Today* を使用し、医療に関する英文を精読する。また、医療に関する海外ドラマ・映画等を副教材として、医学英語の音声に慣れる。

回数	日時		内容	担当者
1	4/6 (水)	2限	ガイダンス/ <i>Health Care Today</i> I-3	木下
2	4/13(水)	2限	<i>Health Care Today</i> III-2	〃
3	4/20(水)	2限	<i>Health Care Today</i> III-3	〃
4	4/27(水)	2限	<i>Health Care Today</i> IV-2	〃
5	5/11(水)	2限	小テスト1 / DVD 教材	〃
6	5/18(水)	2限	<i>Health Care Today</i> IV-3	〃
7	5/25(水)	2限	<i>Health Care Today</i> IV-4	〃
8	6/1 (水)	2限	<i>Health Care Today</i> V-1	〃
9	6/8 (水)	2限	<i>Health Care Today</i> V-2	〃
10	6/15(水)	2限	小テスト2 / DVD 教材	〃
11	6/15(水)	3限	DVD 教材	〃
12	6/22(水)	2限	<i>Health Care Today</i> V-5	〃
13	6/22(水)	3限	DVD 教材	〃
14	6/29(水)	2限	<i>Health Care Today</i> VI-1/総復習	〃
15	7/6(水)	2限	期末試験	〃

[単位] 必修 1 単位

[場所] 保健衛生学講義室 2 (3号館8階)

4 教科書・参考書

Health Care Today (Asahi Press) (2010 年度「英文講読 I」で使用したものと同一)

5 他科目との関連

6 受講上の注意

テキストの予習は必須。前もって該当箇所を目を通し、知らない単語があれば辞書で調べ、できる限り文章の内容を把握した状態で授業に臨むこと。

7 成績評価方法

出席日数は、全授業回数の3分の2が必要。ただし、遅刻は欠席と同じ扱いとする。その上で、期末試験と小テストの成績、授業への参加度を総合して評価する。

Test of English as a Foreign Language/Institutional Testing Program (TOEFL/ITP)

保健衛生学科教育委員会

1 実施の目的

TOEFL テストは 1964 年に、英語を母国語としない人々の英語力を測るテストとして、米国の非営利教育団体により開発された。高い信頼性のもと、40 年以上にわたり客観的かつ正確な、世界で最も優れたアカデミックな英語テストとして注目を集め、現在 TOEFL テストのスコアは英語運用能力テストのグローバルスタンダードとなっている。本学科の学生も TOEFL を定期的に受験して、各自の実践的な英語力の増進に役立て、将来は国際的に活躍してもらいたい。

2 実施内容

- 1) セクション 1 (35 分) : リスニング
- 2) セクション 2 (25 分) : 英文と文章表現
- 3) セクション 3 (55 分) : 読解

3 実施対象

N 2、MT 2、N 3、MT 3 全員

4 実施日

平成 23 年 7 月 22 日 (金) 13:00~15:50

(欠席する場合は事前に教務課まで連絡のこと)

5 実施場所

- N 2 : 保健衛生学講義室 4 (7 F)
- MT 2 : 保健衛生学講義室 5 (7 F)
- N 3 : 保健衛生学講義室 2 (8 F)
- MT 3 : 保健衛生学講義室 3 (8 F)

6 実施方法

試験監督 : 教養部英語学担当教員

保健衛生学科医学英語担当教員

受験 : 各試験監督の指示に従い受験する。(試験開始 10 分前までに着席のこと。)

7 受験料

受験料 : 入学時に徴収済み

8 成績評価

医学英語担当教員が TOEFL/ITP の結果を考慮し、医学英語科目と合わせて評価する。

N 2 : 英文講読 I (必修 1 単位)

N 3 : 英文講読 II (必修 1 単位)

MT 2 : 医学英語演習 (I) (前・後期 2 単位のうち前期分 1 単位に考慮する。)

MT 3 : 医学英語演習 (II) (前・後期 2 単位のうち前期分 1 単位に考慮する。)

9 TOEFL/ITP のスコアの活用

各自が英語力を自己評価し、市販の教材やテレビ、ラジオなどを活用して、毎回得点を上昇させる努力をして欲しい。医学部学生の海外研修派遣選考基準としても活用する。

卒業論文 I

Thesis I

総合保健看護学専攻教授・准教授・講師全員
総合保健看護学専攻主任

1 科目の概要

指導教員のもとで研究を行い、論文をまとめるために必要な知識を学ぶ。

2 教育方針・教育目標

看護・保健に関するさまざまな研究の分野・方法について知り、卒業論文Ⅱにおいて各自が実際に研究論文を書く際の基本を学ぶ。

1. 看護・保健専門職における研究の意義を理解する。
2. 研究の進め方の概要と、さまざまな研究方法論・技法を知る。
3. 卒業論文指導の責任者となる各教員の研究の専門領域および方法論・技法を知る。
4. 研究領域申請書による希望領域の相互調整と決定を行う。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1	10/5(水) 1	I 研究法概説 看護研究序論 II データ処理 領域選択オリ	全体オリエンテーション 研究法概説 データ処理とコンピュータ利用 研究領域選択に向けてのオリエンテーション	卒論小委員会
2	10/5(水) 2	III 各分野の研究の実際 ①	(未定)	
3,4	10/12(水) 1,2	III 各分野の研究の実際 ②	(未定)	
5	10/19(水) 2	研究の倫理		小笹由香 (生命倫理研究センター)
6	10/26(水) 2	III 各分野の研究の実際 ③	(未定)	
7	11/9(水) 2	III 各分野の研究の実際 ④	(未定)	
8	11/16(水) 2	III 各分野の研究の実際 ⑤	(未定)	
9,10	12/7(水) 午前・午後	IV 外国文献検索方法	文献検索の技術 研究領域希望申請書提出	図書館司書 卒論小委員会
11	12/14(水) 2	《N4 卒業論文発表会》		
12	1/11(水) 2	V 研究室訪問	研究領域申請書をもって教員と個人面談 (文献検討についての個別相談)	各分野担当者 卒論小委員会
13	1/18(水) 2	VI 外国文献検索演習①	個別外国文献レポート作成①	卒論小委員会
14	1/25(水) 2	VI 外国文献検索演習②	個別外国文献レポート作成②	卒論小委員会
15	2/1(水) 2	VII 分野最終決定	研究領域希望 最終申請書提出 希望領域調整・決定	卒論小委員会

[単位] 必修 1 単位

[場所] 保健衛生学講義室 2 (3号館 8階)

4 履修期間

- ・ 3年後期
- ・ 選択するテーマの希望を指示された期限までに提出する。

5 他科目との関連

全ての科目で学んだことを応用するので、全ての科目と関連する。

6 成績評価方法

外国文献レポートの内容と全体の出席状況を評価し、専攻主任が認定する。ただし、講義への出席が3分の2に満たない者は単位を認定しない。

(参考)

- ・ 卒業論文Ⅱは、保健衛生学科看護学各分野の教授、准教授、講師、助教が指導教員（研究指導の責任者）となる。
- ・ 最終的な分野の決定は、学生から提出された研究領域希望申請書（希望領域とテーマと方法を第2希望まで明記したもの）を基にしながら学生間で適宜調整し、各分野の確認を得て決定する。
- ・ 外国文献レポートは、関心のある領域・研究課題に関する主に英文による論文を検索し、それを読む経験を積む目的で実施する。レポートの内容・規定については後日説明する。

成人看護学Ⅲ（実践論）

Adult Health Nursing III

井上 智子

1 科目の概要

成人看護学を取り巻く最近注目されている話題についての概要を講義を通して学ぶ。これにより国内外での社会の動きに目を向ける意識をより高めることと、社会的ニーズの変化に対応すべく看護の役割を果たしている第一線の看護の専門家の努力や開拓の困難さを学ぶ。また、今後の動向についての、学会等の学問的方向性についても情報を得る。

2 教育方針・教育目標

- 1) 各話題について、注目される社会的背景を理解する。
- 2) 各話題についての概要を理解する。
- 3) 各話題についての開拓者としての努力や困難さを理解する。
- 4) 各話題について、質疑ができる。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1	4/28(木) 2	オリエンテーション 先端医療と看護の役割	高度医療・先端医療に果たす役割	井上 智子
2	5/12(木) 2	ストマケア	ストマ管理方法とオストメイトの生活支援	徳永 恵子
3	5/19(木) 2	HIV/AIDS コーディネーター の役割	めざましく進展するエイズ治療の現状をふまえた HIV/AIDS 患者の看護ケア	大金 美和
4	5/26(木) 2	口腔外科疾患看護と 口腔ケア	摂食・構音機能の障害を中心としたアセスメント、 一般的問題と成因、看護活動	青木 春恵
5	6/2(木) 2	リエンテーション・成人看護学 演習の時間に振替	レポート作成についてのオリエンテーション、 その後は成人看護学演習の時間として使用する。 詳細は別途	井上 智子
6	6/9(木) 2	治験コーディネーターの役割	新GCPと治験に関する看護の役割	小原 泉
7	6/28(火) 2	遺伝と看護	遺伝子診断、遺伝子治療、遺伝病患者に関する看護の 役割・倫理的配慮	武田 祐子
8	7/7(木) 2	CNSの活動	CNS(Clinical Nurse Specialist)の役割と活動内容	荒井 知子

〔単位〕 必修1単位

〔場所〕 保健衛生学講義室2（3号館8階）

4 教科書・参考書

各担当者の指定による。

5 他科目との関連

成人看護学Ⅰ，Ⅱを習得しておくこと。

6 受講上の注意

医療関係の時事的話題をとりあげた新聞やテレビ番組からも情報を得ることも心がけること。

7 成績評価方法

授業出席状況・参加状況およびレポートにより評価する。レポートは、全講義終了後、成人看護学Ⅲを受講しての学びを原稿用紙（横書き）4枚または1,600字以内にまとめ提出する。

8 その他

各講義は、5～10分間の質疑応答時間を設けるので、積極的な質疑を行うこと。

成人看護学演習

Seminar of Adult Health Nursing

井上 智子

1 科目の概要

成人看護学の一部として3年次に、既習の病態および成人看護学の講義内容と関連づけて、成人期にあり、急性、慢性に経過する健康障害を有する人々に適用される看護の問題解決の思考過程および手技的技術を、患者体験を含めて段階的に修得する。

2 教育方針・教育目標

2年での学習を基礎に、上記内容を習得し、臨地実習が円滑に展開できるようにする。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1 2	4/19(火) 3, 4	看護過程概論	成人期にある患者を対象とした看護過程の具体的方法論について 成人期にある事例を一つ取り上げ、グループワークを通して、看護診断・看護計画を立案	井上智子、佐々木吉子 川本祐子他
3 4 5	5/10(火) 3, 4, 5	技術演習Ⅰ 看護過程演習	IN管理（輸液・輸血管理、経腸栄養ほか）	井上智子、佐々木吉子 川本祐子、三村昭美他
6 7 8	5/24(火) 3, 4, 5	技術演習Ⅱ 看護過程演習	OUT管理（創傷ケア、ドレナージ管理ほか）	井上智子、佐々木吉子 川本祐子、永野みどり 三村昭美他
9 10	6/7(火) 3, 4	看護過程演習	看護過程演習発表	井上智子、佐々木吉子 川本祐子他
11 12 13	6/21(火) 3, 4, 5	技術演習Ⅲ 看護過程演習	手術患者・重症患者への援助技術1（術前オリエンテーション、観察、合併症予防、血糖測定）	井上智子、佐々木吉子 川本祐子、ブリッジ志保 三村昭美他
14 15 16	7/5(火) 3, 4, 5	技術演習Ⅳ 看護過程演習	手術患者・重症患者への援助技術2（AEDを含む一次救命処置、気管切開管理・吸引）	井上智子、佐々木吉子 川本祐子、三村昭美他

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室2（3号館8階）

4 教科書・参考書

テーマによる参考図書を紹介

5 他科目との関連

基礎看護学に引き続き、他の発達段階にある人々に対する看護技術および問題解決過程の基本となり、臨地実習（成人看護学実習）を円滑に行う上で必須の科目であるので、積極的に正確に学ぶ態度が必要である。

6 受講上の注意

技術演習に関しては、学内での演習であるが、臨地実習と同じ心構えで臨み、服装、態度には充分注意すること。事前学習ならびに復習を心がけること。

7 成績評価方法

学期末筆記試験（N3前期）、演習に臨む態度および看護過程演習記録物により評価する。

成人看護学実習 I

Clinical Practice of Adult Health Nursing I

井上 智子

1 実習の概要・目的

さまざまな健康段階にある成人・老年期の入院患者を1名以上受け持ち、その疾病・治療経過を踏まえながら患者の全人的理解に努め、既習の知識・技術の統合あるいは新たな学習により、必要な看護を指導者とともに実践し、評価することを学ぶ。

2 教育目標

- 1) 患者の健康・機能障害を理解し、援助する。
 - (1) 健康・機能障害の原因・誘因を理解する。
 - (2) 患者の自覚症状・他覚症状を把握する。
 - (3) 健康状態を系統的に観察する。
 - (4) 患者の望む療養生活や治療法の選択を理解し、適切な援助をする。
 - (5) 行われる検査・治療・処置の目的と内容を理解する。
 - (6) 患者が検査・治療・処置を適切に受けられるように援助する。
- 2) 生命が脅かされている場合には、生命維持・回復のための看護活動ができる。
- 3) 異常の予防・早期発見・機能回復のための援助をする。
 - (1) 予測される悪化因子を指摘する。
 - (2) 悪化の徴候を早期に発見し、予防的な看護活動を行う。
 - (3) 機能回復のための適切な看護活動を行う。
- 4) 健康・機能障害に伴う日常生活上の制限に対し、援助を行う。
 - (1) 患者・家族が機能障害をどのように受けとめているかを把握する。
 - (2) 日常生活上の制限を身体的・心理的・社会的側面に沿って理解する。
 - (3) 日常生活上の制限をできるだけ軽減するように援助する。
 - (4) 患者の症状、苦痛を和らげるような援助を行う。
 - (5) 患者の心理的・社会的問題を把握する。
 - (6) 患者の心理的・社会的問題の解決への援助をする。
 - (7) 自己管理を阻害する因子を指摘する。
 - (8) 自己管理ができるように援助する。
 - (9) 患者に必要な社会的資源を列挙する。
 - (10) 日常生活の制約上の家族の心理的・社会的問題を把握する。
 - (11) 家族の心理的・社会的問題の解決への援助をする。
- 5) リハビリテーション期における援助を行う。
 - (1) リハビリテーション訓練が円滑に受けられるように援助する。
 - (2) 病棟内の日常生活でリハビリテーション訓練内容や成果を活用した援助をする。
- 6) 在宅療養・社会復帰に向けての援助を行う。
 - (1) 患者に適した退院後の日常生活目標を設定する。
 - (2) 退院後の生活目標に向けて、適切な援助を行う。
- 7) 医療チームにおける看護師の役割を理解する。
 - (1) 医師、その他の関係職種の役割を理解する。
 - (2) チームにおける看護師の役割を理解する。
- 8) 以上に関して患者個別の問題を看護過程を用いて実践する。

- (1) 情報収集する。
- (2) 収集した情報を分析、統合し、看護診断する。
- (3) 具体的な目標を設定する。
- (4) 目標達成のための看護活動を計画する。
- (5) 計画した看護活動を実践する。
- (6) 展開した看護過程を評価する。

9) 看護専門職としてふさわしい態度を身につける。

- (1) 看護技術の一般的手順と原則をふまえ、患者の個別性を加味し、実施においては十分な復習と準備を行う。
- (2) 患者の援助においては常に安全と安楽を考慮する。
- (3) 患者の持てる力を生かした援助方法を考える。
- (4) 情報収集を看護援助に生かすとともに、看護援助をしながら情報収集をする。
- (5) 援助を提供する側・される側の視点から、のぞましい手順や方法を考え、実践する。
- (6) グループメンバー間で互いに協調しながら実習に臨む。
- (7) 看護とは何かを考え、学究的態度（文献活用・事例検討）で実習する。
- (8) 丁寧で親切な接遇を心がける。
- (9) 連絡・報告には責任をもつ。
- (10) 受け持ち看護師や指導者に相談し、助言やコメントを積極的に得ようと努める。
- (11) 看護援助の実践に先立ち、患者の了解ならびに受け持ち看護師との連絡・調整を行う。

3 実習内容・方法等

〔単位〕 必修3単位

(詳細については実習要項参照)

地域精神看護学

Community Psychiatric Nursing

宮本真巳

1 科目の概要

地域に暮らす人々の精神的健康を守るための保健医療福祉システムとそこでの看護的援助について学ぶ。

2 教育方針・教育目標

精神保健福祉をめぐる社会状況と制度やシステムについての理解を踏まえて、看護職が地域の社会資源を活用しながら、精神障害者の地域における生活自立と社会参加の支援に向けて担うべき役割について学ぶ。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1	4/8(金) 3	精神障害者の地域における生活自立の条件	国際障害分類, 精神障害者のADLとQOL, 精神障害と生活障害, 自立支援をめぐる課題	宮本真巳
2	4/15(金) 3	看護職による精神障害者への地域支援	保健所・市区町村における精神保健看護, 訪問看護・訪問指導の方法と現状	小宮敬子
3	4/22(金) 3	学校及び企業における精神保健と看護職の役割	学校における精神保健看護, 企業における精神保健看護	日下和代
4	5/6(金) 3	精神科デイケアの機能	精神科デイケアの歴史と理念, 精神科デイケアの現状と機能, 病院デイケアと保健所デイケア	松岡裕美
5	5/13(金) 3	家族のメンタルヘルスと家族内暴力への介入	家族のメンタルヘルス, 機能不全家族と児童虐待, 看護職によるDVと児童虐待への介入	宮本真巳
6	5/20(金) 3	精神保健福祉をめぐる社会状況	精神保健福祉をめぐる社会状況の変遷, 地域精神保健のシステムと地域資源	美濃由紀子
7	5/27(金) 3	精神保健福祉をめぐる制度, 法律, 施策	精神保健福祉法と関連法規の概要, 精神保健福祉施策の現状	末安民生
8	6/3(金) 3	セルフヘルプグループの機能と看護職による支援	セルフヘルプグループの機能, 12ステップ・グループの特徴, 看護職によるセルフヘルプグループの支援	上岡陽江

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室2 (3号館8階)

4 教科書・参考書

教科書

久常節子・島内節編「地域看護学講座9, 障害者地域看護」医学書院, 2000

参考書

ナンシー K. ワーレイ (早川和生他訳) 「地域精神保健看護」医学書院, 1999

信田さよ子「DVと虐待—家族の暴力に援助者ができること」医学書院, 2002

斉藤学「アダルト・チルドレンと家族」学陽書房, 1998

岡知史「セルフヘルプグループ」星和書店, 1999

浅野弘毅「精神科デイケアの実践的研究」岩崎学術出版, 1996

5 他科目との関連

看護心理学, 精神看護学, 精神看護学演習, 社会福祉学, 産業保健学, 健康管理論等の科目と関連する。

6 受講上の注意

地域社会における精神障害者の生活状況と、その看護的支援について広い視野から把握することを通じて、臨床実習等の機会に医療機関で出会った患者についても、精神症状の医学的管理に偏らず社会的背景の理解に根ざす生活支援を担える力を養って欲しい。

7 成績評価方法

学期末の筆記試験によって評価を行う。

精神看護学演習

Psychiatric Nursing Seminar

宮本真巳

1 科目の概要

精神疾患患者の看護を中心に、あらゆる精神的援助の方法とその理論的背景について学ぶ。

2 教育方針・教育目標

精神障害者の生活歴と疾患や生活障害との関連、精神医療の歴史や治療環境の成り立ちが精神障害者の処遇に及ぼす影響についての理解を深め、精神障害者への心理・社会・生物学的な諸局面を視野に入れた全人的理解の深化を目指す。さらには、援助的な対人関係技術の向上を通じて、精神障害者の回復、成長、自立を支援するために必要な方法と、その理論的背景について学ぶ。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1	4/11(月) 3	精神科看護と精神看護の目的と機能	精神疾患患者の看護, 身体疾患患者への精神的援助, 精神的健康の維持と増進	宮本真巳
2	4/11(月) 4	精神疾患と患者体験	患者としての病気体験, 入院体験, 精神障害を抱えて生きるということ	尾山篤史
3	4/18(月) 3	精神医療と精神科看護の歴史	精神医療の歴史(世界・日本), 精神科看護の歴史(世界・日本)	松浦雅人
4	4/18(月) 4	対人関係論からみた精神看護	看護場面の再構成法とその理論的背景, 再構成法による看護場面の検討	宮本真巳
5	4/25(月) 3	医療機関における精神疾患看護	治療共同体の理念と方法, 治療環境としての病院, 精神科入院患者の看護	宮本真巳
6	4/25(月) 4	相談面接の技法	クライアント中心療法の理念と方法(共感, 受容, 自己一致), 精神科ソーシャルワーク	宮本真巳 美濃由紀子 渡邊敦子
7	5/9(月) 3	精神科看護における情報収集とアセスメント	精神科看護に必要な情報, 精神科領域における看護診断とクリニカルパス	宮本真巳
8	5/9(月) 4	グループワーク	サイコドラマ(心理劇)の体験学習	末安民生
9	5/16(月) 3	相談面接の技法	精神療法の原則, ジェノグラム(家族歴)の方法, 家族療法とナラティブ・セラピー	宮本真巳 美濃由紀子 渡邊敦子
10	5/23(月) 3	精神疾患患者の病態に応じた看護(1)	幻覚・妄想状態の患者の看護, 自閉・意欲低下の見られる患者の看護	美濃由紀子
11	5/30(月) 3	グループワーク	集団力動とセルフヘルプグループの体験学習	宮本真巳 美濃由紀子 渡邊敦子
12	6/6(月) 3	精神疾患患者の病態に応じた看護(2)	不食・拒薬の患者の看護, 自他に対して攻撃的な患者の看護	渡邊敦子
13	6/13(月) 3	グループワーク	集団力動とセルフヘルプグループの体験学習	宮本真巳 美濃由紀子 渡邊敦子
14	6/20(月) 3	精神疾患患者の病態に応じた看護(3)	気分障害のある患者の看護, 不安障害のある患者の看護, 心的外傷を負った患者の看護	渡邊敦子
15	6/27(月) 3	事例検討の方法	事例検討で取り上げる局面(患者, 看護者, 援助関係, 臨床状況), 事例検討における役割分担(支持型, 査定型, 直面化型, 統合型)	宮本真巳
16	7/4(月) 3	精神看護学の展望	精神看護学の他領域への影響, 精神看護学の看護全般への影響, 看護コンサルテーション	渡邊敦子

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室2(3号館8階)ほか

4 教科書・参考書

教科書

日本精神科看護技術協会監修「改訂 精神看護学」中央法規出版, 2006
宮本真巳「感性を磨く技法1 看護場面の再構成」日本看護協会出版会, 1995
宮本真巳「感性を磨く技法4 面接技法から学ぶ」日本看護協会出版会, 1998

参考書

宮本真巳「援助技法としてのプロセスレコード」精神看護出版, 2003
ジュディス・シュルツ (田崎博一訳)「看護診断にもとづく精神看護ケアプラン」医学書院, 1997
野島佐由美監修「実践看護技術学習支援テキスト精神看護学」日本看護協会出版会, 2002
日本精神科看護技術協会「改訂版 精神科看護の専門性をめざしてⅠ, Ⅱ, Ⅲ」精神看護出版, 2002
武井麻子「グループという方法」医学書院, 2002
モートン・キッセン (佐治守夫他訳)「集団精神療法の理論」誠信書房, 1996
パトリシア・ダイクス (末安民生他訳)「精神科クリニカルパス」医学書院, 2000

5 他科目との関連

看護心理学, 精神看護学, 地域精神看護学等の科目と関連する。

6 受講上の注意

精神疾患患者の理解を深めながら援助関係を形成するには、的確な自己理解と率直な自己表現、すなわち自己一致が欠かせない。そこで、自分自身の生活体験を振り返りながら、面接技法やグループワークの演習、精神看護学や他領域の臨地実習を活用し、自分の内面に生じた思いを吟味しつつ自己表現に努め、自己理解と患者理解を深めて欲しい。また、精神医学と精神疾患看護の基本的な知識を確実に身につけた上で、患者との接触から直接得られた主観的な情報を活用して患者の全体像を組み立て、回復、成長、自立を支援していく方法を学んで欲しい。

7 成績評価方法

期末に実施する精神医療の歴史と現状、病態に応じた看護に関する記述式試験、精神科事例における看護上の問題把握、相談面接とグループワークの技法等をテーマとしたレポートによって評価する。

精神看護学実習

Practice of Psychiatric and Mental Health Nursing

宮本真巳

1 実習の概要・目的

- 1) 精神科病棟において入院患者1名を受け持ち、関わりを発展させるとともに、関わりの経過について綿密な振り返りを行い、自己理解、患者理解、状況理解を深める。こうした理解に基づいて、感情活用能力の発揮を通じた援助関係づくりと、患者の抱えている課題の解決に向けた援助の試みを併せて実践する。このような実習への取組みを通じて、精神疾患患者だけでなく健康問題を持つあらゆる人を対象とする精神的支援の実践能力を高める。
- 2) 精神科通所施設において、地域で生活する利用者の社会参加の実態にふれることを通じて、精神障害と生活状況との関連についての理解を深めながら、精神障害者の地域生活支援の方法や要点について学ぶ。さらには、入院から地域自立に至る過程についての統合的な視点に基づいて、看護職に求められる役割と、それに見合った援助方法について理解を深める。
- 3) 実習体験を振り返って吟味するために、看護場面の再構成法を用いた「プロセスレコード」、看護場面で味わった異和感の吟味を通じて自己・患者・状況についての理解を深める「異和感の対自化」、患者の抱えている問題を明確にして解決策を導き出す「問題の明確化」の3つの方法を用いる。これらの方法を体得することによって、看護師、援助職としての生涯学習の基礎を作る。

2 教育目標

- 1) 患者との対人関係において、自己一致に基づく率直な自己表現を心掛けることを契機に、患者の率直な自己表現を引き出すことを通じて、自己理解を深めると共に患者の持つ問題の明確化を図る。
- 2) 患者や自分自身の言動が、自分が身を置く病棟などの臨床状況の雰囲気や力動によって、どのような影響を受けているかについて理解を深めることを通じて、臨床状況についての洞察に基づく表現力や看護実践能力を高める。
- 3) 患者や医療スタッフ、教員とのやりとりの振り返りにより、自己の対人関係の特徴を知ることを通じて、自己の人格や発達課題について理解を深めると共に、自分は患者や周囲の人に対してどのような印象を与え、どのような影響を及ぼす傾向があるかについて認識を深める。
- 4) 看護者－患者関係と臨床状況を看護の視点から評価し、ケア方針を立案し、必要な援助の実施・評価・修正を行うことを通じて、チーム医療の一端を担うと共に、看護師としての専門性確立の基礎をつくる。
- 5) 精神に疾患や障害を持つ人の治療環境・生活環境、ならびに、そのような環境の中で生きる患者の体験について理解を深めることを通じて、地域における生活自立と社会参加に向けた支援の一端を担う。

3 実習内容・方法等

〔単位〕 必修2単位

(詳細については実習要項参照)

小児看護学Ⅱ

Pediatric NursingⅡ

廣 瀬 たい子

1 科目の概要

小児の成長発達、主な小児疾患の病態生理を理解し、病気を持った小児とその家族の身体的・精神的・社会的変化を、自己学習を通して理解する。また、小児看護に必要な観察技術、アセスメント技術についても学ぶ。それらの学習に基づいて得た知識・技術を活用して、病気を持つ小児と家族の看護を考案する。

なお、この授業は小児看護学演習Ⅱを組み合わせで行う。

2 教育方針・教育目標

小児看護学Ⅰ、小児看護学演習Ⅰにおいて学習した小児看護の実践に必要な基本的知識、技術の上に積み重ねる構成で、小児看護実践に必要な知識を及び最新の小児看護学の動向を学習する事を目的としている。グループ・ワークを中心とした小児看護学演習Ⅱと組み合わせ、自ら学び、実践に活用できる技能を習得する。

3 教育内容

小児看護学演習Ⅱでペーパー・ペーシェントによる看護過程を展開するために、必要な知識を整理して、さらに小児看護学実習に活用できるための技能の習得をはかる。

回数	項目	内容	担当者
1	オリエンテーション		廣 瀬
2	子どもの発達と遊びⅠ	発達アセスメント 遊びの意義、病院における遊び	白川園子 岡 光
3	障害児の看護	障害児と家族の看護	村瀬喜美子
4	子どもの発達と遊びⅡ	2グループに分かれ、アセスメント/遊びの演習	白川園子
5		グループ入れ替え	岡 光
6	子どもの生活と看護	子どもの栄養、日常生活の援助の実際	岡 光
7	急性期における小児の看護	新生児期の集中ケア	渡邊とよ子
8	小児の継続看護	外来・在宅における子どもの看護	廣居嘉代子
9	子どもの虐待	虐待の予防と発見	細井千晴

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室2（3号館8階）

4 教科書・参考書

教科書は、2年時に購入済みのものを使用する。

参考書：廣瀬たい子 編著：看護のための乳幼児精神保健（金剛出版）

病児の遊びと生活を考える会編：入院時のための遊びとおもちゃ（中央法規）

筒井真優美：これからの小児看護（南江堂）

5 他科目との関連

小児看護学Ⅰ、小児看護学演習Ⅰ、在宅看護学Ⅰ

6 成績評価方法

期末試験、小テスト

小児看護学演習Ⅱ

Seminar of Pediatric NursingⅡ

廣瀬 たい子

1 科目の概要

小児の成長発達、主な小児疾患の病態生理を理解し、病気を持った小児とその家族の身体的・精神的・社会的変化を、自己学習を通して理解する。また、小児看護に必要な観察技術、アセスメント技術についても学ぶ。それらの学習に基づいて得た知識・技術を活用して、病気を持つ小児と家族の看護を考案する。

なお、この授業は小児看護学Ⅱと組み合わせて行う。

2 教育方針・教育目標

演習は、グループ・ワークを中心とした自己学習授業なので、これまでに学んだ小児看護学Ⅰ、Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ、その他の学習に基づいて課題の解決法・解決策を自分達で考え、生み出すことを目標とする。教員はその手助けをすることを教育方針とする。また、解決法・解決策は全学生で共有理解をはかり、解決法・解決策をより良いものにするため発表・討論会を持つ。

3 教育内容

小児特有の疾患を持つペーパー・ペーシェントを教材として、成長発達、疾患の病態生理、家族背景等を学習、アセスメントし、看護過程を展開しながら、看護計画を立案する。各グループの学習成果を発表し、討論する。

回数	項目	内容	担当者
1	ペーパーペーシェント	グループワーク (ビデオ学習)	廣瀬・岡光
2	小児のアセスメント	小児の観察技術、アセスメントツールの活用	岡 光
3	ペーパーペーシェント	オリエンテーション, グループワーク	廣瀬・岡光
4	ペーパーペーシェント	グループワーク	廣瀬・岡光
5	ペーパーペーシェント	グループワーク	廣瀬・岡光
6			荒木 聡
7			
8	ペーパーペーシェント	グループワーク	廣瀬・岡光
9			
10	ペーパーペーシェント	グループワーク	〃
11	ペーパーペーシェント	発表	〃
12			〃
13	ペーパーペーシェント	発表	〃
14			〃
15	オリエンテーション	実習オリエンテーション 保育園実習オリエンテーション	〃
16			〃

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室5 (3号館8階)、看護学実習室 (同17階)

4 教科書・参考書

演習に必要な資料は開講時に配布する。また、参考文献リストもその時に配布する。教科書は、2年時に購入済みのものを使用する。

(追加教科書) 中野綾美：小児看護技術 (メディカ出版)

5 他科目との関連

これまでの小児看護学の学習を統合して、看護過程を展開して小児看護学実習で活用できる知識と技術を整理する。

6 受講上の注意

グループワークを基本とした授業なので、自己学習・出席を重視する。

7 成績評価方法

試験とグループ・ワークの参加度、メンバーシップ、発表内容に基づいて行う。

小児看護学実習

Practice of Pediatric Nursing

廣瀬 たい子

1 実習の概要・目的

小児と家族に対するケアを通して、発達する小児の特徴を理解する。また、健康障害をもつ小児を全人的に理解する。さらに対象とその家族の必要としている援助は何かを理解し、小児の看護を行うための基礎的能力と技術・態度を養う。

2 教育目標

本実習は、小児看護学学内実習と保育園実習、および病棟での臨床実習から構成される。

(1) 小児看護学学内実習

目的：小児看護に必要なスキルを習得する。

目標：1) 小児看護に必要な技術を習得する。

2) 小児、特に言葉を持たない発達段階における子どもとのコミュニケーション方法を理解し、習得する。

(2) 臨地実習（保育園実習）

目的：健康な小児の日常生活行動を実際の保育活動を通して観察し、成長・発達の特徴を把握する。

目標：1) 子どもの成長・発達、および生活を理解する。

2) 子どもと家族の支援に必要な基本的な観察技術を習得する。

3) 小児の生活における保健行動、健康管理の概要を知る。

(3) 臨床実習

目的：疾病あるいは障害を持つ小児に接する体験を通して、小児の特徴を理解し、小児とその家族の必要としている援助を考え、実施する。

目標：1) 疾病、あるいは健康障害をもつ小児およびその家族との治療的関係のあり方を学ぶ。

2) 健康障害が、小児およびその家族に及ぼす影響を理解する。

3) 健康障害をもつ小児と家族への看護のために、対象を理解し、必要な援助を行う能力を養う。

4) 小児をとりまく医療、保健、福祉の連携の中で小児看護の役割を理解する。

(4) 学生に期待するもの

1) 既習の学習を統合して、実際の場面で遭遇する問題・課題に積極的に取り組む。

2) 実習期間中、各自の学習目標を明確にし、それに向かって意欲的に取り組む。

3) 小児のケアに際しては特に安全に対する配慮を行う。

4) 実習期間中は自己の健康管理に注意する。

5) 感染源とならないために、抗体価検査を必ず受けること。また必要に応じて予防接種を受ける等の対策が推奨される。

6) スタッフの一員であり、かつ学習する者としての自覚と責任をもって行動する。

3 実習内容・方法等

〔単位〕 必修2単位

(詳細については実習要項参照)

母性看護学（1）

Maternal and Infant Nursing

（*母性看護学Ⅰ：Maternal and Infant NursingⅠ）

大久保功子・三隅順子

1 科目の概要

この科目は、母性看護学の概論を学習する。母性看護学は、人間の健康を性と生殖の側面から考え、看護的な援助が必要な状況や援助方法を理解する科目である。ここでは性と生殖に関わる健康課題について、女性だけでなく男性をも看護の対象に含め、地域社会における看護展開、多様な文化背景や価値観を考慮した看護展開を考える視点を養う。

2 教育方針・教育目標

母性看護学の中心的な概念であるリプロダクティブヘルス/ライツの考え方を理解する。それをもとに、母性看護学のケア対象を、様々な側面から捉え、身体的・心理的・社会的特徴を理解し、健康の保持増進、正常からの逸脱の予防のための看護の基本的な考え方を理解する。

3 教育内容

回数	項目	内容	担当者
1	母性看護学の対象と場	母性看護学の対象の特徴と展開場面の多様性を理解する	大久保
2	女性生殖機能 ホルモンの異常と受精障害	月経周期を支配する内分泌環境の変化を中心に生殖機能を理解する	久保田俊郎 (医学科)
3	セクシュアル・マイノリティと健康	セクシュアル・マイノリティの健康問題の特徴等を知り人権尊重と健康との関係を理解し看護のあり方を考える	三隅・笠原
4	リプロダクティブヘルス/ ライツ	性と生殖に関わる女性の健康と看護について理解する	大久保
5	性感染症とその予防	性感染症を予防する方法を理解し、保健指導への活用を考える	大久保
6	DV/性暴力被害と看護	DVや性暴力被害の実態を知り看護の必要性を理解する	三隅
7	遺伝相談における看護の 実際	母性看護領域に関連する遺伝相談における看護ケアの実際について理解する	小笹由香 (生命倫理 センター)
8	育児期の母親への支援	地域における育児期にある母親に対する継続的な看護ケアの実際や社会資源について理解する	岡本 (日本体育大学 女子短期大学部)

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室2（3号館8階）

4 教科書・参考書

- ・松岡恵：やさしく学ぶ看護学シリーズ 母性看護学，日総研，2009.
 - ・我妻堯：リプロダクティブヘルス，南江堂，2002.
 - ・砂川秀樹、RYOJI：カミングアウト・レターズ，太郎次郎社エディタス，2007.
- その他、講義の進行の伴い、参考文献を提示する。

5 他科目との関連

この授業は、母性看護学Ⅱ，Ⅲ，母性看護学演習の基礎となる内容である。

6 受講上の注意

授業は課題に対する討論や、授業のテーマに対して学生が意見を出し合う時間を多く持つ予定である。自分の意見を積極的に述べ、他者に論理的に説明する能力を高める努力をしてほしい。

7 成績評価方法

学期末テスト、その他レポート及び平常点から総合的に評価する。

母性看護学（2）

Maternal and Infant Nursing

（*母性看護学Ⅱ：Maternal and Infant NursingⅡ）

大久保功子・三隅順子

1 科目の概要

母性看護学は、人間の健康を性と生殖の側面から考え、看護的な援助が必要な状況や援助方法を理解する科目である。ここでは主に、妊娠・分娩・産褥期の生理的な変化の過程とそこから逸脱した状況に関する病態整理、診断、治療、そして新生児の胎外生活への適応過程とその時期に生じやすい異常の症状、診断、治療に関する基本的な知識を習得する。

2 教育方針・教育目標

母性看護学の対象、特に妊産褥婦と新生児の身体的特徴を理解し、健康の保持増進、正常からの逸脱の予防のための看護に必要な医学的な知識を習得する。

3 教育内容

回数	項目	内容	担当者
1	胎児胎盤系の生理・機能	胎盤の生理・機能を知り、女性の生活や胎児への影響を理解する	大久保
2	異常妊娠	妊娠期に発生する異常とその治療について理解する	寺内 (医学科)
3	分娩期の身体的変化	分娩期の正常な経過と身体的変化について理解する	三隅
4	異常分娩	分娩時に発生する産道及び胎児とその付属物、娩出力の異常及び分娩直後に発生する異常と対応について理解する	若林 (医学科)
5	産褥期の生理	正常分娩後の生理と身体的変化について理解する	三隅
6	母乳栄養と看護	妊娠中・分娩後の内分泌環境の変化と母乳の分泌の機序を理解し看護援助を考える	井村真澄 (日赤看護大学)
7	新生児の生理・適応	母胎外生活への適応過程としての新生児の生理的变化を理解する	大久保
8	新生児の異常	母胎外生活への適応過程で生じやすい異常およびその徴候と予防を学ぶ	大久保
9	不妊・出生前診断	不妊の診断、治療および出生前診断の原理、方法、課題について理解する	尾林 (医学科)

〔単位〕 必修1単位

〔場所〕 保健衛生学講義室2（3号館8階）

4 教科書・参考書

- ・松岡恵：やさしく学ぶシリーズ 母性看護学，日総研，2009.
 - ・大鷹美子監訳：ウィリアムス臨床産科マニュアル，株式会社メジカルビュー社，2009.
- その他、講義の進行の伴い、参考文献を提示する。

5 他科目との関連

この科目は、母性看護学演習と同時に受講することを前提として計画され、後期の母性看護学実習を行う上で必須の基礎知識を学ぶ科目である。この科目及び母性看護学演習の単位を取得していない場合、母性看護学実習には参加できない。

6 受講上の注意

二年次に学習した専門基礎科目の内容の復習をしてから受講して欲しい。

7 成績評価方法

小テストを適時行う。学期末試験、平常点から総合的に評価する。

母性看護学（3）

Maternal and Infant Nursing

（*母性看護学Ⅲ：Maternal and Infant NursingⅢ）

大久保功子・三隅順子

1 科目の概要

母性看護学は、人間の健康を性と生殖の側面から考え、看護的な援助が必要な状況や援助方法を理解する科目である。ここでは主に、妊娠・分娩・育児期の女性と新生児期のこども、および家族の看護課題と看護援助に関する基本的な知識を習得する。

2 教育方針・教育目標

妊娠、分娩、産褥期の女性と新生児に対する看護の基本的な考え方を理解する。さらに、看護計画の立案、実施・評価を行うための基本的な知識を習得し、健康状態のアセスメントが行えることを目標とする。

3 教育内容

回数	項目	内容	担当者
1	妊娠初期の看護	妊娠初期の女性と胎児の正常経過を理解する	大久保
2	妊娠中期の看護	増大子宮による女性の身体反応を理解し、妊娠中期の健康増進への援助を考える	大久保
3	妊娠末期の看護	妊娠末期に母体に生じる身体的反応とそれへの適応を理解し看護援助を考える	大久保
4	分娩中および直後の看護	分娩時の安全安楽のための看護について考え直後の看護ケアとその根拠について理解する	三隅
5	新生児の観察とアセスメント	出生直後の胎外生活適応にむけての急激な変化をどのようにアセスメントするかを理解する	大久保
6	新生児の看護ケア	新生児の胎外生活への適応過程のアセスメントと看護の実際を理解する	大久保
7	産褥期の看護ケア	産褥期の親役割獲得の必要性について理解し必要な看護援助を考える	三隅
8	NICUの看護	より高度な医療が必要な新生児の胎外生活への適応のアセスメントと看護の実際を理解する	木下千鶴 (杏林大学病院)

〔単位〕 必修1単位

〔場所〕 保健衛生学講義室2（3号館8階）

4 教科書・参考書

- ・松岡恵：やさしく学ぶシリーズ 母性看護学，日総研，2009.
 - ・Doenges, M. E. & Moorhouse, M. F. (柴山森二郎監訳)：看護診断にもとづく母性・新生児看護ケアプラン，医学書院，1998.
 - ・Karen M Stolte, (小西恵美子・太田勝正訳)：健康増進のためのウェルネス看護診断，南江堂
 - ・本庄英雄，宮中史子：周産期エキスパートナーシング 改訂第2版，南江堂，2003.
 - ・ルー・モギン，他：妊娠・出産ケアガイド，医学書院，1999.
 - ・平山宗宏：母子健康・栄養ハンドブック，医師薬出版，2000.
 - ・堀内成子：産褥・退院支援ガイドブック，ペリネイタルケア 2003 年夏季増刊，メディカ出版，2003.
 - ・北川真理子，内山和美：今日の助産 改訂第2版，南江堂，2009.
- その他，講義の進行の伴い，参考文献を提示する。

5 他科目との関連

この科目は、母性看護学演習と同時に受講することを前提として計画され、後期の母性看護学実習を行う上で必須の基礎知識を学ぶ科目である。他の看護専門科目で学習した看護理論、看護過程の考え方などを十分理解した上で参加していただきたい。

6 受講上の注意

講義では、学生に問題を投げかけ、学生がそれについて意見を出し合う時間を多く持つ予定である。自分の意見を積極的に述べ、他者に論理的に説明する能力を高める努力をしてほしい。

7 成績評価方法

小テストを適時行う。学期末試験、平常点から総合的に評価する。

母性看護学演習

Seminar of Maternal and Infant Nursing

大久保功子・三隅順子

1 科目の概要

この科目では、母性看護学で学んだ基礎知識を、実際の看護展開に活用できるよう、複数の周産期の女性事例に関する看護計画立案を通して母性看護学領域に特有の看護の思考過程を習得する。また、母性看護学領域に特有の援助技術を実習室における技術演習、ロールプレイを通して習得する。

2 教育方針・教育目標

母性看護学で学習した知識を基礎として、母子の健康をアセスメントし看護援助の計画・立案が行え、母性看護学の対象と看護援助の特徴をふまえた看護技術を習得し、母性看護学実習を行う上で必要な看護実践能力を養うことを目標とする。

3 教育内容

回数	項目	内容	担当者
1	疑似妊婦体験	母性看護の対象である妊婦の身体的状況についてモデルを用い実体験し、特有の健康問題や予防としての看護について考察する	大久保
2	産褥褥婦への身体的ケア	分娩期、産褥期にある女性への身体的な看護ケアの具体的な技術を学ぶ	三 隅
3	模擬分娩	模擬分娩を見学し、産婦と夫の心身の反応、助産師が行うケアの実際を知る	中根直子(日赤) 飯泉 梓(日赤) 河合 蘭
4	授乳に関する援助	授乳に関するアセスメントとニーズにあった看護援助を考える	井村真澄 (日赤看護大学)
5	褥婦の退院に向けた看護	退院後の母子とその家族の生活についてのアセスメントを学び、産褥事例について保健指導を考える	三 隅
6	産後事例の計画立案	産褥期の事例をグループで担当し、事例のアセスメント、看護目標、優先順位、具体策を考える	三 隅
7	新生児の看護：ビデオ学習	技術演習のデモンストレーションを見ることによって技術習得の準備を行う	三 隅
8	産褥事例の看護計画の発表	産褥期の事例をグループで担当し、事例のアセスメント、看護目標、優先順位、具体策を発表する	三 隅
9			
10	技術演習	実習に備えて以下の内容の技術演習を行い技術を習得する 1) 児の全身観察技術及び沐浴等のケア技術 2) 妊娠・分娩・産褥期にある女性の身体的変化のアセスメント技法及び看護援助の技術	三 隅、 大久保、 他
11			
12			
13			
14	実習オリエンテーション	実習病院の看護理念および実習中に期待される専門職としての態度・行動を理解するとともに、実習中の学習方法を理解する	三隅、大久保、 管沼(賛育会)、 野村(看護部)
15	産後の生活・育児に関わる看護(ロールプレイ)	事例に対して作成した健康相談計画及びパンフレットを用いロールプレイを行い、健康相談技術を習得する	三隅、大久保、 久保田、病棟ス タッフ、他
16			

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室2 (3号館8階) ,
看護学実習室2 (3号館17階) , 他

4 教科書・参考書

- ・松岡恵：やさしく学ぶシリーズ 母性看護学，日総研，2009.
 - ・横尾京子，中込さと子：ナーシング・グラフィカ31 母性看護学—母性看護技術，メディカ出版，2007.
 - ・WHO，（戸田律子訳）：WHOの59カ条 お産のケア実践ガイド，農文協，1997.
 - ・Doenges, M. E. & Moorhouse, M. F.（柴山森二郎監訳）：看護診断にもとづく母性・新生児看護ケアプラン，医学書院，1998.
 - ・Karen M Stolte，（小西恵美子・太田勝正訳）：健康増進のためのウェルネス看護診断，南江堂
 - ・松原まなみ，山西みな子：母乳育児の看護学 考え方とケアの実際，メディカ出版，2003.
 - ・鈴木幸子，吉沢豊予子：新版 マタニティアセスメントガイド，新興交易医書出版部，2003.
 - ・末原紀美代：正常産のケア指針，MCメディカ出版，2002.
 - ・進 純郎：周産期の臨床手技106，MCメディカ出版，2002.
 - ・堀内成子：産褥・退院支援ガイドブック，MCメディカ出版，2003.
 - ・長谷川充子：周産期の保健指導とケアQ&A，MCメディカ出版，2003.
- その他，演習の進行に伴い参考文献を提示する。

5 他科目との関連

この科目は，母性看護学と同時に受講することを前提として計画され，後期の母性看護学実習を行う上で必須の基礎知識と基礎技術を習得するための科目である。他の看護専門科目で習得した看護技術を母性看護学のケアの特徴に沿って活用していくため，既習の知識・技術を十分理解した上で参加していただきたい。また，この科目は，母性看護学実習に参加するための取得必須科目である。

6 受講上の注意

演習が主体であるため，欠席すると補習はできないので注意してほしい。

7 成績評価方法

レポート，平常点から総合的に評価する。出席を重視する。

母性看護学実習

Practice of Maternal and Infant Nursing

大久保功子・三隅順子

1 実習の概要・目的

妊娠・分娩、産褥期にあるローリスクの女性とその胎児・新生児および家族の特徴を理解し、一般的（ルティーン）な看護活動の必要性を理解しながら、指導者と共に実践できる。また、同時期のハイリスクの女性とその看護活動についても理解する。

2 教育目標

- 1) 妊娠、分娩、産褥期の女性の身体的な変化を理解し、健康の保持増進にむけた援助ができる。
- 2) 胎児・新生児の成長発達を診査し、健康の保持増進にむけた援助ができる。
- 3) 本人および父親、家族の新しい役割への適応を診査し、適応を促すための援助ができる。
- 4) リスクを持つ妊産褥婦の場合、本人および胎児、新生児の異常の早期発見・予防のための援助ができる。

行動目標

- 1) 受け持ちの母子に関する系統的な情報収集を行うことができる。
- 2) 受け持ちの母子の健康状態に影響する要因を関連づけて考えることができる。
- 3) 受け持ちの母子に固有の要因から起こりうる異常を予測することができる。
- 4) 現実的で実行可能、かつ評価しうる表現で目標を設定することができる。
- 5) 具体的で実行可能な看護活動を計画することができる。
- 6) 計画した看護活動を実施し、評価することができる。
- 7) 変化する状況に応じて看護計画を修正することができる。
- 8) 専門職としてふさわしい態度と行動をとることができる。
- 9) 継続的な看護活動を行うための保健医療チームの一員としての役割を考えることができる。
- 10) 必要な連絡調整に参加することができる。
- 11) 目標を達成するために積極的に教員・スタッフに要望を申し出ることができる。

3 実習内容・方法等

〔単位〕 必修2単位

（詳細については実習要項参照）

老年看護学

Gerontological Nursing

山本 則子

1 科目の概要

高齢者の心身・社会経済的な変化に関する理解を基盤として、老年期に発症しやすい健康障害・機能障害とそれらに対する基本的な支援技術を習得する。老年期にある対象を理解するための基本的概念・理論を学ぶ。また、老年看護学の背景となる日本社会における保健・医療・福祉の動向を知り、医療チームの一員として多角的な視野をもって看護を提供するための基本的な態度を養う。

2 教育方針・教育目標

・教育方針

老年看護学の教育方針は、老年期にある対象を理解し、看護援助を創造していく知識と技術を養うことである。さらに、学問としての老年看護学の確立に資することを目指している。

・教育目標

- 1) 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面の特徴を理解する。
- 2) 高齢者の健康障害とそれに伴う諸問題、およびそれらに対する基本的な支援技術を習得する。
- 3) 高齢者と家族に対する看護援助の基本を習得する。
- 4) 高齢者の健康状態を維持するための保健・福祉・医療の活動を理解し、その中で看護の役割について理解する。
- 5) 多くの人生経験をつんだ高齢者を尊重する態度を養う。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1 2	4/11(月) 1,2	序論	高齢者を理解するための基本的概念・理論を学ぶ。 高齢者の視点を理解し、看護の基本姿勢を養う。	山本
3 4	4/18(月) 1,2	加齢に伴う身体変化 (1) 高齢者ケアと保健医療 福祉制度	老年期に特有な身体的特徴や変化について理解する。 高齢者の保健・医療・福祉に関する法律や最近の動向などを理解する。	岡本・五十嵐 山本
5 6	4/25(月) 1,2	加齢に伴う身体変化 (2) 老年看護の今日的課題	老年期に特有な身体的特徴や変化について理解する。 高齢者の医療・看護に関する最近の動向を理解する。	岡本・五十嵐 鴨川 (東京都健康長寿 医療センター)
7 8	5/09(月) 1,2	加齢に伴う身体変化 (3) 高齢者と疼痛	老年期に特有な身体的特徴や変化について理解する。 高齢者の疼痛のアセスメントとケアについて学ぶ	岡本・五十嵐 五十嵐
9 10	5/16(月) 1,2	加齢に伴う身体変化 (4) 老年期の健康増進	老年期に特有な身体的特徴や変化について理解する。 高齢期の健康増進について学ぶ	岡本・五十嵐 岡本
11 12	5/23(月) 1,2	高齢者に頻発する課題 とケアの基本(1) 認知症の看護	高齢者に頻発する病態・状態と基本的看護方法を学ぶ。 認知症の病態を理解し、基本的看護方法を学ぶ	岡本・五十嵐 山本
13 14	5/30(月) 1,2	高齢者に頻発する課題 とケアの基本(2) 高齢者の家族への支援	高齢者に頻発する病態・状態と基本的看護方法を学ぶ。 高齢者を介護する家族の立場を理解し、基本的支援方法を学ぶ。	岡本・五十嵐 山本
15 16	6/6(月) 1,2	高齢者に頻発する課題 とケアの基本(3) 老年薬理学	高齢者に頻発する病態・状態と基本的看護方法を学ぶ。 薬物動態・静態の加齢変化と高齢者に与薬する薬物の特徴、薬剤管理の基本的知識について学ぶ。	岡本・五十嵐 岡本
17 18	6/13(月) 1,2	高齢者に頻発する課題 とケアの基本(4) 施設における高齢者ケ ア	高齢者に頻発する病態・状態と基本的看護方法を学ぶ。 特別養護老人ホームなど、医療機関以外での看護師の役割について学ぶ	岡本・五十嵐 五十嵐

19 20	6/20(月) 1, 2	疾患を有する高齢患者 への看護展開(1) 疾患を有する高齢患者 への看護展開(2)	高齢患者の急性期, 慢性期疾患の事例をもとに看護 過程を展開する。	山本・ 岡本・五十嵐
21 22	6/27(月) 1, 2	疾患を有する高齢患者 への看護展開(3) 疾患を有する高齢患者 への看護展開(4)	高齢患者の事例をもとに看護過程におけるアセスメ ント、看護目標、看護ケア、評価指標を整理する。	山本・ 岡本・五十嵐
23 24	7/4(月) 1, 2	老年看護と倫理 老年看護の課題	高齢者看護における倫理的ジレンマとそれに対する 意思決定プロセスを学ぶ。 老年看護の今後の課題について考察する。	山本

[単位] 必修3単位

[場所] 保健衛生学科講義室2 (3号館8階) ほか

4 教科書・参考書

高崎絹子他：最新老年看護，日本看護協会出版会，2005.

5 他科目との関連

対象別看護として高齢者を対象としているため，病態学，生理学などの基礎的な医学知識や基礎・成人看護学における内容をふまえながら，高齢者独自の看護学の授業を展開する。

6 受講上の注意

授業中の入退室は，原則として認めない。

7 成績評価方法

学期末の試験を主とし，出席状況、課題への取り組姿勢、課題レポートなどを総合的に評価する。

リハビリテーション看護学

Rehabilitation Nursing

山本 則子

1 科目の概要

リハビリテーションについての概念や理論について学ぶとともに、その基本的な技術や看護について実習を通して修得する。

2 教育方針・教育目標

リハビリテーション看護学の位置づけを明確にするとともに、リハビリテーションの概念を人間の基本的生活を保障するための人権思想や、ノーマライゼーション、QOLの観点から捉える。その上で、リハビリテーション看護の概念、対象、方法を学び、リハビリテーションチームにおける看護、他の専門職種との役割・機能と連携によるチームアプローチを理解する。また、リハビリテーション分野における活動、作業療法、言語療法の基本を理解する。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1	5/16(月) 4	リハビリテーション看護 序論	リハビリテーション看護の概念と理論, リハビリテーション看護の今日的課題	井上 郁 (初台リハビリテーション病院)
2	5/23(月) 4	リハビリテーション看護 の実際(1)	脊椎損傷を持つ患者へのリハビリテーション看護	室岡陽子 (千葉県千葉リハビリセンター)
3	5/30(月) 4	リハビリテーション看護 の実際(2)	脳卒中患者へのリハビリテーション看護	山本
4	6/6(月) 4	リハビリテーションチーム (1)	医学的リハビリテーションの定義, リハビリテーションの対象疾患の障害, 診断・評価, 治療内容	森田定雄 (本学理学療法部)
5	6/13(月) 4	リハビリテーションチーム (2)	理学療法とは何か、理学療法の役割・機能, 機能障害における評価法, 機能回復訓練と補助具による支援	葛山智宏 (本学理学療法部)
6	6/20(月) 4	リハビリテーションチーム (3)	作業療法とは何か、作業療法士の役割・機能, 作業療法の種類と評価法, 作業療法訓練	倉澤聡子 (本学理学療法部)
7	6/27(月) 4	リハビリテーションチーム (4)	言語療法とは何か、言語療法士の役割・機能, 言語障害の種類と評価法, 言語訓練(失語症, 構語障害)	大庭優香 (本学理学療法部)
8	7/4(月) 4	リハビリテーション看護 の実際(3)	呼吸リハビリテーション・高齢者へのリハビリテーション看護	山本・岡本・五十嵐

[単位] 選択1単位

[場所] 保健衛生学科講義室2 (3号館8階) ほか

4 教科書・参考書

なし

5 他科目との関連

解剖学, 生理学, 疾病論などの医学知識, 基礎看護学, ライフサイクル別看護学, 在宅ケア論, 地域看護学系の教科目のみならず, 社会福祉学, 保健医療制度論などの分野と関係づけていくことが必要である。

6 受講上の注意

- 1) 授業中の入退室は認めない。
- 2) 実習の際の服装について, 随時指示する。

7 成績評価方法

- 1) 授業, 演習に関する課題レポートより評価する。
- 2) 出席日数は認定の基準とする。

老年看護学演習

Seminar of Gerontological Nursing

山本 則子

1 科目の概要

老年看護学の実践に必要な基礎的なアセスメント技術について、演習を通じて習得する。

2 教育方針・教育目標

・教育方針

高齢化社会を迎え、老年看護における独自の看護の役割と機能を果たすため、身体的・精神的・社会的な看護ケアの専門的な知識や技術が求められている。老年看護学での教育方針は、老年期にある対象を理解した上で、看護援助の知識に基づいた技術をグループワークや実習などの体験から養うことである。演習は、老年看護に今後ますます必要とされるフィジカルアセスメントを系統的に学習し、基本技術を身につける。

・教育目標

- 1) 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面の知識に基づき演習を行える。
- 2) 老年期にある対象の健康障害・機能障害をアセスメントするための基本技術を習得する。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1 2 3	4/12(火) 3, 4, 5	高齢者のフィジカルアセスメント(1)	フィジカルアセスメントとはなにか 査定の基本技術 生活状況・精神状態・腹部のアセスメント	山本・ 岡本・五十嵐
4 5 6	4/26(火) 3, 4, 5	高齢者のフィジカルアセスメント(2)	頭頸部(頭髪・頭蓋・目・耳・鼻・口)・皮膚のアセスメント	山本・ 岡本・五十嵐
7 8 9	5/17(火) 3, 4, 5	高齢者のフィジカルアセスメント(3)	胸部(呼吸器・乳房・心臓)のアセスメント	山本・ 岡本・五十嵐
10 11 12	5/31(火) 3, 4, 5	高齢者のフィジカルアセスメント(4)	泌尿器・筋骨格系・神経系のアセスメント	山本・ 岡本・五十嵐
13 14 15	6/14(火) 3, 4, 5	高齢者のフィジカルアセスメント(5)	フィジカルアセスメント テスト	山本・ 岡本・五十嵐

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室2(3号館8階)、実習室1(同17階)ほか

4 教科書・参考書(予定)

藤崎郁: フィジカルアセスメント完全ガイド, 学研, 2006.

5 他科目との関連

老年看護学をふまえて、演習を行う。

6 受講上の注意

- 1) 実習着については、随時指定する。
- 2) 授業中の入退室は認めない。
- 3) 原則として欠席は認めない。

7 成績評価方法

出席の有無、参加態度、実技試験、課題レポートなどを総合的に評価する。

老年看護学実習

Gerontological Nursing: Practicum

山本 則子

1 実習の概要・目的

老年期にある人と家族の特徴を理解し、対象の個性や状況に応じた看護の必要性を十分に考慮した上で、看護実践を展開する。

2 教育目標

(1) 老年期にある人とその家族（以下、対象者とする）の身体的・心理的・社会的側面を統合し、全体像をとらえ、看護過程を展開する。

1) 情報収集

ア) 対象者の身体的側面の情報を収集する。

（健康障害の経過、治療、予後など）

イ) 対象者の心理的側面の情報を収集する。

（生きがいなど対象者が大切にしていることも含める）

ウ) 家族的背景およびソーシャルサポートなどの社会的側面の情報を収集する。

2) アセスメント

ア) 対象者の日常生活全般における動作や活動の障害および精神機能のレベルを分析する。

イ) 対象者の自立と依存のバランスを考え、自己決定やセルフケア能力のレベルを明らかにする。

ウ) 対象者の潜在している能力や機能を的確に判断する。

エ) 対象者の特徴を統合し、全体像を図示し、説明する。

オ) 看護問題について、個性を反映した適切な表現で記述する。

3) 計画立案

ア) 看護問題に対し、長期的・短期的目標を設定する。

イ) 状況に合わせて、看護上の問題の優先順位をつける。

ウ) 対象者の個性を考慮し、実施可能な看護援助を記述する。

エ) スタッフとの連携を図るため、計画を説明し共有する。

4) 計画の実施

ア) 対象者の安全・安楽を考慮し、的確な技術で実施する。

イ) 看護援助に対する対象者の反応に応じて、計画を修正する。

ウ) 実施した看護援助の状況を、スタッフに説明することができる。

5) 評価

ア) 目標への達成度の評価を記述する。

イ) 評価に基づき、看護計画を修正する。

(2) 保健・医療・福祉のスタッフの役割・活動内容を理解し、看護の役割、活動内容について考える。

1) 対象者に関わる保健・医療・福祉職の活動内容を把握する。

2) 看護と介護を比較し、共通点、相違点を考える。

3) 看護の役割・活動の課題と展望を考える。

(3) 高齢者の専門医療機関（老人病院）や施設の特徴を理解する。

一般病院と高齢者の専門医療機関や施設について、基本的なシステムの違いを知るとともに、ケアに関連してどのような課題があるのかを整理する。

3 実習内容・方法等

〔単位〕 必修3単位

（詳細については実習要項参照）

地域看護学 I (総論)

Community Health Nursing I

佐々木 明子

1 科目の概要

地域看護学総論は、人々の健康問題やそれに関連する生活上の問題を、幅広い視野をもって総合的に解決するための基盤となるものである。

2 教育方針・教育目標

地域看護・公衆衛生看護は、地域の健康課題の把握に基づき、家庭や地域社会で生活する人々を対象とする。地域看護は、健康の保持・増進、疾病の予防、健康障害者の健康回復と悪化の予防、リハビリテーションなど地域でなされる保健・医療・福祉活動の地域ヘルスケアシステムの中でサブシステムとして機能する。現在行われている地域看護・公衆衛生看護に関係する諸制度を、地域看護・公衆衛生看護の歴史や実際の活動の学習を通して考える。地域の特色を把握した上で、ライフサイクル、健康レベル、疾病のプロセスに合わせたセルフケアに基づく、看護の方法の選択と、諸機関との協同で組織的に地域看護・公衆衛生看護活動を展開するための基礎を習得する。

教育目標は以下のとおりである。

- 1) 地域看護・公衆衛生看護活動の目的、活動の成立要件、活動のすすめ方の基本的なプロセスを理解する。
- 2) ヘルスケアシステムにおける地域看護の機能を理解する。

3 教育内容

回数	日時	内容	担当者
1	4/8(金)	地域看護・公衆衛生看護の定義と目的	佐々木 明子
2	1,2	地域看護・公衆衛生看護の活動方法	
3	4/15(金)	地域保健の法律と地域看護・公衆衛生看護活動の歴史	森田久美子
4	1,2		
5	4/22(金)	地域看護・公衆衛生看護の対象と活動の展開	田沼 寮子
6	1,2		
7	5/6(金) 1	地域保健、福祉行政と看護活動の展開	錦織正子(桐生大学)
8	5/6(金) 2	地域看護・公衆衛生看護活動の実際	錦織正子(桐生大学)

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室2 (3号館8階)

4 教科書・参考書

教科書 (必携)

- 1) 津村智恵子編著：三訂 地域看護学、中央法規、2008

参考書

- 1) 厚生統計協会：「国民衛生の動向」2010
- 2) 荒賀直子、後閑容子編：地域看護学、インターメディカル、2010
- 3) 金川克子編：最新 保健学講座第1巻 地域看護学概論 第2版、メヂカルフレンド社、2008
- 4) 福島道子編：看護系標準教科書 地域看護学 I (活動の基礎)、株式会社オーム社、2007
- 5) 日本看護協会編：第2版 保健師業務要覧、日本看護協会出版会、2008
- 6) ローレンスW・グリーン著、神馬征峰他訳：実践ヘルスプロモーション、医学書院、2005
- 7) 奥山則子他著：標準保健師講座(1)地域看護学概論 第2版、医学書院、2008
- 8) 柳沢健一郎他編：「衛生行政大要」、公衆衛生協会、2004

9) 宮崎美砂子編：最新地域看護学 総論、日本看護協会出版会、2006

5 他科目との関連

地域看護学の科目の基盤となるものとして位置づけられている。そして基礎看護学や臨床看護学の各科目と地域看護学との接点領域でもあり両者の相違や関連も明らかにする。

6 受講上の注意

本教科は、講義のみではなく、課題について考えるディスカッション、グループワーク等で構成される。学生間の積極的な意見交換を期待する。

7 成績評価方法

定期試験，レポート，出席

地域看護学Ⅱ（家族ケア論）

Community Health Nursing Ⅱ

佐々木 明子

1 科目の概要

地域看護・公衆衛生看護の対象を、個人だけではなく家族の枠組みで捉え、その基礎となる家族看護学の理論と実際を学ぶ。

2 教育方針・教育目標

- 1) 家族看護学の理論的発展と実際の家族への関り方について理解する。
- 2) 乳幼児から高齢者までを対象とする地域看護の場面においてみられる多様な家族像を理解し、その家族に生じる問題を理解し、看護の関わり方を理解する。また、家族アセスメントの方法を理解し、家族の捉え方の実際を学ぶ。
- 3) 家族に対する相談支援の実際について、家族への働きかけを理解する。

3 教育内容

回数	日時	内容	担当者
1	5/13(金)	家族および家族看護学の概念と理論	佐々木明子
2	1,2		田沼寮子
3	5/20(金)	家族の健康課題に応じた家族支援 家族アセスメントの視点	佐々木明子
4	1,2		田沼寮子
5	5/27(金)	家族アセスメントと家族支援の方法	佐々木明子
6	1,2		田沼寮子
7	6/3(金)	家族に対する支援の実際	錦織正子
8	1,2		(桐生大学)

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室2（3号館8階）

4 教科書・参考書

参考書

- 1) 鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学—理論と実践、第3版、日本看護協会出版会、2005
- 2) 家族ケア研究会：家族生活力量モデル—アセスメントスケールの活用法、医学書院、2002
- 3) Friedman, M.M, Family Nursing Theory and assessment, Appleton&Lange (野嶋佐由美監修：家族看護学—理論とアセスメント、ヘルス出版、1993)
- 4) 島内節、久常節子、野嶋佐由美編：地域看護学講座② 家族ケア、医学書院、1999

5 他科目との関連

母性看護、小児看護、成人看護、老人看護の発達段階別看護領域すべてに関連するので、これまでの各領域での学習を振り返りつつ、家族看護の視点で統合することが必要である。

6 受講上の注意

本科目は、講義のみではなく、課題について考えるディスカッション、グループワーク等で構成される。学生間の積極的な意見交換を期待する。

7 成績評価方法

定期試験、レポート、出席

在宅看護学Ⅱ

Home Care Nursing Ⅱ

本田彰子

松下祥子

1. 科目の概要

在宅看護学で特に重要とされる施設との連携、他職種との連携について、またケアマネジメントの実際について理解することにより、在宅療養支援の実際と看護職の専門性を学ぶ。

2. 教育方針・教育目標

在宅の場面で、保健医療福祉の制度や社会情勢の動向を考慮し、施設と地域の連携、看護職連携、他職種連携等のケアコーディネートの理論と実践を理解し、看護職の役割と実際を理解する。

3. 教育内容

回	日時	時限	内容	担当教員
1	6月10日	I	在宅ケアを支える法制度・社会のしくみ	本田彰子 松下祥子
2		II	高齢者療養支援と介護保険制度	
3	6月17日	I	ケアマネジメントの理論と実際	松本由美子 サンビューー埼玉
4		II		
5	6月24日	I	退院調整と訪問看護・施設との連携	本田彰子 松下祥子
6		II	療養体制作りと地域ネットワーク	
7	7月1日	I	訪問看護における看護過程	本田彰子 松下祥子
8		II		

〔単位〕 必修 1 単位

〔場所〕 保健衛生学講義室 2（3号館 8階）

4. 教科書・参考書

川越博美，佐藤美穂子，山崎摩耶編著：最新 訪問看護研修テキスト，日本看護協会出版会。

日本訪問看護振興財団編：日本版成人高齢者用アセスメントとケアプラン，日本訪問看護振興財団。

5. 他の科目との関連

2年次に学習した在宅看護学Ⅰをさらに発展させ、訪問看護における看護過程やケアマネジメントを学ぶことにより、在宅看護学実習での療養者への支援の展開につながる科目である。

6. 受講上の注意

7. 成績評価方法

出席、および定期試験

在宅看護学演習

Seminar of Home Care Nursing

本田彰子
松下祥子

1. 科目の概要

療養者の状態が多様化する在宅看護の現状に対応するよう、訪問看護における援助技術、および具体的な看護の展開を学ぶ。

2. 教育方針・教育目標

訪問看護で必要とされるフィジカルアセスメント、呼吸管理、リハビリテーション技術、栄養管理に関する技術について、その理論と実際について理解し、事例を通して、具体的な看護援助の方法を身につける。

3. 教育内容

回	日時	時限	内容	担当教員
1	5月13日	Ⅳ	事例 難病療養者の看護の実際	松下祥子
2		Ⅴ		
3	5月20日	Ⅳ	呼吸管理（人工呼吸法）	小倉朗子 神経科学総合研究所
4		Ⅴ		
5	5月27日	Ⅳ	呼吸管理（在宅酸素療法）	松下祥子
6		Ⅴ		
7	6月3日	Ⅳ	事例 回復期にある高齢者の看護	本田彰子
8		Ⅴ		
9	6月10日	Ⅲ	移動・移乗の援助技術および在宅リハビリテーション	高井 豊 森山リハビリテーション病院
10		Ⅳ		
11	6月17日	Ⅲ	事例 終末期にある在宅療養者の看護の実際	本田彰子
12		Ⅳ		
13	6月24日	Ⅲ	栄養管理（経管栄養・中心静脈栄養等）	菊島郁丸 きくしまクリニック
14		Ⅳ		
15	7月1日	Ⅲ	看護過程演習	本田・松下
16		Ⅳ		

〔単位〕 必修 1 単位

〔場所〕 保健衛生学講義室 2（3号館 8階）・実習室（同 17階）

4. 教科書・参考書

川越博美，佐藤美穂子，山崎摩耶編著：最新 訪問看護研修テキスト，日本看護協会出版会。

5. 他の科目との関連

在宅看護学実習で必要な看護技術および看護過程の展開を学ぶ。

6. 成績評価方法

出席、講義毎の提出物、および定期試験

在宅看護学実習

Practice of Home Care Nursing

本田彰子

松下祥子

1. 実習の概要・目的

在宅療養者と家族に対する在宅ケアの実際と展開方法を知り、その看護提供のシステムにおいて活動する看護職の役割を学ぶ。

2. 教育目標

1) 訪問看護実習

- 訪問看護利用者とその家族の療養上の問題をアセスメントすることができる。
- 訪問看護利用者と家族に必要な看護を見出し、看護計画を立案できる。
- 同行訪問により在宅での看護提供の実際を学ぶ。
- 在宅療養に必要な社会資源の活用について学ぶ。

2) ケアマネジメント実習

- 介護保険、および福祉制度等の仕組みを理解する。
- 居宅介護支援に関する具体的ケア提供の方法を理解する。
- 療養者を取り巻く関係施設、および各専門職との連携、マネジメントについて理解する。

3) 退院支援および継続看護実習

- 医療施設等から在宅療養への移行期に求められる、療養者の状況のアセスメントについて理解する。
- 医療施設等から在宅療養への移行期において、目標設定、および必要な援助を見出す退院計画について理解する。

〔単位〕 必修2単位

*詳細については実習要綱参照

第 4 学年

平成23年度時間割(看護学専攻:第4学年)

(前期) ※臨地実習の詳細については、別途連絡する。

①	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
4/6	水	学年別オリエンテーション	1	卒業論文Ⅱ(1)	各研究室	英文講読Ⅲ(1)	2			
7	木					地域看護学演習(1)	1	地域看護学演習(2)	1	
8	金			保健統計学(1)	情報検査室	緩和ケア看護学(1)	1	緩和ケア看護学(2)	1	
②	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
4/11	月			産業保健学(1)	4	地域看護学Ⅲ(1)	4	地域看護学Ⅲ(2)	4	看護の統合と実践Ⅱ(1)
12	火			学内進路説明会	4	保健医療福祉制度論演習(1)	4	保健医療福祉制度論演習(2)	4	
13	水			卒業論文Ⅱ(2)	各研究室	英文講読Ⅲ(2)	2			
14	木					地域看護学演習(3)	1	地域看護学演習(4)	1	
15	金			保健統計学(2)	情報検査室	緩和ケア看護学(3)	1	緩和ケア看護学(4)	1	
③	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
4/18	月			産業保健学(2)	4	地域看護学Ⅲ(3)	4	地域看護学Ⅲ(4)	4	看護の統合と実践Ⅱ(2)
19	火					保健医療福祉制度論演習(3)	4	保健医療福祉制度論演習(4)	4	
20	水			卒業論文Ⅱ(3)	各研究室	英文講読Ⅲ(3)	2			
21	木					地域看護学演習(5)	1	地域看護学演習(6)	1	
22	金			保健統計学(3)	情報検査室	緩和ケア看護学(5)	1	緩和ケア看護学(6)	1	
④	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
4/25	月			産業保健学(3)	4	地域看護学Ⅲ(5)	4	地域看護学Ⅲ(6)	4	看護の統合と実践Ⅱ(3)
26	火					保健医療福祉制度論演習(5)	1	保健医療福祉制度論演習(6)	1	
27	水			卒業論文Ⅱ(4)	各研究室	英文講読Ⅲ(4)	2			
28	木					地域看護学演習(7)	1	地域看護学演習(8)	1	
29	金	昭和の日								
⑤	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
5/2	月									
3	火	憲法記念日								
4	水	みどりの日								
5	木	こどもの日								
6	金									
⑥	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
5/9	月			産業保健学(4)	4	地域看護学Ⅲ(7)	4	地域看護学Ⅲ(8)	4	看護の統合と実践Ⅱ(4)
10	火					保健医療福祉制度論演習(7)	4	保健医療福祉制度論演習(8)	4	
11	水			卒業論文Ⅱ(5)	各研究室	英文講読Ⅲ(5)	1			
12	木					地域看護学演習(9)	1	地域看護学演習(10)	1	
13	金			保健統計学(4)	情報検査室	緩和ケア看護学(7)	1	緩和ケア看護学(8)	1	

平成23年度時間割(看護学専攻:第4学年)

	⑦	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/16	月			産業保健学(5)	4	地域看護学Ⅲ(9)	4	地域看護学Ⅲ(10)	4	看護の統合と実践Ⅱ(5)	4
17	火					保健医療福祉制度論(1)	4	保健医療福祉制度論(2)	4		
18	水			卒業論文Ⅱ(6)	各研究室	英文講読Ⅲ(6)	1				
19	木					地域看護学演習(11)	1	地域看護学演習(12)	1		
20	金			保健統計学(5)	情報検査室	国際保健看護学(1)	1	国際保健看護学(2)	1		

	⑧	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/23	月			産業保健学(6)	4	地域看護学Ⅲ(11)	4	地域看護学Ⅲ(12)	4	看護の統合と実践Ⅱ(6)	4
24	火					保健医療福祉制度論(3)	4	保健医療福祉制度論(4)	4		
25	水			卒業論文Ⅱ(7)	各研究室	英文講読Ⅲ(7)	1				
26	木	地域看護学実習Ⅰ(1)									
27	金			保健統計学(6)	情報検査室			国際保健看護学(3)	1		

	⑨	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
5/30	月			産業保健学(7)	4	地域看護学Ⅲ(13)	4	地域看護学Ⅲ(14)	4	看護の統合と実践Ⅱ(7)	4
31	火			国際保健看護学(4)	情報検査室	保健医療福祉制度論(5)	4	保健医療福祉制度論(6)	4		
6/1	水			卒業論文Ⅱ(8)	各研究室	英文講読Ⅲ(8)	1				
2	木	地域看護学実習Ⅰ(2)									
3	金			保健統計学(7)	情報検査室	国際保健看護学(5)	1	国際保健看護学(6)	1		

	⑩	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
6/6	月			産業保健学(8)	4	地域看護学Ⅲ(15)	4	地域看護学Ⅲ(16)	4	看護の統合と実践Ⅱ(8)	4
7	火	保健医療福祉制度論(7)	4	保健医療福祉制度論(8)	4	保健医療福祉制度論演習(9)	4	保健医療福祉制度論演習(10)	4		
8	水			卒業論文Ⅱ(9)	各研究室	英文講読Ⅲ(9)	1				
9	木	地域看護学実習Ⅰ(3)									
10	金			保健統計学(8)	情報検査室	国際保健看護学(7)	1	国際保健看護学(8)	1		

	⑪	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
6/13	月									看護の統合と実践Ⅱ(9)	4
14	火										
15	水			卒業論文Ⅱ(10)	各研究室			英文講読Ⅲ(10)	1		
16	木	地域看護学実習Ⅰ(4)									
17	金					国際保健看護学(9)	1	国際保健看護学(10)	1		

	⑫	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
6/20	月							看護の統合と実践Ⅱ(10)	4	看護の統合と実践Ⅱ(11)	4
21	火	保健医療福祉制度論(9)	4	保健医療福祉制度論(10)	4	保健医療福祉制度論演習(11)	4	保健医療福祉制度論演習(12)	4		
22	水			卒業論文Ⅱ(11)	各研究室			英文講読Ⅲ(11)	1		
23	木					地域看護学演習(13)	1	地域看護学演習(14)	1		
24	金										

平成23年度時間割(看護学専攻:第4学年)

⑬	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
6/27	月						看護の統合と実践Ⅱ(12)	4	看護の統合と実践Ⅱ(13)	4
28	火	保健医療福祉制度論(11)	4	保健医療福祉制度論(12)	4	保健医療福祉制度論演習(13)	4	保健医療福祉制度論演習(14)	4	
29	水		卒業論文Ⅱ(12)	各研究室	英文講読Ⅲ(12)	1	英文講読Ⅲ(13)	1		
30	木				地域看護学演習(15)	1	地域看護学演習(16)	1		
7/1	金									

⑭	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
7/4	月						看護の統合と実践Ⅱ(14)	4	看護の統合と実践Ⅱ(15)	4
5	火	保健医療福祉制度論(13)	4	保健医療福祉制度論(14)	4	保健医療福祉制度論(15)	4	保健医療福祉制度論演習(15)	4	
6	水				英文講読Ⅲ(14)	1	英文講読Ⅲ(15)	1		
7	木									
8	金									

①	8:50～10:20		10:30～12:00		13:00～14:30		14:40～16:10		16:20～17:50	
7/11	月	前期定期試験								
12	火	前期定期試験								
13	水	前期定期試験								
14	木	看護の統合と実践実習								
15	金	看護の統合と実践実習								

①	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
7/18	月	海の日								
19	火	看護の統合と実践実習								
20	水	看護の統合と実践実習								
21	木	看護の統合と実践実習								
22	金	看護の統合と実践実習								

②	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
7/25	月	看護の統合と実践実習								
26	火	看護の統合と実践実習								
27	水	看護の統合と実践実習								
28	木	看護の統合と実践実習								
29	金	看護の統合と実践実習								

③	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
8/1	月	看護の統合と実践実習								
2	火	夏季休業 ～9/20(火)								

前期定期試験 7/11(月)～7/13(水)

夏季休業 8/2(火)～9/20(火)

平成23年度時間割(看護学専攻:第4学年)

(後期) ※臨地実習の詳細については、別途連絡する。

	①	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
9/21	水										
22	木										
23	金	秋分の日									

	②	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室										
9/26	月	臨地実習																			
27	火																				
28	水											卒業論文Ⅱ(13)									
29	木																				
30	金																				

	③	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室										
10/3	月	臨地実習																			
4	火																				
5	水											卒業論文Ⅱ(14)									
6	木																				
7	金																				

	④	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室
10/10	月	体育の日									
11	火	臨地実習									
12	水	創立記念日									
13	木	臨地実習									
14	金										

	⑤	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室										
10/17	月	臨地実習																			
18	火																				
19	水											卒業論文Ⅱ(15)									
20	木																				
21	金																				

	⑥	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室										
10/24	月	臨地実習																			
25	火																				
26	水											卒業論文Ⅱ(16)									
27	木																				
28	金																				

	⑦	8:50～10:20	講義室	10:30～12:00	講義室	13:00～14:30	講義室	14:40～16:10	講義室	16:20～17:50	講義室										
10/31	月	臨地実習																			
11/1	火																				
2	水											卒業論文Ⅱ(17)									
3	木											文化の日									
4	金																				

平成23年度時間割(看護学専攻:第4学年)

	⑧	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室										
11/7	月	臨地実習																			
8	火																				
9	水											卒業論文Ⅱ(18)									
10	木											臨地実習									
11	金																				

	⑨	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室										
11/14	月	臨地実習																			
15	火																				
16	水											卒業論文Ⅱ(19)									
17	木											臨地実習									
18	金																				

	⑩	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室										
11/21	月	臨地実習																			
22	火																				
23	水											勤労感謝の日									
24	木											臨地実習									
25	金																				

	⑪	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室										
11/28	月	臨地実習																			
29	火																				
30	水											卒業論文Ⅱ(20)									
12/1	木											臨地実習									
2	金																				

	⑫	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
12/5	月										
6	火										
7	水	卒業論文Ⅱ(21)									
8	木										
9	金										

	⑬	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
12/12	月										
13	火										
14	水	卒業論文Ⅱ(22)									
15	木										
16	金										

	⑭	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
12/19	月										
20	火										
21	水										
22	木										

冬季休業 12/23(金)~1/4(水)

平成23年度時間割(看護学専攻:第4学年)

	①	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
1/5	木										
6	金										
	②	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
1/9	月	成人の日									
10	火										
11	水										
12	木										
13	金										
	③	8:50~10:20	講義室	10:30~12:00	講義室	13:00~14:30	講義室	14:40~16:10	講義室	16:20~17:50	講義室
1/16	月										
17	火										
18	水										
19	木										
20	金										
	①	8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50	
1/23	月	後期定期試験									
24	火	後期定期試験									
25	水	後期定期試験									
26	木	後期定期試験									
27	金	後期定期試験									
	②	8:50~10:20		10:30~12:00		13:00~14:30		14:40~16:10		16:20~17:50	
1/30	月	補講・再試									
31	火	補講・再試									
2/1	水	補講・再試									
2	木	補講・再試									
3	金	補講・再試									

後期定期試験 1/23(月)~1/27(金)

補講・再試期間 1/30(月)~2/3(金)

春季休業 2/6(月)~

卒業式 3/23(金)

英文講読 III

English for Nursing III

木下 裕太

1 科目の概要

より高度な医学英語に挑戦し、読解力をさらに高める。

2 教育方針・教育目標

グローバルな知識を得るために必要不可欠な英文ウェブサイト慣れることによつて的確な情報を読み取る力を身につける。また同時に医学英語に用いられる表現・難解な語彙に親しむことによつて読解力を高める。

3 教育内容

アメリカ、英国、カナダのウェブサイトから題材を集めたテキスト *Gateway to Medical English* を教材とし、英文の内容を正しく把握できるよう読み進めていく。また、医療に関する海外ドラマ・映画等を副教材として、医学英語の音声に慣れる。

回数	日時		内容	担当者
1	4/6 (水)	3 限	ガイダンス	木下
2	4/13(水)	3 限	<i>Gateway to Medical English</i> Unit 1	〃
3	4/20(水)	3 限	<i>Gateway to Medical English</i> Unit 2	〃
4	4/27(水)	3 限	<i>Gateway to Medical English</i> Unit 3	〃
5	5/11(水)	3 限	<i>Gateway to Medical English</i> Unit 4	〃
6	5/18(水)	3 限	小テスト 1 / DVD 教材	〃
7	5/25(水)	3 限	<i>Gateway to Medical English</i> Unit 6	〃
8	6/1 (水)	3 限	<i>Gateway to Medical English</i> Unit 7	〃
9	6/8 (水)	3 限	<i>Gateway to Medical English</i> Unit10	〃
10	6/15(水)	4 限	<i>Gateway to Medical English</i> Unit 12	〃
11	6/22(水)	4 限	小テスト 2 / DVD 教材	〃
12	6/29(水)	3 限	DVD 教材	〃
13	6/29(水)	4 限	<i>Gateway to Medical English</i> Unit 14	〃
14	7/6 (水)	3 限	総復習・試験対策	〃
15	7/6 (水)	4 限	期末試験	〃

[単位] 選択1単位

[場所] 保健衛生学講義室2(3号館8階)、および保健衛生学講義室1(3号館18階)

4 教科書・参考書

Gateway to Medical English (Pearson Education Japan)

5 他科目との関連

英語に触れる他のすべての科目。

6 受講上の注意

テキストの予習は必須。前もって該当(担当)箇所に通し、知らない単語があれば辞書で調べ、できる限り文章の内容を把握した状態で授業に臨むこと。

7 成績評価方法

出席日数は、全授業回数の3分の2が必要。ただし、遅刻は欠席と同じ扱いとする。その上で、期末試験と小テストの成績、授業への参加度などを総合して評価する。

保健統計学

Health Statistics

田 中 博

1 科目の概要

本科目では保健科学分野における医学統計の利用について扱う。与えられたデータからどのように指標となる値を導き出し、結果としてデータを提供した対象（患者等）にどのような判断を下したらよいかを、推測統計学的手法を用いて講義する。

授業では、医学統計とはそもそも何であるかについてから始まり、データの種類・統計の種類、統計における基礎的な指標、推測統計学の考え方、計量データ・計数データの解析と順を追って説明を行う。また、現在の統計処理では欠かせない、統計パッケージ（SAS, SPSS）を用いたパソコン実習も併せて行う。

2 教育方針・教育目標

調査研究とは、自らが計画し、自らが実験あるいは調査し、そこで得られたデータを自らが分析し、将来の行動の基盤となる結論を得る過程である。

医学・医療分野における調査研究では、対象が生体であるため、一つ一つのデータは揺れが大きく、厳密な意味を求めようとすればするほど、何も言えなくなってしまう。そこで、得られた個々のデータを、一定の条件の下に分類したデータの集まりと考え、その集まりに対し統計的推論（Statistical Reasoning）を行なうという方法が取られる。本科目の目標は、保健医療分野における何らかの認識を得るため、この統計的論証を修得することに置かれている。

3 教育内容

以下の項目について講義および演習を行う。

回数	日時	項目	内容	担当者
1	4/8(金) 2	医学統計の基礎概論	推測統計学の考え方、データの種類、母集団と標本、正規分布、標本統計量、推定と検定、バイアスの種類	田中 博
2	4/15(金) 2	計数データの解析 I	色々な確率分布（二項分布等）、比率の検定、 2×2 分割表、クロス集計、帰無仮説・対立仮説、 χ^2 検定、Fisher の正確検定、Mc'Nemer の検定	下川 和郎
3	4/22(金) 2	計数データの解析 II		
4	5/6(金) 2	計量データの解析 I	2つの集団の標本平均の比較（Student の T 検定、Welch の T 検定、paired T 検定、Wilcoxon の順位和検定） 3つ以上の集団の標本平均の比較（一元配置分散分析、Kruskal-Wallis の検定）	下川 和郎
5	5/13(金) 2	計量データの解析 II		
6	5/20(金) 2	パソコン実習 I	統計パッケージを用いたデータ解析の演習	下川 和郎
7	5/27(金) 2	パソコン実習 II		
8	6/3(金) 2	計量データの解析 III	二元配置分散分析、多重比較、データと統計手法	田中 博

[単位] 必修 1 単位

[場所] 情報検索室 (M&D タワー 4 階)

4 教科書・参考書

参考書として

丹後俊郎 新版 医学の統計学 朝倉書店 (著者・出版社同) 統計学のセンス

5 他科目との関連

公衆衛生関係とくに疫学（3年）と関連が深い。コンピュータとの関連では、情報科学（1年）、医療情報学（2年）の受講が必要である。

6 受講上の注意

看護学専攻の学生には、高校時代、数学のカリキュラムが少なかった者も見受けられる。本科目では、高度な数学の知識は要求されないが、数学 A の確率、数学Ⅱ, B の数列、微分・積分程度の基礎的な記号や式などの意味は理解されているという認識の下で授業を進める。不安がある者は、教養課程や高校時代の教科書などを読み返し、授業に臨むことを勧める。（高等学校における履修者は非常に少ないと思われるが）特に数学 B, 数学 C の統計関連分野などに目を通しておくこと。

本科目で用いられる数式の例：

$$S^2 = \frac{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}{(n-1)} \quad f(x) = \exp\left\{-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}\right\} \sqrt{(2\pi)\sigma}$$

7 成績評価方法

出席状況及び筆記試験で評価する。筆記試験は学期末に行い、合格点に満たない者には再度試験を行う。

国際保健看護学

International Health Nursing

丸 光 恵

1 科目の概要

諸外国の健康問題の状況と、各国・地域の医療制度や医療・保健・看護制度について講義する

2 教育方針・教育目標

単に諸外国の医療と看護の現状を理解するにとどまらず、各国・地域の歴史・社会システムの変遷との関連から、人々のかかえる健康問題や保健・看護問題の本質は何であるかを考える姿勢を養う。

世界保健機構が提唱する“Health for all in the 21st century”について理解を深め、地球市民としての自覚に立脚した看護専門職としての国際感覚を養う。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1	5/20(金)	諸外国の状況 1	WHO Health for all in the 21st century	丸
2	Ⅲ・Ⅳ	諸外国の状況 2	米国における高度実践看護師教育	
		諸外国の状況 2	熱帯感染症対策と日本	太田伸生
3	5/27(金)	看護職の国際協力 1	JICAの活動およびセネガルにおける経験	澤田和美
	Ⅳ			
4	5/31(火)	諸外国の状況 3	アジアの看護 *図書館・情報検索室で行います。	錢 淑君
	Ⅱ			
5	6/3(金)	諸外国の状況 4	国際保健の現状	中村安秀
6	Ⅲ・Ⅳ	諸外国の状況 5	途上国の小児保健	
7	6/10(金)	諸外国の状況 6	英国における看護制度と小児病院における実践	平田美佳
8	Ⅲ・Ⅳ	諸外国の状況 7	医療制度の国際比較	佐藤主光
9	6/17(金)	看護職の国際協力 2	ボリヴィアにおける国際協力	青柳美樹
10	Ⅲ・Ⅳ	看護職の国際協力 3	国際看護師協会と高度実践看護師ネットワークの活動	丸

[単位] 選択 1 単位

[場所] 保健衛生学講義室 1 (18 階)

4 教科書・参考書

中村安秀：国際保健医療のお仕事 改訂 2 版、南山堂、2008

丸井英二、森口育子：国際保健・看護、弘文堂、2005

ビバリー・ヘンリー、上田礼子訳：国際保健看護、看護の科学社、2005

5 他科目との関連

感染症等に関する基礎的な疾患についての知識が必要となる。

6 受講上の注意

海外で活動している非常勤講師も担当しているため、開講日時が変更されることがある。掲示板に注意しておくこと。

7 成績評価方法

毎回の講義レポートにより評価する予定

産業保健学

Occupational Health Nursing

森田久美子

1 科目の概要

働く人の健康指導と健康管理、並びに職業起因性障害や災害の予防に関する指導と管理のあり方は保健師にとって必須の事項であり、その考え方や実践の方法を身につけることを前提とした産業保健活動の理論を究明する。

2 教育方針・教育目標

産業に関わる看護師・保健師は産業医やコ・メディカルスタッフと協働して、そこに勤務する職業人としての個人に対する健康の保持・増進の支援や集団に対する公衆衛生活動を要求される。そしてその業務の遂行には、保健師としての倫理観と人格が求められ、保健・医療・福祉・文化・行政などの学際的な幅広い知識や技能に基づいた問題解決能力を身につける上での基本的な概念を修得させる必要がある。

産業という個々の管理社会とそれを取り囲む外環境とが調和され、社会的に対応できない個人や企業を生ぜしめないような予防的保健活動と健康増進活動の意義を認識させ、自由な発想で個人や社会の痛みを理解でき、望ましい保健分野における社会機構を考えられる基礎学力を身につけることを目標とする。

3 教育内容

衛生学・公衆衛生学に裏付けられた個人および集団の健康保持・増進をメインテーマとして、働く人々が快適な職場環境で健康を損なうことなく、仕事を自分に適合させて肉体的・精神的・社会的に良好な状態を維持増進させる上での基礎知識を系統的に付与する。

そのためには、健康な人も健康に障害を持った人も、労働という営みの中で、保健指導を進める上での最重要課題を取り上げて事例を列挙しながら、産業保健の理念・歴史・健康管理体制・労働者の実態・労働内容・労働環境・産業疲労・業務上疾病（職業性疾患）・産業災害とその対策や予防方法・社会保障と医療などについて、産業保健学の幅広い視野に立って、これらの原理と実際について理解させる。

回数	日時	項目	内容	担当者
1	4/11(月) 2	産業保健学 総論	地域保健における産業保健の位置づけ、現状、最新のトピック	森田久美子
2	4/18(月) 2	産業保健・看護の理念と歴史、法律	産業保健・看護の歴史、産業看護の定義・職務、関連法規、企業に求められる健康管理	水野恵理子
3	4/25(月) 2	労働災害	職業性疾病、作業関連疾患、労働災害、女性労働者の支援	水野恵理子
4	5/9(月) 2	産業看護活動	産業看護活動の実際、ハラスメント、自殺対策	水野恵理子
5	5/16(月) 2	労働者の心の健康支援1	疲労、職場のストレス、精神疾患と労働災害	水野恵理子
6	5/23(月) 2	労働者の心の健康支援2	予防、復職支援、事例学習、諸外国の産業看護活動	水野恵理子
7	5/30(月) 2	衛生管理、人事労務管理1	関連法令に基づく衛生施策の立て方 人事労務管理の基本的な考え方 人事労務問題への対応	神山貴巳香
8	6/6(月) 2	人事労務管理2	事例演習(判例検討)	神山貴巳香

[単位] 必修1単位

[場所] 保健衛生学講義室 4 (3号館7階)

4 教科書・参考書

眞野喜洋, 遠藤立一 (監著) : 健康管理者のための公衆衛生学, 圭文社, 東京

眞野喜洋 (監著) : スタンダード公衆衛生学, 文光堂, 東京

松田正巳他 : 対象別地域看護活動, 医学書院

平山朝子, 宮地文子 (編集) : 産業保健指導論, 公衆衛生看護大学体系 # 6, 日本看護協会出版会, 東京

(財)厚生統計協会 : 国民衛生の動向, 厚生指標臨時増刊, (財)厚生統計協会, 東京

労働衛生のしおり (労働省労働基準局編), 成人地域看護活動 (地域看護学講座 No 7), 医学書院

など産業保健に関する書籍はすべて参考となるが, 購入の折にはできるだけ新しい数値の乗った統計データを有するものから選ぶこと。

5 他科目との関連

公衆衛生学, 地域保健学・看護学とは密接な関係にあり, クロス・オーバーする領域が多い。

母性, 成人老人, 精神の各保健学, 看護学とも関連性が高い。

基礎学力としての生理学, 薬理学, 病理学などの知識は講義の理解を深める上で重要である。

6 受講上の注意

産業保健学は他領域とそれぞれ深く係る学際性の高い分野なので, 日頃からマスメディアの医療の関与する社会ニュースなどにも関心を持つことが望ましい。

7 成績評価方法

学期末筆答試験および出席点により評価する。

保健医療福祉制度論

Health and Welfare System

森田 久美子

1 科目の概要

保健医療福祉制度は、関連する制度も含めると「社会保障制度」になる。社会保障とは、5つの社会保険(年金・医療・介護・雇用・労災)、福祉(児童・障害者・高齢者・女性などの社会的弱者対象)、生活保護、公衆衛生、医療体制と、大変幅広い分野からなる多種多様で複雑難解な制度である。しかし知識がないと申請できないという根本的な問題を抱えるため、社会保障教育が重要となる。

日本は世界一の超少子高齢社会になり、家族・地域の支えあい機能も低下して、個人の努力範囲を超える人生のリスクは高まっている。さらに世界大不況の影響で生活は不安定になり、雇用保険、生活保護などの受給者も増加している。老後や失業に備えて貧困を予防する社会保険加入が重要となるが、非正規社員の増加により社会保険のあり方も見直しを迫られている。

家族に代わる社会支援の割合が増しているが、長寿化で支援を受ける人が増加し、少子化で税金・社会保険料を負担して社会保障を支える現役世代は減少するという、財源的に厳しい時代に入った。このような受給バランスが崩れた社会において、社会保障制度を安定維持するには、あらゆる年齢の国民が健康寿命を意識し、生涯安定した収入を得ながら自立した生活ができる社会支援が必要になっている。

社会保障制度は、国民の人生・生活を安定させることで社会を安定・発展させる、車の両輪の役割を持っている。経済発展と社会保障教育で自立した国民を増やし、利用者のモラルを高めながら社会保障制度をより効果的に実施する「良い循環」をもたらす施策が求められる。

2 教育方針・教育目標

保健医療福祉に携わる専門職の対象は「人」であり、傷病・要介護・障害・失業・貧困など様々な複合リスクとニーズを抱えている。それを的確に把握して、尊厳も大切にしながら信頼関係を築き、多様な社会サービスにつなげることで、利用者主体の自立を支援する重要な職種である。またチーム医療の時代に入り、他の医療職や福祉職・ボランティアとの連携も重要になっており、地域福祉も含めた社会保障制度の知識とコミュニケーション能力が求められる。

ネットワークの中で、社会的弱者の実態把握、必要な自立支援を検討することにより総合的・効果的な支援ができる医療職を目指す。また患者・要介護者あつての医療職であることを忘れず、知識・技術の研鑽を積み続けると同時に「支援させていただく」という意識も大切にしたい。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1 2	5/17(火) 3,4	超少子高齢社会の 社会保障制度	社会・家族の変化、人口動態・人口静態、超少子高齢化の現状と社会保障の重要性・今後の課題、社会保障制度の5つの機能、多種多様な制度の種類と財源、社会福祉の対象者、保護から自立支援へなど社会保障の歴史と動向	森田久美子 内田厚子
3 4	5/24(火) 3,4	公的年金制度1・2 障害年金・遺族年金・ 老齢年金	年金の歴史、国民年金・厚生年金の保険料・受給資格期間・受給要件・年金額、国庫負担による補助、職業により変わる加入制度、社会保障協定、年金分割	内田厚子
5 6	5/31(火) 3,4	公的年金制度3・4 公的年金の課題 各種年金基金	年金制度の安定維持、未加入者問題、年金格差問題、年金記録問題、公的年金を補う各種年金基金・確定拠出年金の仕組みと現状、年金にかかる税金、年金担保融資	内田厚子
7 8	6/7(火) 1,2	公的医療保険制度 1・2	日本の医療保険の特徴、歴史、職業別の健康保険制度、保険の対象、混合診療、保険料と国庫負担、年齢別自己負担割合、高額療養費制度、診療報酬、長寿医療制度、急増する医療費、公費医療制度、傷病・出産手当金	内田厚子
9 10	6/21(火) 1,2	医療体制の整備 児童福祉制度	医療体制、過剰病床問題、医師・看護師の不足・偏在、救急医療、患者側の問題点、患者主体の医療、医療事故、がん・難病対策、医薬品と副作用被害救済 児童福祉の歴史、少子化対策、保育所・学童保育の整備、社会的養護の種類、児童虐待、1人親家庭の支援	内田厚子
11 12	6/28(火) 1,2	公的介護保険制度 1・2	公的介護保険が必要な背景、介護保険の目的・仕組み・現状、制度改正の変遷、介護認定、介護予防・介護給付の違い、介護の専門職種、保険料の地域格差、利用者負担、低所得者の負担軽減、高額介護サービス費、介護報酬	内田厚子

13 14	7/5(火) 1,2	障害者福祉制度 生活保護制度・ 低所得者対策	障害者の自立支援サービスの種類と利用者負担、共生社会の実現、低所得者の負担軽減、就労支援、各優遇制度、生存権を保障する最後のセーフティネット、保護から自立支援へ、低所得者の資金貸付制度、ホームレス対策	内田厚子
15	7/5(火) 3	まとめ、討議	まとめ、社会福祉について討議	森田久美子 内田厚子

[単位] 必修2単位

[場所] 保健衛生学講義室 4 (3号館7階)

4 教科書・参考書

テキスト ①内田厚子著「最新データ・重要ポイント解説『日本の社会保障制度2011』」

②東京都発行「2010 社会福祉の手引」

*テキスト代を初日に徴収、金額は掲示します。

参考図書 ①内田厚子著「高校生・大学生・社会人の必須科目『社会保障』」(文芸社)

②その他、国民衛生の動向、国民の福祉の動向、保険と年金の動向、厚生労働白書、厚生統計要覧、社会保障年鑑など

その他 厚生労働省・文部科学省・内閣府のホームページ、制度ごとの情報冊子・リーフレット

5 他科目との関連

地域看護学、地域精神看護学、老年看護学、保健統計学、看護管理学・看護経済論などの分野と一部内容が重複するが、各制度の全体像を体系的に把握して整理しておくことが医療職として重要である。

6 受講上の注意

保健医療福祉制度は頻繁に改正されるため、常に最新情報を収集できるよう関心を持ち続け、幅広い相談に乗れる医療専門職をめざす。就職後の自分の人生にも役立つ。

7 成績評価方法

学期末筆答試験、出席点などにより評価する。

保健医療福祉制度論演習

Seminar of Health and Welfare System

森田 久美子

1 科目の概要

社会保障教育は、単に知識を得て利用できるようにするだけではなく、自立した国民の1人としてその財源を税金や社会保険料の形で負担する義務を負っていることにも気づく必要がある。結果、国民が負担できる範囲の保障水準になる。高福祉・低負担はありえないことの再認識と、低所得者・社会的弱者の生存権をどのように・どの程度まで保障するかを考慮することも大切である。

看護経済論、保健医療福祉制度論で学んだ知識を元に、各自が関連する情報を収集して持ち寄ることで、関心を深めて知識をより広げ、仲間の多様な意見を聞いて受けとめることで考え方の幅を広げることを目的とする。

2 教育方針・教育目標

多種多様な制度についてすべてに基礎的知識を持つことで、現状の問題点に気づき、制度改正の方向性の是非を総合的にバランスよく判断できるようにする。

医療職として、今、医療現場でどのような問題が起きているのか、これからの医療職はどのようなべきか、社会保障の知識をどのようなところで役立てることができるかを一人ひとりが考えて発表する時間をもつ。

また自分の人生でどのような時に社会保障制度が役立つのか、90歳までの長期ライフプランを描きながら具体的・実践的に考えることで、利用者の立場でも制度の重要性の理解につなげる。

社会保障制度は家族・社会の変化に合わせて、毎年のように改正が行われている。常に関心を持って新しい情報を収集する習慣を身に付けることも重要である。

3 教育内容

回数	日時	項目	内容	担当者
1, 2	4/12(火) 3, 4	社会保障制度の経緯	歴史と概念を知り従事者の役割を学ぶ	森田久美子 原 耕一郎
3, 4	4/19(火) 3, 4	看護職責者アンケートから現場を考える	医療現場の実際を知り看護職の位置付けを学ぶ	原 耕一郎
5, 6	4/26(火) 3, 4 ※	医療機関の各種認定制度の実例	機能評価、ISO、プラバシ等の取り組みを学ぶ	原 耕一郎
7, 8	5/10(火) 3, 4	医療制度と経済環境	医療制度の遍歴と未来を従事者の立場で議論する	森田久美子 原 耕一郎
9, 10	6/7(火) 3, 4	公衆衛生 1.2	健康寿命を延ばす知識と対策、各種保健事業、特定検診・がん検診、生活習慣病対策、感染症対策・予防接種制度、生活の安全・地球環境の保護	内田厚子
11, 12	6/21(火) 3, 4	高齢者福祉制度 地域福祉	介護保険以外の生活支援、入所施設の種類の自治体独自の制度、虐待の現状 社会福祉協議会、民生委員、成年後見制度	内田厚子
13, 14	6/28(火) 3, 4	海外の社会保障制度 1.2	先進諸国の年金・医療・雇用・労災・介護・子育て支援を比較することで、日本の制度を見直す視点にする。国民性・歴史・為替変動を考慮	内田厚子
15	7/5(火) 4	まとめ、討議	まとめ、社会保険についての討議	森田久美子 内田厚子

[単位] 必修 1 単位

[場所] 保健衛生学講義室 4 (3号館 7階) ※4/26のみ、保健衛生学講義室 1 (3号館 18階)

4 教科書・参考書

テキスト ①内田厚子著「最新データ・重要ポイント解説『日本の社会保障制度 2011』」

②東京都発行「2010 社会福祉の手引」

参考図書 ①内田厚子著「高校生・大学生・社会人の必須科目『社会保障』」(文芸社)

②その他、国民衛生の動向、国民の福祉の動向、保険と年金の動向、厚生労働白書、厚生統計要覧、社会保障年鑑など

その他 厚生労働省・文部科学省などのホームページ、制度ごとの情報冊子・リーフレット

5 他科目との関連

すでに履修してきた保健・看護の各専門分野の知識をもって、社会保障制度の全体像を体系的に学ぶことで、保健・医療の専門分野の位置づけを確認できる。また細分化されすぎた専門分野で抜け落ちている部分を体系的に学ぶことで、全体像が整理されていく。幅広い周辺知識をもつことは、スムーズな保健・医療・福祉の連携を可能にする。

6 受講上の注意

社会保障制度は頻繁に改正されるため、常に新しい情報を収集することが望ましい。また立場による保障ニーズ・負担のあり方の考え方に違いが大きいことにも留意する必要がある。

7 成績評価方法

レポート提出、出席点により評価する。

卒業論文Ⅱ

ThesisⅡ

総合保健看護学専攻教授・准教授・講師全員
総合保健看護学専攻主任

1 科目の概要

指導教員のもとで研究を行い、論文をまとめる。

2 教育方針・教育目標

卒業論文では、看護・保健に関する研究のプロセスを学ぶことを通じて、論文の読み方、研究の進め方、論文のまとめ方、発表の仕方の基本を習得させることを目的とする。

3 教育内容

学生による自主的な研究活動

[時間割] (前期) 4/6(水)2時限, 4/13(水)2時限, 4/20(水)2時限, 4/27(水)2時限, 5/11(水)2時限,
5/18(水)2時限, 5/25(水)2時限, 6/1(水)2時限, 6/8(水)2時限, 6/15(水)2時限,
6/22(水)2時限, 6/29(水)2時限

(後期) 9/28(水)終日, 10/5(水)終日, 10/19(水)終日, 10/26(水)終日, 11/2(水)終日,
11/9(水)終日, 11/16(水)終日, 11/30(水)終日, 12/7(水)終日, 12/14(水)終日

[単位] 必修2単位

4 指導体制

- ・保健衛生学科看護学の各分野に配属され、当該分野において教授、准教授、講師および助教が指導教員（研究指導の責任者）となり、教員全員が指導にあたる。指導する学生数は原則として教授4名、准教授3名、講師2名、助教1名とする。
- ・成績は、各分野において論文と発表から評価し、専攻主任が認定する。

5 履修期間

- ・4年前・後期
- ・選択したテーマに沿って、指導教員から実際の研究指導を受ける。

6 他科目との関連

全ての科目で学んだことを応用するので、全ての科目と関連する。

7 成績評価方法

卒業研究論文と卒業研究発表で評価する。

1) 卒業研究論文

卒業論文と卒業論文抄録を提出する。

形式：別紙（卒業論文フォーム）の規定に従う。

期限までに提出のない者は単位を認定しない。

2) 卒業研究発表

1人につき発表5分、討論2分程度。

Power Pointを使用した口頭発表、あるいはポスター発表を行う。

成人看護学実習Ⅱ

井上 智子
佐々木 吉子

I.目的

成人看護学実習Ⅰでの学習内容を踏まえ、入院患者への夜間帯における看護の実際を学び、指導者とともに実践する。救急・災害時の看護について学習し、看護実践能力を高める。

II.目標

1. 夜勤勤務をする看護師の看護業務や昼夜を知る。24 時間の継続した看護を知るとともに、交替制勤務における自己の健康管理について考察する。
2. 救急・災害時における看護職の役割について学ぶ。

III.実習内容の概略

1. 夜勤実習

- 1) シャドウイングにより夜間における看護実践の実際について学ぶ。
- 2) 実習を通して夜勤における健康管理方法について考察する。

2. 救急・災害看護実習

- 1)救急・災害対応に関連する機関の協力による講義・演習により、救急・災害時の看護の役割について学ぶ。

〔単位〕 必修 1 単位

*詳細については実習要項参照のこと

地域看護学Ⅲ（地域成人老人・母子看護活動論）

Community Health Nursing Ⅲ

佐々木 明 子

1 科目の概要

地域看護学総論で学んだ知識をもとに、地域で生活している人々に対する保健看護活動について学ぶ。特に、成人高齢者と母子を中心に、地域保健システムとヘルスニーズのアセスメント、保健看護活動の展開方法、評価の視点を学ぶ。

2 教育方針・教育目標

- 1) 成人高齢者・母子保健看護活動の目的と基盤になる地域保健システムを理解する。
- 2) 地域における成人高齢者のヘルスニーズに対する保健看護活動の展開方法と評価の視点を学ぶ。
- 3) 地域における女性のライフサイクル別ヘルスニーズに対する保健看護活動の展開方法と評価の視点を学ぶ。
- 4) 地域における乳幼児のヘルスニーズや障害児に対する保健看護活動の展開方法と評価の視点を学ぶ。
- 5) 地域づくり型の保健活動の展開方法を学ぶ。

3 教育内容

回数	日時	内容	担当者
1 2	4/11(月) 3, 4	地域づくり型保健活動の方法と展開	岩永俊博 (ヘルスプロモーション 研究センター)
3 4	4/18(月) 3, 4	母子保健看護活動の目的と保健医療福祉システム 母子保健活動の展開 (妊産婦への保健看護活動)	中板育美 (国立保健医療科学院)
5 6	4/25(月) 3, 4	母子保健活動の展開 (乳幼児健診, 相談, 学級) 母子保健活動の展開 (ハイリスク母子への活動)	中板育美
7 8	5/9(月) 3, 4	感染症保健活動の展開 (結核, 感染症, エイズに対する保健活動の展開)	大谷由佳 (千代田区)
9	5/16(月) 3	子供をとりまくたばこ環境 (喫煙防止活動)	斉藤麗子 (十文字学園女子大学)
10	5/16(月) 4	成人高齢者の保健福祉施策と保健医療福祉システム	新井久美子
11	5/23(月) 3	成人高齢者保健看護活動の展開 (健康診査, 健康相談, 健康教育)	横町里美 (足立保健所)
12	5/23(月) 4	成人高齢者保健看護活動 (介護予防, 高齢者の保健活動)	佐々木明子
13	5/30(月) 3	心身障害児療育と保健指導	根岸恵美子 (練馬区)
14	5/30(月) 4	難病者保健看護活動の展開	木内恵美 (文京保健センター)
15	6/6(月) 3	八丈町における保健活動の展開	妻田敦子 八丈町保健センター
16	6/6(月) 4	災害時・健康危機管理時の保健活動の展開	田沼寮子

[単位] 必修2単位

[場所] 保健衛生学講義室4 (3号館7階)

4 教科書・参考書

教科書（必携）

- 1) 厚生衛生統計協会：国民衛生の動向、2009
- 2) 日本看護協会編：第2版 保健師業務要覧、日本看護協会出版会、2008
- 3) 津村智恵子編著：三訂 地域看護学、中央法規、2008

参考書

- 1) 金川克子編：最新保健学講座 第3巻 地域看護活動論①ライフステージの特性と保健活動、メヂカルフレンド社、2008
- 2) 金川克子編：最新保健学講座 第3巻 地域看護活動論②心身の健康問題と保健活動、メヂカルフレンド社、2008
- 3) 福島道子編：看護系標準教科書 地域看護学Ⅱ（活動の展開）、株式会社オーム社、2007
- 4) 中村由美子他：標準保健師講座2 地域看護技術、医学書院、2008
- 5) 松田正巳他：標準保健師講座3 対象別地域看護活動第2版、医学書院、2008
- 6) 岩永俊博：地域づくり型保健活動のすすめ、医学書院、1995
- 7) 野村陽子編：最新保健学講座 第7巻保健医療行政論第2版、メヂカルフレンド社、2008

5 他科目との関連

地域看護学総論・家族ケア論を基盤としている。また、成人看護学、老人看護学、母性看護学、小児看護学、保健統計学、関連法規、保健医療福祉制度論などの科目の応用を必要とする。

6 受講上の注意

関連の科目を十分復習してのぞむこと。

7 成績評価方法

定期試験，レポート，出席

地域看護学演習（健康教育と地区診断）

Seminar of Community Health Nursing

佐々木 明子

1 科目の概要

地域看護学で学んだ知識を活用し、地域保健看護活動の具体的な手法である地区診断と健康教育について学ぶ。地域特性の把握、地域のヘルスニーズのアセスメント、計画の立案、活動の展開方法、評価に必要な知識と技術を習得する。

2 教育方針・教育目標

- 1) 地域の人々の生活、地域保健システム、地域の社会資源など地域特性について理解する。
- 2) 地区診断の目的と展開方法、評価方法を学ぶ。
- 3) 健康教育の定義と健康教育に必要な理論と技法を理解する。
- 4) 健康教育の企画や実施、評価方法を習得する。

3 教育内容

回数	日時	内容	担当者
1	4/7(木)	わが国の地域保健看護活動、展開の指針	佐々木・田沼
2	3, 4	地区診断の目的、展開方法	
3	4/14(木)	地区診断の展開方法と評価	佐々木・田沼
4	3, 4		
5	4/21(木)	地域看護学実習 I オリエンテーション	佐々木・田沼
6	3, 4	地区診断演習 1	
7	4/28(木)	健康教育の理論と展開方法	綾部明江 (茨城県立医療大学)
8	3, 4		
9	5/12(木)	健康教育演習 1	佐々木 田沼・森田
10	3, 4	新生児訪問演習	
11	5/19(木)	地区診断演習 2	佐々木・田沼
12	3, 4		
13	6/23(木)	地区診断演習 3	佐々木 森田・田沼
14	3, 4	地区診断発表会	
15	6/30(木)	健康教育演習 2	森田・田沼
16	3, 4	健康教育発表会	

[単位] 必修 1 単位

[場所] 保健衛生学講義室 4 (3号館 7階)

4 教科書・参考書

教科書 (必携)

- 1) 津村智恵子編著：地域看護学、中央法規、2008

参考書

- 1) Elizabeth T. Anderson 著：Community As Partner：Theory And Practice in Nursing (Fifth Edition)、Lippincott Williams & Wilkins、2006
- 2) 金川克子訳：コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際 第 2 版、医学書院、2007
- 3) 平野かよ子編：第 5 巻 地域看護管理論、メヂカルフレンド社、2008
- 4) 金川克子：地域看護診断、東京大学出版会
- 5) 宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編：最新 保健学講座 別巻 1 健康教育論、メヂカルフレンド社、2006

6) 日本看護協会編：第2版 保健師業務要覧、日本看護協会出版会、2008

5 他科目との関連

地域看護学で学んだ知識を学生各自が総合的に活用する必要がある。また、この科目は地域看護学実習を行う上で必須の知識と技術を学ぶための科目である。

6 受講上の注意

演習の課題に主体的に取り組み、発表や討議を通して、学習を深めることを期待する。学生の積極的な参加を望む。

7 成績評価方法

定期試験，プレゼンテーション，出席

地域看護学実習

Practice of Community Health Nursing

佐々木 明 子

地域看護学実習 I (地区診断)

1 目的

地域保健活動を行う保健所、保健センターの位置づけ、機能を学ぶ。地域の人々の健康状態や生活状況を理解し、地域看護診断を行う。保健事業について理解し、健康教育の企画方法を学ぶ。

2 教育目標

- 1) 既存の資料の分析と地区踏査からの地域アセスメントを行う。
- 2) 地区診断を行い、その地区の健康課題を把握する。
- 3) 保健所・保健総合センターの主な機能、概要を知る。
- 4) 保健所・保健総合センターの保健師の所属する組織と役割を理解する。
- 5) 健康教育の実施状況を把握する。

3 実習内容・方法等 (前期木曜日, 実習要項参照)

[単位] 必修 1 単位

(詳細については実習要項参照)

地域看護学実習 II (地域保健看護活動の展開)

【保健所・保健センター】

1 実習の概要・目的

地域保健活動の第一線機関である保健所・保健センターの役割と機能を理解する。また、地域保健看護活動の意義と保健師の役割を理解する。地域特性をふまえて健康問題をとらえることの必要性を理解し、家庭や地域社会で生活する人々に対する保健・医療・福祉活動を学ぶ。また、地域保健における看護管理の機能について理解する。

さらに、地域保健看護活動の計画・実践・評価の一連の過程を学習し、地域保健看護活動の展開と方法と専門性を理解する。

2 教育目標

- 1) 地域保健活動の実践機関としての保健所の機能と活動の展開法について理解する。
- 2) 保健所・保健総合センターの保健師の役割を理解する。
- 3) 地域看護学実習 I で行った地域アセスメントをもとに、地域特性を反映した地域保健看護活動の計画・実施・評価の方法を理解する。
- 4) 個人・家族・集団の健康課題に応じた保健看護活動の展開方法と技術を理解する。
- 5) 健康教育の実施の方法を理解する。
- 6) 住民のニーズに応じた関係機関、他職種との連携・チームワークの方法を理解する。
- 7) 地域保健看護活動の今日的動向と法的根拠を理解する。
- 8) 地域保健における看護管理の機能について理解する。

【学校】

1 実習の概要・目的

学校教育における保健活動の目的と保健教育，保健管理および養護教諭の活動について，具体的に学ぶ。

学校保健と地域保健の関係と，看護専門職としての役割について理解を深める。

2 教育目標

1) 学校教育における保健活動の体系と活動の実際について，理解を深める。

2) 養護教諭の活動について，理解を深める。

3) 地域との連携について学ぶ。

【産業】

1 実習の概要・目的

企業における産業保健の取り組みならびに保健師の役割と業務について，具体的に学ぶ。

産業保健と地域保健の連携と，看護専門職としての役割について理解を深める。

2 教育目標

1) 企業における保健活動の体系と活動の実際について，理解を深める。

2) 産業保健師の活動について理解を深める。

3 実習内容・方法等

【保健所・保健センター，学校，産業】

〔単位〕 必修 2 単位 （詳細については実習要綱参照）

緩和ケア看護学

Palliative Care

本田彰子
山崎智子

1. 科目の概要

自宅における終末期療養を中心に、緩和ケア、および在宅ホスピスの理論と実践を学ぶ。

2. 教育方針・教育目標

- 1)在宅ホスピスを中心に、終末期にある人々と家族の特徴を理解し、QOLの向上を目指した看護についてその理論と実際を理解する。
- 2)要介護高齢者、難病患者、およびがん患者における自宅での症状コントロールや療養の体制作りについて理解し、見取りおよびその後の療養者家族に対する看護を理解する。
- 3)緩和ケアやチーム医療について理解し、在宅ホスピスにおける医学的管理の実際について理解する。
- 4)終末期特有の症状コントロールについて理解し、在宅ホスピスにおける看護師の役割や療養者家族に対する支援の実際を理解する。

3. 教育内容

回	日時	時限	内容	担当教員
1	4月8日	Ⅲ	緩和ケア看護学概論	山崎智子
2		Ⅳ		
3	4月15日	Ⅲ	在宅ホスピスー訪問看護の実際ー	蛭田みどり ケタケン小平訪問看護ステーション
4		Ⅳ		
5	4月22日	Ⅲ	在宅ホスピスにおける医学的管理	平原佐斗司 梶原診療所
6		Ⅳ		
7	5月13日	Ⅲ	終末期在宅療養と自宅での看取り	本田彰子
8		Ⅳ		

〔単位〕 選択 1 単位

〔場所〕 保健衛生学講義室 1 (3号館 18階)

4. 教科書・参考書

講義の際必要な文献および参考書を提示する。

5. 他の科目との関連

母性看護・小児看護・成人看護・老人看護の発達段階別看護領域全てに関連する。3年次までの講義および実習で体験した終末期看護の内容を統合させて学習する。

6. 受講上の注意

レポート作成につながるよう、受講前より緩和ケア、終末期ケア等に関連する文献1編以上を検索し、授業の参考にすること。

7. 成績評価方法

出席、およびレポート

看護の統合と実践Ⅱ

Integration of acquaintances for nursing practice Ⅱ

深堀 浩樹

1. 科目の概要

- 1) 医療が持つ基本的な構造的問題を理解したうえで、日本の医療保険制度や診療報酬体系、およびそれらと看護との関連について学ぶ。
- 2) 看護を提供する上で必要となる看護管理の基本的知識について学ぶとともに、看護職として生涯学習をしていくための素養を養う。

2. 教育方針・教育目標

- 1) 医療問題を考える上での基礎的な知識を習得する。
- 2) 医療問題に関する報道・情報を理解し、自分の考えを組み立てることができる。
- 3) 看護職としての視点から医療問題に関心を持つことができる。
- 4) 看護管理に関する基本的知識および実際について学ぶ。
- 5) 看護政策の立案過程や生涯学習のあり方など看護職として社会で働いていく上で重要となる知識を学ぶ。

【共通部分】

3 教育内容

回	日時	内容	担当者
1	4/11(月) 5限	オリエンテーション	深堀
2	4/18(月) 5限	日本の医療制度	深堀
3	4/25(月) 5限	日本の医療制度	深堀
4	5/9(月) 5限	看護における医療経済評価	小林美亜 (国立病院機構 本部 総合研究センター 診療情報分析部)
5	5/16(月) 5限	財政と医療：経済学の視点	佐藤主光 (一橋大学大学院)
6	5/23(月) 5限	医療と経営：DPCを中心に	森山葉子 (東京大学大学院)
7	5/30(月) 5限	看護管理学 (1)	深堀
8	6/6(月) 5限	看護管理学 (2)	深堀
9	6/13(月) 5限	看護管理学 (3)	深堀
10, 11	6/20(月) 4, 5限	看護師のキャリア、看護職の起業	井出恵伊子 (山田ビジネスコンサルティング株式会社) 川添高志 (株式会社ケアプロ)
12, 13	6/27(月) 4, 5限	看護管理学 (4)、医療安全	深堀
14, 15	7/4(月) 4, 5限	医療安全管理および看護管理の実際	角田由美子 (附属病院安全管理対策室)・ 小牟田智子 (附属病院看護部長)

*日時・内容は変更する場合がありますので、掲示に注意。

[単位] 必修2単位 [場所] 3号館7階 保健衛生学講義室4

4 教科書・参考書

授業資料の作成に用いた書籍・資料はその都度、提示するので、関心があれば購入すること

5 他科目との関連

看護の統合と実践実習および保健医療福祉制度論との関連が深い。

6 成績評価方法

レポート・出席にて評価する(レポート課題は講義最終日までに掲示する)。

看護の統合と実践実習

丸 光 恵
深 堀 浩 樹

I.目的

臨床現場における看護管理者の役割や必要とされる能力および、外来や検査部門における看護職の役割・多職種との協働について理解する。また、医療安全の確保のために看護職が果たすべき役割について理解する。

上記を通じて病院機能全体における看護職の果たす役割を理解すると共に、臨床実践の中で必要な基礎的な知識と技術を統合的に体験し、看護実践能力を高める。

II.目標

1. 看護管理者（看護師長・リーダー）が行っている実際のマネジメント、調整・相談等の場面を知り、看護管理者の役割や必要な能力について理解する。
2. 外来や中央検査部門における看護師の看護実践の実際や必要とされる能力、および多職種との連携について学ぶ。
3. 医療安全の確保のための看護師の役割について学ぶ。
4. 様々な場面・時間帯での看護の役割を学ぶことにより病院機能全体における看護職の果たす役割についての理解を深める。

III.実習内容の概略

1. 看護管理実習

- 1) オリエンテーションにより病棟の看護業務の特徴について理解する
- 2) 看護師長・リーダーの業務をシャドウイングする。
- 3) 看護師長・リーダーからのヒアリングや病棟の各種資料により病棟の方針・目標、人員配置の状況、課題、年間計画等を把握する。

2. 検査部門・専門外来実習

- 1) 見学・シャドウイングにより外来における看護実践の実際について学ぶ。
- 2) 中央検査部門等に関する講義・演習により看護師の役割について学ぶ。

3.医療安全実習

- 1) 医療安全に関する講義・演習により医療安全確保のための看護師の役割について学ぶ

4. 学内実習

- 1) 看護の統合と実践実習に関連したテーマについてディスカッションを行う。

〔単位〕 2 単位

*詳細については実習要項参照のこと

學生周知事項

学生周知事項

1 連絡・通知

学生への全ての告示、通知、連絡(試験関係、休講、講義室変更、奨学金関係、健康診断、授業料の納付、呼び出し等)は、掲示により行いますので、見落としがないよう十分注意して下さい。(医歯学総合研究棟2階ラウンジ横)

掲示板には、逐次、新しい掲示をするのでたえず注意し、1日に一回は掲示を見て、不利益を被らないよう心がけて下さい。

なお、BlackBoard、メール等により連絡を行う場合もありますが、あくまでも2階の掲示板が正式なものです。

2 電話等による学生の呼び出し等

電話等による学生の呼び出しは、緊急かつ重大な場合を除いて一切行わないので、各関係者に説明しておいて下さい。

3 学生証

学生証は、本学の学生である旨を証明するものです。

入学時に交付したものを**4年間使用**しますので、紛失・破損等のないよう大切に取扱って下さい。

また、定期試験受験時、通学定期券の購入時等に提示を求められたときに提示できるよう、常に携帯するようにして下さい。

(1) 再交付

学生証を紛失又は破損等した場合は、速やかに学務企画課(1号館1階)に申し出て、再交付の手続きをとって下さい。

再交付には費用がかかりますので注意してください。また再交付まで約1ヶ月近くかかります。

(2) 返却

卒業、退学、除籍、又は有効期間が経過した場合は、速やかに学生証を学務企画課に返却して下さい。なお、返却できない場合は費用を負担することになります。

4 証明書等

証明書等は、教務課にて発行するものと、自動発行機にて発行するものがあります。

(1) 教務課(受付時間:8:30~17:15)

次に掲げるものは、教務課で発行しますので証明書交付願を提出して下さい。

(交付は、原則として、提出のあった日の翌日の午後となります。)

①成績証明書

②調査書

③英文の在学証明書(交付に1週間程度要します。)

④通学証明書(交通機関から請求された場合に限る。)

バス及び鉄道の通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅又は大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入して下さい。

⑤実習用定期

卒業研究等により本学以外の地に通学する場合は、実習用定期の発行が可能な為、必要が生じた者は、教務課に申し出てください。

なお、鉄道会社の許可を受けるまでに**1ヶ月程度要します**ので留意してください。(例:4月から必要な場合は、2月中旬に手続きをとること。)

※その他:上記以外の証明書等については、個々に教務課に相談して下さい。

(2) **自動発行機(利用時間:月～金 8:30～21:00)**

在学証明書・卒業見込み証明書(第4学年在籍者)は、学生談話室(5号館3階)に設置されている[自動発行機]にて発行します。

(問い合わせ先)学務企画課企画調査掛(内線5074)

5 学生旅客運賃割引証(学割証)

(1) 学生が課外活動又は帰省などでJR線を利用する場合、乗車区間が片道100kmを超えるときに旅客運賃の割引(2割)を受けることができます。

この制度は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とするものなので、計画的に使用すること。(年間使用限度:10枚/人)

(2) 次に掲げる行為があったときは、普通運賃の2倍の追徴金を取られるばかりでなく、本学の全学生に対する学割証の発行が停止されることがありますので、乱用又は不正に使用することのないよう注意して下さい。

①他人名義の学割証を使って乗車券を購入したとき

②名義人が乗車券を購入し、これを他人に使用させたとき

③使用有効期間を経過したものを使用したとき

(3) 学割証は、学生談話室(5号館3階)に設置されている「自動発行機」にて発行します。

(利用時間:8:30～21:00)

(問い合わせ先)学生支援課学生支援総括掛(内線5077)

6 住所・氏名等の変更

本人又は保証人の住所・本籍又は氏名等(電話番号を含む。)に変更が生じた場合は、速やかに教務課に申し出て所定の手続きをとって下さい。

この手続きを怠った場合、大学から本人又は保証人に緊急に連絡する必要性が生じても連絡が取れないので注意して下さい。

7 休学, 復学, 退学, 欠席

(1) 休学

病気その他の事由により、引き続き3ヶ月以上休学する場合又は休学期間を延長する場合は、「休学願」を教務課に提出し、学長の許可を受けて下さい。(病気の場合は、医師の診断書を添付して下さい。)

また、休学期間を延長する場合についても、休学する場合と同様に「休学期間延長願」により学長の許可が必要となります。

なお、休学(延長を含む。)するにあたっては、事前に「**学年担当教員**」又は「**グループ担当教員**」と面談し、**休学事由及び休学によって生じる修学上の諸問題等**について十分相談して下さい。

また、休学を許可される期間は、**在学期間内通算して2年を超えることができません。**(特別の事情があると学長が認めたときは、更に1年以内の休学を許可することがありますので、事前に教務課に相談してください。)

(2) 復学

休学している学生が、休学許可期間の途中又は満了時に復学を希望する場合は、復学願(保証人連署)を教務課に提出し、学長の許可を受けて下さい。(病気を事由に休学した場合は、医師の診断書を添付して下さい。)

(3) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、退学願(保証人連署)を教務課に提出し、学長の許可を受けて下さい。

なお、退学するにあたっては、事前に学年担当教員、グループ担当教員と面談し、退学事由等について十分相談して下さい。

(4) 授業の欠席

病気その他特別な事情により授業を欠席する(した)場合は、欠席届を教務課に提出して下さい。(病気の場合は、診断書を添付して下さい。)

8 ロッカーの貸与

各人にロッカー(学部在籍中は、同じロッカーを使用)を貸与します。

私物は講義室等に置かず、全てロッカーに保管して下さい。

教室及びロッカー室内での盗難が多発しているため、貴重品等の管理は厳重にして下さい。

また、各人の責による備品等の破損については、各人の負担により現状に復して下さい。

9 授業中(大学行事、課外授業を含む。)の本人及び賠償責任が伴う事故等

入学時に加入した「学校教育災害傷害保険」(学研災)及び「医学生教育研究賠償責任保険」(医学賠)の対象となります。

(詳細は「学生生活の手引」参照)

なお、**針刺し事故(B型・C型肝炎)**が起こった場合は、職員課職員掛(1号館西1階:内線5020)へ連絡のうえ指示を受けた後、教務課に事故報告書を提出して下さい。

ただし、他人に対する針刺し事故については上記の「医学賠」保険の対象となります。

10 遺失物及び拾得物

学内での遺失物又は拾得物の届出は以下のとおりとなります。

(1) 講義室、実習室、ロッカー室内……学務部教務課(1号館西1階:内線5119)

(2) 上記(1)以外……医学部総務課(医科新棟A棟1階:内線5096)

11 その他

(1) クラブ、サークル等宛の郵便物等は、学生支援課の窓口で保管していますので、責任者は適宜確認して下さい。なお、個人宛の郵便物等は、特別の場合を除き大学に配達されることがないようお願いします。

(2) 事務上の窓口

① 教務事務……学務部教務課保健衛生教務掛(1号館西1階:内線5119)

② 授業料の納入……財務部資金課収入管理掛(1号館西3階:内線5042)

③ 奨学金・授業料免除……学務部学生支援課(1号館西1階:内線5077)

④ 針刺し事故……職員課職員掛(1号館西1階:内線5020)

諸 様 式

- 1 **証明書交付願**（自動発行機にて発行しているものを除く。）
証明書は、原則として請求日の翌日の午後以降発行する。（英文によるものを除く。）
- 2 **住所・本籍地変更届**
- 3 **改姓届（戸籍抄本添付）**
- 4 **保証人変更届**
- 5 **学生証紛失届・再交付願**
- 6 **紛失届**
講義室, 実習室, ロッカー室内での紛失物に関する届出
- 7 **授業欠席届**（病気の場合は「診断書」, 忌引きの場合は「会葬状」添付）
病気その他特別な事情により授業を欠席する場合に提出
- 8 **再試験申請書**（未提出者は、権利を喪失するので必ず提出すること。）
定期試験不合格者は、再試験実施日の7日前までに教務課に提出
- 9 **再試験欠席届**
病気その他特別な事情により再試験を欠席した場合に提出
- 10 **追試験申請書**（未提出者は、権利を喪失するので必ず提出すること。）
病気, その他やむを得ない理由により定期試験を欠席したものは、当該定期試験終了後5日以内に教務課に提出
- 11 **休学願**
グループ担当教官又は学年担当教官の面談後, 専攻主任の面談(押印)を受けてから提出
(緊急時等で専攻主任が不在の場合は、教育委員長の面談で可)
- 12 **休学期間延長願**
グループ担当教官又は学年担当教官の面談後, 専攻主任の面談(押印)を受けてから提出
(緊急時等で専攻主任が不在の場合は、教育委員長の面談で可)
- 13 **復学願**
グループ担当教官又は学年担当教官の面談後, 専攻主任の面談(押印)を受けてから提出
(緊急時等で専攻主任が不在の場合は、教育委員長の面談で可)
- 14 **退学願**
グループ担当教官又は学年担当教官の面談後, 専攻主任の面談(押印)を受けてから提出
(緊急時等で専攻主任が不在の場合は、教育委員長の面談で可)
- 15 **聴講願**
単位を取得する事は出来ないが、もう1度受講したいと思う科目がある際に提出

医学部長	事務部長	次長	課長	課長補佐	掛長	掛員
専	専	専				

証明書交付願

平成 年 月 日

医学部長 殿

- 医学部医学科 第 学年
 医学部保健衛生学科 第 学年
 (学専攻)
 医学部医学科専攻生 (講座)
 医学部保健衛生学科専攻生
 (学専攻)

学籍番号 □□□□□□

氏名 _____
(Name)

生年月日 昭和・平成 年 月 日生
(Date of Birth)

下記より証明書(和文・英文)の交付をお願いいたします。
(If you need English writing certificate, please feel free to ask the Educational Affairs Section.)

記

証明書の種類	枚数	※証明書番号	請求理由及び提出先
1. 成績証明書			(請求理由)
2. 卒業見込証明書 (M6・N4・M14のみ発行)			
3. 在学証明書 (英文及び専攻生のみ)			(提出先)
4. 在学期間証明 (専攻生のみ)			
5. 終了証明書 (専攻生のみ)			
6.			
7.			(備考)

- 注) 1. 「※証明書番号」欄は記入しないこと。
 2. 英文証明書を依頼する場合は、氏名欄にローマ字表記を合わせて記入すること。

医学部長	事務部長	次長	課長	課長補佐	掛長	掛員
専	専	専				

住所・本籍地変更届

平成 年 月 日

東京医科歯科大学医学部長 殿

- 医学部医学科 第 学年
 医学部保健衛生学科 第 学年
 (学専攻)
 医学部医学科専攻生 (講座)
 医学部保健衛生学科専攻生
 (学専攻)

学籍番号 □□□□□□

氏名 _____

このたび、下記のとおり変更しましたのでお届けいたします。

記

変更者	<input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 保証人
住所	〒 □□□ - □□□□ TEL. _____
本籍地	

注) 変更該当個所の□をチェックしてください

教務システム	債権変更	学籍簿	台帳	名簿

医学部長	事務部長	次長	課長	課長補佐	掛長	掛員
専	専	専				

改姓届

平成 年 月 日

東京医科歯科大学医学部長 殿

- 医学部医学科 第 学年
 医学部保健衛生学科 第 学年
 (学専攻)
 医学部医学科専攻生 (講座)
 医学部保健衛生学科専攻生
 (学専攻)

学籍番号 □□□□□□

氏名 _____

このたび、下記のとおり改姓しましたのでお届けいたします。

記

(旧姓)	_____	(新姓)	_____
旧姓		新姓	
(改姓理由)			

注) 戸籍抄本又は謄本を添付すること。

教務システム	債権変更	学籍簿	台帳	名簿

医学部長	事務部長	次長	課長	課長補佐	掛長	掛員
専	専	専				

保証人変更届

平成 年 月 日

東京医科歯科大学医学部長 殿

- 医学部医学科 第 学年
 医学部保健衛生学科 第 学年
 (学専攻)
 医学部医学科専攻生 (講座)
 医学部保健衛生学科専攻生
 (学専攻)

学籍番号 □□□□□□

氏名 _____ 印

このたび、下記のとおり保証人(正・副)を変更しましたのでお届けいたします。

記

(旧姓)	_____	学生との関係	
氏名		職 業	
	年 月 日生	本 籍 地	
住所	〒 □□□ - □□□□ TEL. _____		

注) 氏名欄に押印してください。

債権変更	学籍簿

平成 年 月 日

保証人（住所）変更届出

経理責任者
国立大学法人 東京医科歯科大学財務部長 殿

平成 年度入学 第 学年

学部 学 科
研究科 専攻名

学籍番号 第 号
氏 名 印

連帯保証人（父母等）住所に変更がありましたのでお届けします。

変更前	
変更後	〒 _____ In () _____

連帯保証人を変更しましたのでお届けします。

変更前	
変更後	上記の者の授業料債務について本人と連帯して、履行の責を負うことを保証します。 連帯保証人 フリガナ _____ 印 氏 名 _____ (学生との関係: _____) 住 所 〒 _____ In () _____

(該当する項目の口に、Vしてください。)

医学部長	事務部長	次 長	課 長	課長補佐	掛 長	掛 員
専	専	専				

学生証紛失届・再交付願

平成 年 月 日

東京医科歯科大学 長

医学部医学科 第 学年
 医学部保健衛生学科 第 学年
(学専攻)
 医学部医学科専攻生 (講座)
 医学部保健衛生学科専攻生 (学専攻)

学籍番号 □□□□□□□□

氏 名 _____

生年月日 昭和・平成 年 月 日生

下記のとおり、学生証を紛失いたしましたので再交付方よろしくお願いたします。
今後は、取り扱いに十分注意いたします。
なお、紛失した学生証を発見したときは、直ちに返納いたします。

記

1. 日 時 : 平成 年 月 日 時 分頃

2. 場 所 : _____

3. 紛失したときの状況 (具体的に記入すること。)

※ 過去の学生証発行状況 (事務記入欄)

再交付1回目 : 平成 年 月 日
再交付2回目 : 平成 年 月 日
再交付3回目 : 平成 年 月 日

注) 専攻生は、写真 (3×4cm) 1枚を添付すること。

医学部長	事務部長	次 長	課 長	課長補佐	掛 長	掛 員
専	専	専				

紛 失 届

平成 年 月 日

医 学 部 長 殿

医学部医学科 第 学年
 医学部保健衛生学科 第 学年
(学専攻)

学籍番号 □□□□□□□□

氏 名 _____

下記のとおり、紛失しましたのでお届けいたします。

記

1. 紛失日時 : 平成 年 月 日 時 分頃

2. 紛失場所 :

3. 紛失物 :

4. 連絡先 :

医学部長	事務部長	次 長	課 長	課長補佐	掛 長	掛 員
専	専	専				

授 業 欠 席 届

平成 年 月 日

医 学 部 長 殿

医学部医学科 第 学年
 医学部保健衛生学科 第 学年
(学専攻)

学籍番号 □□□□□□□□

氏 名 _____

下記のとおり、授業を _____ 欠席しましたのでお届けいたします。

記

1. 欠席期間 自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日

2. 欠席理由 (病気による場合は、医師の診断書を添付すること。)

医学部長	事務部長	次長	課長	課長補佐	掛長	掛員
専	専	専				

再試験申請書

平成 年 月 日

医学部長 殿

- 医学部医学科 第 学年
- 医学部保健衛生学科 第 学年
(学専攻)

学籍番号 □□□□□□□□

氏 名 _____

下記科目について、再試験の申請をしますのでよろしくお願いいたします。

記

申請科目名	担当教官名	申請科目名	担当教官名
1.		6.	
2.		7.	
3.		8.	
4.		9.	
5.		10.	

医学部長	事務部長	次長	課長	課長補佐	掛長	掛員
専	専	専				

再試験欠席届

平成 年 月 日

医学部長 殿

- 医学部医学科 第 学年
- 医学部保健衛生学科 第 学年
(学専攻)

学籍番号 □□□□□□□□

氏 名 _____

下記のとおり再試験を欠席しましたのでお届けいたします。

記

1. 試験科目名 : _____ (教官名 : _____)

平成 年 月 日施行

2. 欠席理由 (病気による場合は、医師の診断書を添付すること。)

医学部長	事務部長	次長	課長	課長補佐	掛長	掛員
専	専	専				

追試験申請書

平成 年 月 日

医学部長 殿

- 医学部医学科 第 学年
- 医学部保健衛生学科 第 学年
(学専攻)

学籍番号 □□□□□□□□

氏 名 _____

下記のとおり定期試験を欠席しましたので、追試験を施行していただきますようお願いいたします。

記

1. 試験科目名 : _____ (教官名 : _____)

平成 年 月 日施行

2. 欠席理由 (病気による場合は、医師の診断書を添付すること。)

休学願

平成 年 月 日

東京医科歯科大学長 殿

教授認印
□□□□□□□□

医学部 (科 第 学年
学専攻)

学籍番号 □□□□□□□□

(7/14)

本人氏名 _____ 印

保証人氏名 _____ 印

下記のとおり休学したいので、ご許可くださいますようお願いいたします。

記

1. 休学理由

2. 休学期間 自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日 (ヶ月)

3. 休学中の連絡先

本人	〒 □□□ - □□□□ TEL. _____
保証人	〒 □□□ - □□□□ TEL. _____

注) 1. 休学理由は、できるだけ具体的に記入してください。

2. 休学理由が、病気を理由とする場合は、医師の診断書を添付してください。

経理課出納掛照合欄	
前期授業料	後期授業料

休学期間延長願

平成 年 月 日

東京医科歯科大学長 殿

教授認印

医学部 (科 第 学年
学専攻)

学籍番号

(フリガナ)
本人氏名 _____ 印

保証人氏名 _____ 印

下記のとおり休学期間を延長したいので、ご許可くださいますようお願いいたします。

記

1. 休学期間延長理由

2. 休学延長期間
平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日までのところ
平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日まで延長 (ヶ月)

3. 休学中の連絡先

本人	〒 <input type="text"/> - <input type="text"/>	TEL. _____
保証人	〒 <input type="text"/> - <input type="text"/>	TEL. _____

注) 1. 休学理由は、できるだけ具体的に記入してください。

2. 休学理由が、病気を理由とする場合は、医師の診断書を添付してください。

経理課出納掛照合欄	
前期授業料	後期授業料

復 学 願

平成 年 月 日

東京医科歯科大学長 殿

教授認印

医学部 (科 第 学年
学専攻)

学籍番号

(フリガナ)
本人氏名 _____ 印

保証人氏名 _____ 印

下記のとおり休学していましたが、平成 年 月 日付けで復学したいので、ご許可くださいますようお願いいたします。

記

1. 休学理由

2. 休学許可期間
自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日

注) 病気を理由として休学した場合は、医師の診断書を添付してください。

退 学 願

平成 年 月 日

東京医科歯科大学長 殿

教授認印

医学部 (科 第 学年
学専攻)

医学部 (昭和・平成) 科 専攻生
() 年 月 入学
(学専攻)

学籍番号

(フリガナ)
本人氏名 _____ 印

保証人氏名 _____ 印

下記のとおり退学したいので、ご許可くださいますようお願いいたします。

記

1. 退学理由

2. 退学日 平成 年 月 日付け

注) 退学理由は、できるだけ具体的に記入してください。

経理課出納掛照合欄	
前期授業料	後期授業料

聴講届《平成 年度 前期・後期》

(医歯薬衛生学科学学生用)

専攻名	看護学専攻 検査技術学専攻	年 年	学籍番号	※ 聴講する理由：・自己の学力向上のため・再聴講・再試準備のため・その他(理由)						
				氏名	氏名	氏名	氏名	氏名		
時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限					
専門	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50					
月	印	印	印	印	印					
火	印	印	印	印	印					
水	印	印	印	印	印					
木	印	印	印	印	印					
金	印	印	印	印	印					

※ 上段に「授業科目名」を、下段に「担当教員名」を記入して提出すること。

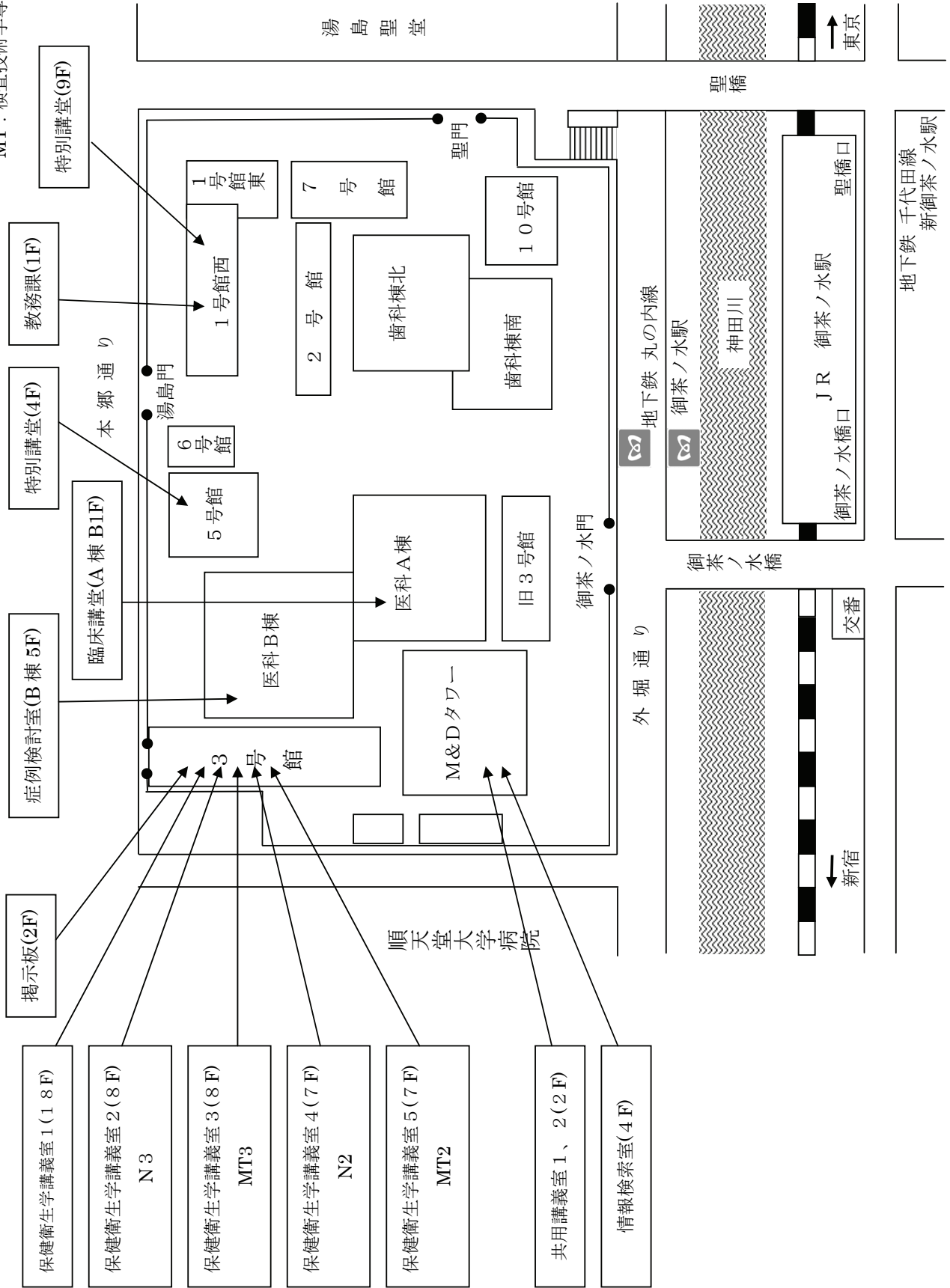
※ 下段「担当教員名」欄には、必ず聴講科目担当教員の印をもらうこと。印なきものは無効とする。

※ 必修科目のうち、不合格科目(要再履修)以外の科目について適用する。

講義室一覽

○医学部保健衛生学科講義室等一覽

N : 看護学専攻
 MT : 検査技術学専攻



参 考

東京医科歯科大学学則

〔平成16年4月1日〕
規程第4号

第1章 総則

第1条 本学は、医学及び歯学の理論並びに応用を教授研究し、併せて人格の陶冶をなすものである。

2 各学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、当該学科において別に定める。

第2条 本学に、国立大学法人東京医科歯科大学組織運営規程（平成16年規程第1号。以下「組織運営規程」という。）の定めるところにより、次の学部及び学科を置く。

医 学 部 医学科
保健衛生学科

歯 学 部 歯学科
口腔保健学科

2 医学部保健衛生学科に、看護学専攻及び検査技術学専攻を置く。

3 歯学部口腔保健学科に、口腔保健衛生学専攻及び口腔保健工学専攻を置く。

4 本学に、組織運営規程の定めるところにより、教養部を置く。

第3条 医学部医学科及び歯学部歯学科の修業年限は6年、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の修業年限は4年とする。

第4条 学生の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学科・専攻	入学定員	3 年 次 編入学定員	収容定員
医 学 部	医 学 科	100	5	620
	保健衛生学科			
	看護学専攻	55		220
	検査技術学専攻	35		140
歯 学 部	歯 学 科	53		318
	口腔保健学科			
	口腔保健衛生学専攻	22	6	100
	口腔保健工学専攻	10	5（2年次編入）	55

第2章 授業科目

第5条 削除

第6条 本学の授業科目は、全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に

関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

- 2 全学共通科目は教養部において、専門科目は各学部において行う。
- 3 全学共通科目の開設授業科目及び単位数は、別に定める。
- 4 専門科目の開設授業科目及び単位数は、別に定める。

第3章 学年、学期及び休業日

第7条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第8条 学年を分けて、次の学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

第9条 授業を行わない日（以下「休業日」という。）は次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (3) 本学創立記念日 10月12日
- (4) 春季休業 4月1日から4月7日まで
- (5) 夏季休業 7月11日から9月10日まで
- (6) 冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで

2 前項の規定にかかわらず学長が必要と認めるときは、休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

第4章 入学、休学、転学及び退学

第10条 入学は、学年の始めにおいてする。

第11条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (7) 相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると、本学で認めた者

第12条 大学医学部医学科の卒業生で歯学部歯学科に、大学歯学部歯学科の卒業生で医学部医学科に編入学を希望する者があるときは、欠員がある場合に限り、選考の上、相当の学年に入学の許可をすることがある。

第13条 大学医学部医学科の学生で医学部医学科に、大学歯学部歯学科の学生で歯学部歯学科に、大学（短期大学並びに外国の大学及び短期大学を含む。）の学生で医学部保健衛生学科又は歯学部口腔保健学科に転入学を希望する者があるときは、欠員がある場合に限り、選考の上、相当の

学年に入学を許可することがある。

第14条 医学部医学科の3年次に編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。

- (1) 大学を卒業した者（医学を履修する課程を卒業した者を除く。）
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者（学校教育における15年の課程を修了し、学士の学位に相当する学位を取得したと大学において認めた者を含む。）

第15条 削除

第16条 医学部保健衛生学科の2年次に編入学することができる者は、四大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修しており、かつ、協定大学の学部で2年次以上在学した者で、選考の上、入学を許可する。

第17条 削除

第18条 歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の3年次に編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。

- (1) 高等専門学校又は短期大学を卒業した者
- (2) 修業年限4年以上の大学の学部で2年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (3) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

第18条の2 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻の2年次に編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。

- (1) 高等専門学校又は短期大学を卒業した者
- (2) 修業年限4年以上の大学の学部で1年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (3) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

第19条 本学学生で退学した者が再び入学を請うときは、欠員がある場合に限り、選考の上、原学年以下に入学を許可することがある。

2 前項に規定するもののほか、第25条の規定による休学者が退学（休学期間満了のため学部を退学した者をいう。）し、本学医学部医学科又は歯学部歯学科に再び入学を志願するときは、原学科の原学年以上に入学を許可する。ただし、懲戒事由等に相当する事由があると認められる志願者の入学については、選考の上許可するものとする。

3 前2項に規定するもののほか、第31条の2の規定による退学者が本学医学部医学科又は歯学部歯学科に再び入学を志願するときは、退学時の在籍学科の在籍学年以上に入学を許可する。ただし、懲戒事由等に相当する事由があると認められる志願者の入学については、選考の上許可するものとする。

第20条 編入学、転入学及び再入学により入学し、その後所定の年限在学した者は、第3条に規定する年限を在学したものとみなす。

第21条 本学に入学を志願する者は、所定の手続により、願い出なければならない。

第22条 入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

第23条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、定められた期日までに宣誓簿に署名し、誓約書その他所定の書類を提出するとともに、入学料を納付するものとする。ただし、第45条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請し受理された者にあつては、当該免除又は徴収猶予を許可し又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。

2 学長は、前項の手続を完了した者に入学を許可する。

第24条 学生は、病気その他の事由により引き続き3月以上休学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第25条 本学医学部医学科又は歯学部歯学科に4年以上在学した者が引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に在学するために休学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第26条 前2条の規定による休学者で、休学期間中にその事由が消滅したときは、所定の手続きにより、復学の許可を学長に願い出ることができる。

第27条 休学期間は、通算して2年を超えることはできない。ただし、特別の事由があるときは、さらに1年以内の休学を許可することがある。

2 大学院医歯学総合研究科博士課程に在学する者の第24条の規定による休学期間及び第25条の規定による休学期間は、第1項の規定にかかわらず、通算して3年を超えることができない。ただし、特別の事由があるときは、さらに1年以内の休学を許可することができる。

3 休学した期間は、修業年限及び在学年限に算入しない。

第28条 学長は、学生が病気その他の事由により修学が不相当と認められるときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、休学を命ずることがある。

第29条 学生は、学長の許可なくして、他の大学、本学の他の学科又は専攻に入学を志願することはできない。

第30条 学生が転学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けるものとする。

2 前項の許可を与えたときは、退学とする。

第31条 学生が病気その他の事由で退学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出てその許可を受けるものとする。

第31条の2 四大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修している者が協定大学に編入学するために退学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第32条 医学部医学科及び歯学部歯学科の学生は10年を、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の学生は8年を超えて在学することができない。

2 編入学、転入学及び再入学により入学した者の在学年限は、各学部において定める。

第33条 学長は、学生が次の各号の一に該当するときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を

履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。)を経て、退学を命ずることがある。

- (1) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (2) その他病気等の事由により、成業の見込みがないと認められる者

第5章 履修方法及び単位等

第34条 学生が授業科目を履修し、試験に合格したときは、所定の単位を与える。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を評価して試験によらずに単位を与えることができる。

第35条 前条に定める他、履修及び学習の評価方法については、各学部及び教養部において定める。

第36条 1単位の授業科目を、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、1単位当たりの授業時間を次の基準により、各学部及び教養部において定める。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の範囲
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の範囲

第37条 本学の教育上有益と認めるときは、本学に入学（編入学、転入学等を除く。）する前の大学（短期大学並びに外国の大学及び短期大学を含む。）において修得した単位を合計30単位を限度として、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。ただし、第3条に定める修業年限を短縮することはできない。

2 前項に係る手続き等については、各学部及び教養部において定める。

第38条 本学の教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学において履修した従業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項に係る手続き等については、各学部及び教養部において定める。

第6章 卒業及び学位

第39条 卒業の認定は、第3条に定める年限を在学し、かつ、第6条第3項に定める授業科目を、医学部医学科においては209単位以上、歯学部歯学科においては220単位以上、医学部保健衛生学科看護学専攻においては124単位以上、医学部保健衛生学科検査技術学専攻においては135単位以上、歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻においては128単位以上、歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻においては126単位以上を修得した者に対し、当該学部教授会の議を経て学長が行う。

第40条 前条による卒業者には、次の区分により学士の学位を授与する。

学 部	学 科 ・ 専 攻	学 位
医 学 部	医学科 保健衛生学科	学士（医 学）

歯学部	看護学専攻	学士（看護学）
	検査技術学専攻	学士（保健学）
	歯学科	学士（歯学）
	口腔保健学科	学士（口腔保健学）

第7章 検定料、入学料及び授業料

第41条 授業料、入学料及び検定料の額については、別に定める。

第42条 入学志願者は、出願と同時に検定料を納付しなければならない。

第43条 授業料は、次の2期に分けて納付しなければならない。

前期 4月中
後期 10月中

- 2 前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。
- 3 入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、第1項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。
- 4 第1項の授業料納入の告知・督促は、所定の場所（医学部掲示板・歯学部掲示板・教養部掲示板）に掲示するものとする。

第44条 既納料金は、如何なる理由があっても返還しない。

- 2 第42条の規定に基づき徴収した検定料について、第1段階目の選抜で不合格となった者から返還の申出があったときは、前項の規定にかかわらず、第2段階目の選抜に係る額に相当する額を返還する。
- 3 前条第3項の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合には、第1項の規定にかかわらず、納付した者の申出により当該授業料に相当する額を返還する。
- 4 前条第2項及び第3項の規定に基づき授業料を納付した者が、後期分授業料の徴収時期以前に休学又は退学した場合には、第1項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を返還する。

第45条 本学に入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる者及び当該者に準ずる者であって、学長が相当と認める事由がある者については、本人の申請により、入学料の全額又は半額を免除することがある。

- 2 本学に入学する者であって、経済的理由によって納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、入学前1年以内において学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる者及びその他やむを得ない事情があると認められる者については、本人の申請により、入学料の徴収猶予をすることがある。
- 3 入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかつた者又は半額免除を許可された者のう

ち、前項該当する者は、免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に徴収猶予の申請をすることができる。

4 前3項の取扱いについては、別に定める。

第46条 停学に処せられた者の授業料は徴収するものとする。

第47条 行方不明、その他やむを得ない事情がある者の授業料は本人又は保証人の申請により徴収を猶予することができる。

第48条 死亡又は行方不明のため除籍され、或は授業料の未納を理由として退学を命ぜられた者の未納の授業料は全額を免除することができる。

第49条 毎学期開始前に休学の許可を受けた者及び休学中に休学延期の許可を受けた者の休学中の授業料は免除する。ただし、各学期の途中で休学の許可を受けた者の授業料は、月割計算により休学当月の翌月から復学当月の前月までに相当する額を免除する。

2 各学期の途中で復学する者のその期の授業料は、復学当月から次の授業料徴収期の前月まで月割計算により復学の際徴収する。

第50条 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者及び学生又は学生の学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難と認められる者については、本人の申請により授業料の全額若しくはその一部を免除又は徴収猶予することができる。

2 前項の取扱いについては別に定める。

第51条 入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかった者又は半額免除を許可された者が、納付すべき入学料を免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に納付しない場合は、除籍する。ただし、第45条第3項の規定により徴収猶予の申請をした者を除く。

2 入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可されなかつた者が、納付すべき入学料を徴収猶予不許可を告知した日から起算して14日以内に納付しない場合は、除籍する。

3 入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可された者が、納付期限までに入学料を納付しない場合は、除籍する。

第52条 授業料を所定の期間内に納付しない者で、督促を受け、なおかつ怠る者は退学を命ずる。

2 前項の督促は文書をもってするものとする。

第8章 大学院

第53条 本学に、組織運営規程の定めるところにより、大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

第9章 外国人留学生

第54条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生については、別に定める。

第10章 科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生

第55条 本学の学生以外の者で、本学が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 前項により入学した者には、第34条の規定を準用し、単位を与える。

3 その他科目等履修生については、別に定める。

第56条 特定の授業科目について聴講を志願する者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生については、別に定める。

第57条 他の大学の学部学生で、当該大学との協定に基づき、本学が開設する一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、選考の上、特別聴講学生として入学を許可する。

2 特別聴講学生については、別に定める。

第11章 懲戒

第58条 学長は、学生が本学の諸規則に違反し、その他学生の本分に反する行為をしたときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、これを懲戒する。

2 懲戒は、退学、停学、訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業を怠り成業の見込みがないと認められる者

(3) 学内の秩序を著しく乱し、その他学生の本分に著しく反した者

第12章 専攻生

第59条 本学教員の指導を受け特に専門学科目（附置研究所及び医歯学研究支援センターにおいては、特定の研究題目）につき研究しようとする者は、選考の上、医学部、歯学部、附置研究所又は医歯学研究支援センター専攻生として入学を許可することがある。

第60条 専攻生を志願することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

医学部医学科専攻生

(1) 大学医学部において医学を履修し卒業した者

(2) 旧専門学校令による医学専門学校を卒業した者

(3) 大学歯学部において歯学を履修し卒業した者又は旧専門学校令による歯科医学専門学校を卒業した者

(4) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

医学部保健衛生学科専攻生

(1) 大学を卒業した者

(2) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

歯学部歯学科専攻生

(1) 大学歯学部において歯学を履修し卒業した者

(2) 旧専門学校令による歯科医学専門学校を卒業した者

(3) 大学医学部において医学を履修し卒業した者又は旧専門学校令による医学専門学校を卒業した者

- (4) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者
歯学部口腔保健学科専攻生
- (1) 大学を卒業した者
- (2) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者
附置研究所専攻生又は医歯学研究支援センター専攻生
- (1) 大学を卒業した者
- (2) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

第61条 専攻生を志願する者は、所定の願書を指導教員を経て学長に願出するものとする。

第62条 専攻生を志願する者は、出願と同時に、別に定める額の検定料を納付しなければならない。

第63条 専攻生の選考に合格した者は、所定の期日までに、別に定める額の入学料を納付しなければならない。

第64条 専攻生の入学許可は各学期の始めとする。

第65条 専攻生は、別に定める額の授業料を次の2期に分けてそれぞれ6月分を納付しなければならない。ただし、特別の事由がある場合には、3月分ごとに分納することができる。

前期	4月中
後期	10月中

- 2 入学年度の前期に係る授業料については、前項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。
- 3 第1項の授業料納入の告知・督促は、所定の場所（医学部掲示板・歯学部掲示板・生体材料工学研究所掲示板・難治疾患研究所掲示板・難治疾患研究所湯島地区掲示板・学内共同教育研究施設掲示板）に掲示するものとする。

第66条 専攻生の研究期間は1年とする。

- 2 専攻生で、前項の在学期間を超えて引続き在学しようとする者は、指導教員を経て学長に願出、その許可を受けなければならない。

第67条 専攻生の研究時数は週30時以上とする。

第68条 専攻生は、研究終了の際その研究成績を指導教員を経て長に報告するものとする。

第69条 専攻生で研究の実が挙がらないと認めたときは退学を命ずることがある。

第70条 専攻生には本章のほかすべて学部学生の学則を準用する。

第13章 寄 宿 舎

第71条 本学に寄宿舍を置く。

- 2 寄宿舍に関する規定は、別に定める。

附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

- 2 第4条の規定にかかわらず、歯学部口腔保健学科の平成16年度から平成18年度までの3年次編入学員及び収容定員は、次のとおりとする。

区分	年度		
	平成16年度	平成17年度	平成18年度
3年次編入学定員	—	—	10
収容定員	25	50	85

- 3 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学の在学者となった者（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学び編入学する者の教育課程の履修については、この学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 4 この学則の施行前に廃止前の東京医科歯科大学学則（昭和27年学規第1号）の規定によりなされた手続その他の行為は、この学則の相当規定によりなされた手続その他の行為とみなす。

附 則（平成17年3月23日規程第2号）

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 平成17年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成17年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成18年3月28日規程第1号）

- この学則は平成18年4月1日から施行する。
- 平成18年3月31日において現に本学に在学する者（以下在学者という。）及び平成18年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の第39条、別表（1）及び別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による

附 則（平成19年3月29日規程第3号）

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 平成19年3月31日において現に本学に在学する者（平成18年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。）及び平成19年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成20年1月16日規程第1号）

- この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の平成20年度から平成22年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科・専攻	収 容 定 員		
	平成20年度	平成21年度	平成22年度
医学部保健衛生学科			
看護学専攻	215	210	215
検査技術学専攻	135	130	135
歯学部口腔保健学科	118	116	118

附 則（平成20年3月26日規程第5号）

- この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 平成20年4月1日において現に本学に在学する者（平成18年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。）及び20年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（1）及び別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成21年1月8日規程第1号）

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。

- 2 この学則改正前に、本学に4年以上在学し、引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に入学するため、平成21年4月1日より休学を願い出ている者については、改正後の東京医科歯科大学学則第25条の2の規程を適用する
- 3 この学則の施行の際限に本学に4年以上在学し、引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に入学するため、退学した者が再び入学を志願する場合の取扱いは、なお従前の例による。
- 4 平成21年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成21年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成21年3月19日規程第3号）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成21年度から平成25年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科	収 容 定 員				
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医学部医学科	480	490	500	510	520

- 3 平成21年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成21年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（1）及び別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、平成21年4月1日以降に歯学部口腔保健学科に3年次編入学する者については、改正後の別表（2）の規定を適用する。

附 則（平成21年12月18日規程第9号）

この規程は、平成22年1月1日から施行する。

附 則（平成22年3月30日規程第3号）

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成22年度から平成26年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科	収 容 定 員				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
医学部医学科	500	520	540	560	580

- 3 平成22年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則（平成23年3月4日規程第1号）

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成23年度から平成27年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度	収 容 定 員				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
収容定員	525	550	575	600	615

- 3 改正後の第4条の規定にかかわらず、歯学部歯学科の平成23年度から平成27年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度	収 容 定 員				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
収容定員	358	346	334	322	320

4 改正後の第4条の規定にかかわらず、歯学部口腔保健学科の平成23年度から平成25年度までの収容定員は、次のとおりとする。

	年度 区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		口腔保健衛生学専攻	収容定員	115
口腔保健工学専攻	2年次編入定員		5	5
	収容定員	10	25	40

東京医科歯科大学医学部履修規則

平成22年度以前入学者

平成16年4月1日制定

(趣旨)

第1条 東京医科歯科大学医学部における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほかこの規則の定めるところによる。

(授業科目)

第2条 本学部の授業科目は、学則第6条第1項に定める全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

(全学共通科目の履修)

第3条 全学共通科目の履修については、東京医科歯科大学教養部履修規則（平成16年制定）に定めるところによるものとする。

(専門科目の履修)

第4条 専門科目の履修については、別表1に定める教育課程によるものとする。

(専門科目の履修要件)

第5条 全学共通科目を修了しなければ、専門科目を履修することができない。
ただし、医学科を除く。

(授業の方法)

第6条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修又は選択必修とする。

(1単位当たりの授業時間)

第7条 学則第34条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

(1) 医学科

ア 講義演習	22時間
イ 実習	45時間

(2) 保健衛生学科

ア 講義	15時間
イ 演習	30時間
ウ 実習	45時間
エ 臨地実習	
看護学専攻	45時間
検査技術学専攻	30時間

(編入学者、転入学者の単位認定等)

第8条 学則第12条から第16条までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び本学部専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については本学部において行うものとする。

3 入学を許可する学年及び履修方法等については、教養部と協議するものとする。

(再入学)

第9条 学則第19条第1項に規定する再入学は、本学部を退学した者が再度、原学科の原学年以下に入学することとする。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第10条 学則第12条から第16条まで及び第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可された学年までの経過学年数を減じた年数とする。

(試験)

第11条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、実験・実習を伴う授業科目及び試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 試験の方法及び学習の評価等については、教授会の議を経て、別に定める。

(進級等要件)

第12条 学生は、別表2に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学科にあつては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお、成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1項により退学を命ずることがある。

(卒業単位認定)

第13条 卒業に要する単位の認定については、教授会の議を経て、医学部長がこれを行う。

(補則)

第14条 この規程に定めるもののほか履修に関し必要な事項は、教授会の議を経て別に定める。

附 則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの(以下「在学者」という。)及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修についてはこの規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則(平成18年3月31日規則第9号)

この規則は、平成18年4月1日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

別表2

医 学 部 進 級 要 件 (平成22年度以前入学者用)

1 医学科
(略)

2 保健衛生学科 (看護学専攻及び検査技術学専攻共通)

(1) 2学年の必修科目 (実習科目を除く。)のうち、単位未修得科目が4科目以上あるとき又は第2学年の必修科目となっている実習科目に単位未修得の科目があるときは、原則として、第3学年に進級することができない。

(2) 第2学年及び第3学年の必修科目の単位をすべて修得しなければ、第4学年に進級することはできない。

東京医科歯科大学学部専門科目履修規則

平成22年3月30日
規則第41号

(趣旨)

第1条 東京医科歯科大学における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(専門科目の履修)

第2条 専門科目の履修については、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て別表1に定めるとおりとする。

(授業)

第3条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修、選択必修又は選択とする。

(1単位当たりの授業時間)

第4条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- | | |
|--------|------|
| (1) 講義 | 15時間 |
| (2) 演習 | 30時間 |
| (3) 実習 | 45時間 |

2 前項第3号の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科の臨地実習の1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- | | |
|-------------|------|
| (1) 看護学専攻 | 45時間 |
| (2) 検査技術学専攻 | 30時間 |

(編入学者、転入学者の単位認定)

第5条 学則第12条から第18条の2までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については、当該学生が在籍する学部（以下「在籍学部」という。）におい

て行うものとする。

3 在籍学部は、入学を許可する学年及び履修方法等について、教養部と協議するものとする。

(再入学の単位認定)

第6条 学則第19条の規定により再入学を許可された者の当該学部における既修得単位は、全学共通科目及び当該学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第7条 学則第12条から第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可されたまでの経過学年数を減じた年数とする。

(試験及び単位)

第8条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を修得することができない。

4 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を修得することができない。

5 学習の評価は、別表2のとおりとする。

6 単位の認定は、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て当該学部長がこれを行う。

7 試験の方法に関しては別に定める。

(進級要件)

第9条 学生は、別表3に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学部医学科にあっては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずる。

(卒業認定)

第10条 学生の卒業認定は、学則第39条により行うものとする。

(補足)

第11条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は各学部教授会の議を経て別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部履修規則（平成16年規則第201号）は、廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部履修規則（平成16年規則第213号）は、廃止する。
- 4 平成22年3月31日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部履修規則の例による。
- 5 平成22年3月31日において現に歯学部在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学歯学部履修規則の例による。

附 則（平成23年3月4日規則第15号）

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

医学部進級要件（平成23年度入学者）

別表3

（1）医学科

（略）

（2）保健衛生学科（看護学専攻及び検査技術学専攻）

（1）第1学年の専門科目に未履修科目があるときは、第2学年に進級することができない。
--

（2）第2学年の必修科目（実習科目を除く。）に未履修科目があるとき、4科目以上の不合格科目があるとき、又は第2学年の必修科目となっている実習科目に不合格科目があるときは、原則として、第3学年に進級することができない。但し、実習科目が不合格の場合は、未履修科目とみなす。
--

（3）第2学年及び第3学年の必修科目に未履修科目または不合格科目があるときは、第4学年に進級することはできない。
--

備考

未履修科目：授業科目を3分の2以上（実習科目の場合は4分の3以上）履修しなかった科目、又は授業科目を3分の2以上（実習科目の場合は4分の3以上）履修したにも関わらず試験等を放棄し、単位認定できない科目。再履修を要する。

不合格科目：授業科目を3分の2以上履修し、試験等を経て不合格の認定となった科目。

東京医科歯科大学医学部保健衛生学科履修内規

平成23年 2月16日
医学部保健衛生学科長制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。以下「履修規則」という。）第14条に基づき、医学部保健衛生学科における専門に関する教育科目の履修に関し、必要な事項を定めるものとする。

(学習の評価)

第2条 卒業試験、科目試験及び追試験の成績については、授業科目ごとに担当教員が100点満点で採点し、履修規則別表2のとおり学習の評価を行う。

- 2 正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は、0点とする。
- 3 第1項及び前項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。

(仮進級)

第3条 進級要件を満たさない者については、特別な事情がある場合に限り、保健衛生学科教育委員会において協議し、仮進級を認めることができる。

- 2 仮進級者は、翌年度に実施される不合格科目の定期試験を受験し、合格しなければならない。

(G P)

第4条 G P (Grade Point) で成績を評価する場合は次のとおりとする。

成績評価	秀	優	良	可	不可
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0
100点方式との対応	90以上	89~80	79~70	69~60	59以下

- 2 選択科目の履修を届け出た後、単位を認定されなかった科目については、未履修科目とし、G P A (Grade Point Average) の計算式には算入しない。
- 3 選択科目のうち、卒業要件に含まない単位のG Pについては、学生の申請により、G P Aの計算式に算入しないものとする。
- 4 前項の申請時期は、第4学年の後期履修登録時とし、以降の変更は原則として認めない。

附 則

- 1 この内規は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成23年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

保健衛生学科(看護学専攻)教育課程

平成23(2011)年度入学者(1年生)

授業科目		単 位 数		履 修 学 年				備 考 (旧カリ対応科目等)
		必修	選択	1年	2年	3年	4年	
専門基礎分野	解剖学Ⅰ	2		○				} 解剖学
	解剖学Ⅱ	1			○			
	生理学	3			○			
	生化学	2			○			
	薬理学Ⅰ	1			○			
	薬理学Ⅱ	1			○			
	病理学	1			○			
	微生物学	1			○			
	栄養学	1			○			
	疫学	1				○		
	病態学	5			○			
	英文講読Ⅰ	1			○			
	英文講読Ⅱ	1				○		
	英文講読Ⅲ		1				○	
専門基礎合同演習	1			○				
専門共通分野	保健統計学	1					○	
	医療情報学	1			○			
	国際保健看護学	1					○	選択
	産業保健学	1					○	
	保健医療福祉制度論	2			○			4学年から2学年へ
	保健医療福祉制度論演習	1					○	
	卒業論文Ⅰ	1					○	
	卒業論文Ⅱ	2					○	
専門領域	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	1		○			
		基礎看護学Ⅱ	1			○		
		基礎看護学Ⅲ	1			○		
		基礎看護学演習Ⅰ	2			○		
		基礎看護学演習Ⅱ	1			○		
		基礎看護学実習Ⅰ	1		○			
		基礎看護学実習Ⅱ	2			○		
	成人看護学	成人看護学Ⅰ	2			○		
		成人看護学Ⅱ	2			○		
		成人看護学Ⅲ	1				○	
		成人看護学演習	1				○	
		成人看護学実習Ⅰ	3				○	
		成人看護学実習Ⅱ	1					○
	精神看護学	精神看護学	2			○		
		地域精神看護学	1				○	
		精神看護学演習	1				○	
		精神看護学実習	2				○	
		看護心理学		1	○			
	小児看護学	小児看護学Ⅰ	1			○		
		小児看護学Ⅱ	1				○	
		小児看護学演習Ⅰ	1			○		
		小児看護学演習Ⅱ	1				○	
		小児看護学実習	2				○	
	母性看護学	母性看護学Ⅰ	1				○	
母性看護学Ⅱ		1				○		
母性看護学Ⅲ		1				○		
母性看護学演習		1				○		
母性看護学実習		2				○		
看護学 老年	老年看護学	3				○		
	リハビリテーション看護学		1			○		
	老年看護学演習	1				○		
	老年看護学実習	3				○		
地域看護学	地域看護学Ⅰ	1				○		
	地域看護学Ⅱ	1				○		
	地域看護学Ⅲ	2					○	
	地域看護学演習	1					○	
	地域看護学実習	3					○	
在宅看護学	在宅看護学Ⅰ	1			○			
	在宅看護学Ⅱ	1				○		
	緩和ケア看護学		1				○	
	在宅看護学演習	1				○		
	在宅看護学実習	2				○		
看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	2		○				
	看護の統合と実践Ⅱ	2					○	
	看護の統合と実践実習	2					○	
計		95	4					

保健衛生学科(看護学専攻)教育課程

平成22 (2010)年度入学者 (2年生)

授 業 科 目		単 位 数		履 修 学 年				備 考 (旧カリ対応科目等)
		必修	選択	1年	2年	3年	4年	
専門基礎分野	解剖学	3			○			
	生理学	3			○			
	生化学	2			○			
	薬理学Ⅰ	1			○			薬理学
	薬理学Ⅱ	1			○			薬理学
	病理学	1			○			
	微生物学	1			○			
	栄養学	1			○			
	疫学	1				○		
	病態学	5			○			
	英文講読Ⅰ	1			○			
	英文講読Ⅱ	1				○		
	英文講読Ⅲ		1				○	
専門基礎合同演習	1			○				
専門共通分野	保健統計学	1					○	
	医療情報学	1			○			
	国際保健看護学		1				○	必修
	産業保健学	1					○	
	保健医療福祉制度論	2					○	
	保健医療福祉制度論演習	1					○	
	卒業論文Ⅰ	1				○		
	卒業論文Ⅱ	2					○	
専 門 領 域 別 分 野	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	1		○			
		基礎看護学Ⅱ	1			○		
		基礎看護学Ⅲ	1			○		
		基礎看護学演習Ⅰ	2			○		
		基礎看護学演習Ⅱ	1			○		
		基礎看護学実習Ⅰ	1		○			
		基礎看護学実習Ⅱ	2			○		3単位(1単位は在宅看護学実習へ)
	成人看護学	成人看護学Ⅰ	2			○		
		成人看護学Ⅱ	2			○		
		成人看護学Ⅲ	1				○	
		成人看護学演習	1				○	
		成人看護学実習Ⅰ	3				○	
		成人看護学実習Ⅱ	1					○
	精神看護学	精神看護学	2			○		
		地域精神看護学	1				○	
		精神看護学演習	1				○	
		精神看護学実習	2				○	3単位(1単位は成人看護学実習Ⅱへ)
		看護心理学		1	○			
	小児看護学	小児看護学Ⅰ	1			○		
		小児看護学Ⅱ	1				○	
		小児看護学演習Ⅰ	1			○		
		小児看護学演習Ⅱ	1				○	
		小児看護学実習	2				○	3単位(1単位は看護の統合と実践実習へ)
	母性看護学	母性看護学Ⅰ	1				○	母性看護学
母性看護学Ⅱ		1				○	母性看護学	
母性看護学Ⅲ		1				○	母性看護学	
母性看護学演習		1				○		
母性看護学実習		2				○	3単位(1単位は看護の統合と実践実習へ)	
看護学 老年	老年看護学	3				○		
	老年看護学演習	1				○		
	リハビリテーション看護学		1			○	(専門共通分野)同名必修	
	老年看護学実習	3				○		
地域看護学	地域看護学Ⅰ	1				○		
	地域看護学Ⅱ	1				○		
	地域看護学Ⅲ	2					○	
	地域看護学演習	1					○	
	地域看護学実習	3					○	
在宅看護学	在宅看護学Ⅰ	1			○			
	在宅看護学Ⅱ	1				○		
	在宅看護学演習	1				○		
	緩和ケア看護学		1				○	(専門共通分野)ターミナルケア看護学・必修
	在宅看護学実習	2				○	1単位(1単位は基礎看護学実習Ⅱより)	
看護 実践 と 統 合	看護の統合と実践Ⅰ	2		○			看護技術論演習	
	看護の統合と実践Ⅱ	2				○	看護管理学+看護経済論・選択	
	看護の統合と実践実習	2					○	新設(小児看護学実習、母性看護学実習より)
計		94	5					

保健衛生学科(看護学専攻)教育課程

平成21(2009)年度入学者(3年生用)

授 業 科 目		単 位 数		履 修 学 年				備 考 (旧カリ対応科目等)
		必修	選択	1年	2年	3年	4年	
専門基礎分野	解剖学	3			○			
	生理学	3			○			
	生化学	2			○			
	薬理学Ⅰ	1			○			薬理学
	薬理学Ⅱ	1			○			薬理学
	病理学	1			○			
	微生物学	1			○			
	栄養学	1			○			
	疫学	1					○	
	病態学	5			○			
	英文講読Ⅰ	1			○			
	英文講読Ⅱ	1					○	
	英文講読Ⅲ		1					○
	専門基礎合同演習	1			○			
専門共通分野	保健統計学	1					○	
	医療情報学	1			○			
	国際保健看護学		1				○	必修
	産業保健学	1					○	
	保健医療福祉制度論	2					○	
	保健医療福祉制度論演習	1					○	
	卒業論文Ⅰ	1					○	
	卒業論文Ⅱ	2					○	
専門領域分野	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	1		○			
		基礎看護学Ⅱ	1			○		
		基礎看護学Ⅲ	1			○		
		基礎看護学演習Ⅰ	2			○		
		基礎看護学演習Ⅱ	1			○		
		基礎看護学実習Ⅰ	1		○			
		基礎看護学実習Ⅱ	2			○		
								3単位(1単位は在宅看護学実習へ)
	成人看護学	成人看護学Ⅰ	2			○		
		成人看護学Ⅱ	2			○		
		成人看護学Ⅲ	1				○	
		成人看護学演習	1				○	
		成人看護学実習Ⅰ	3				○	
		成人看護学実習Ⅱ	1					○
	精神看護学	精神看護学	2			○		
		地域精神看護学	1				○	
		精神看護学演習	1				○	
		精神看護学実習	2				○	
		看護心理学		1	○			
	小児看護学	小児看護学Ⅰ	1			○		
		小児看護学Ⅱ	1				○	
		小児看護学演習Ⅰ	1			○		
		小児看護学演習Ⅱ	1				○	
	母性看護学	小児看護学実習	2				○	
		母性看護学Ⅰ	1				○	
		母性看護学Ⅱ	1				○	
		母性看護学Ⅲ	1				○	
		母性看護学演習	1				○	
看護学	母性看護学実習	2				○		
	老年看護学	3				○		
	老年看護学演習	1				○		
	リハビリテーション看護学		1				○	
地域看護学	老年看護学実習	3				○		
	地域看護学Ⅰ	1				○		
	地域看護学Ⅱ	1				○		
	地域看護学Ⅲ	2					○	
	地域看護学演習	1					○	
在宅看護学	地域看護学実習	3					○	
	在宅看護学Ⅰ	1			○			
	在宅看護学Ⅱ	1				○		
	在宅看護学演習	1				○		
	緩和ケア看護学		1				○	
実践の統合と	在宅看護学実習	2				○		
	看護の統合と実践Ⅰ	2		○				
	看護の統合と実践Ⅱ	2				○		
	看護の統合と実践実習	2					○	
計	94	5						

保健衛生学科(看護学専攻)教育課程

平成20 (2008)年度入学者 (4年生用)

授 業 科 目		単 位 数		履 修 学 年				備 考 (旧カリ対応科目等)
		必修	選択	1年	2年	3年	4年	
専門基礎分野	解剖学	3			○			
	生理学	3			○			
	生化学	2			○			
	薬理学Ⅰ	1			○			薬理学
	薬理学Ⅱ	1			○			薬理学
	病理学	1			○			
	微生物学	1			○			
	栄養学	1			○			
	疫学	1					○	
	病態学	5				○		
	英文講読Ⅰ	1				○		
	英文講読Ⅱ	1					○	
	英文講読Ⅲ		1					○
	専門基礎合同演習	1				○		
専門共通分野	保健統計学	1					○	
	医療情報学	1			○			
	国際保健看護学		1				○	必修
	産業保健学	1					○	
	保健医療福祉制度論	2					○	
	保健医療福祉制度論演習	1					○	
	卒業論文Ⅰ	1					○	
	卒業論文Ⅱ	2					○	
	専 門 領 域 別 分 野	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	1		○		
基礎看護学Ⅱ			1			○		
基礎看護学Ⅲ			1			○		
基礎看護学演習Ⅰ			2			○		
基礎看護学演習Ⅱ			1			○		
基礎看護学実習Ⅰ			1		○			
基礎看護学実習Ⅱ			2			○		3単位(1単位は在宅看護学実習へ)
成人看護学		成人看護学Ⅰ	2			○		
		成人看護学Ⅱ	2			○		
		成人看護学Ⅲ	1				○	
		成人看護学演習	1				○	
		成人看護学実習Ⅰ	3				○	
		成人看護学実習Ⅱ	1					○
精神看護学		精神看護学	2			○		
		地域精神看護学	1				○	
		精神看護学演習	1				○	
		精神看護学実習	2				○	3単位(1単位は成人看護学実習Ⅱへ)
		看護心理学		1	○			
小児看護学		小児看護学Ⅰ	1			○		
		小児看護学Ⅱ	1				○	
		小児看護学演習Ⅰ	1			○		
		小児看護学演習Ⅱ	1				○	
		小児看護学実習	2				○	3単位(1単位は看護の統合と実践実習へ)
母性看護学		母性看護学Ⅰ	1				○	母性看護学
		母性看護学Ⅱ	1				○	母性看護学
		母性看護学Ⅲ	1				○	母性看護学
		母性看護学演習	1				○	
		母性看護学実習	2				○	3単位(1単位は看護の統合と実践実習へ)
看護学 老年	老年看護学	3				○		
	老年看護学演習	1				○		
	リハビリテーション看護学		1			○	(専門共通分野)同名必修	
	老年看護学実習	3				○		
地域看護学	地域看護学Ⅰ	1				○		
	地域看護学Ⅱ	1				○		
	地域看護学Ⅲ	2					○	
	地域看護学演習	1					○	
	地域看護学実習	3					○	
在宅看護学	在宅看護学Ⅰ	1			○			
	在宅看護学Ⅱ	1				○		
	在宅看護学演習	1				○		
	緩和ケア看護学		1				○	(専門共通分野)ターミナルケア看護学・必修
	在宅看護学実習	2				○	1単位(1単位は基礎看護学実習Ⅱより)	
統合看護 実践との	看護の統合と実践Ⅰ	2		○			看護技術論演習	
	看護の統合と実践Ⅱ	2				○	看護管理学+看護経済論・選択	
	看護の統合と実践実習	2					○	新設(小児看護学実習、母性看護学実習より)
計		94	5					

保健衛生学科(看護学専攻)教育課程

平成19(2007)年度以前入学者 (参考)

授 業 科 目		単 位 数		履 修 学 年			備 考 (2008～2010年度カリキュラム対応科目等)	
		必修	選択	2年	3年	4年		
専 門 基 礎 分 野	解剖学	3		○				
	生理学	3		○				
	生化学	2		○				
	薬理学	2		○			薬理学Ⅰ・Ⅱ	
	病理学	1		○				
	微生物学	1		○				
	栄養学	1		○				
	疫学	1			○			
	病態学	5		○				
	英文講読Ⅰ	1		○				
	英文講読Ⅱ	1			○			
	英文講読Ⅲ		1			○		
	専門基礎合同演習	1		○				
専 門 共 通 分 野	保健統計学	1				○		
	医療情報学	1		○				
	リハビリテーション看護学	1			○			
	ターミナル看護学	1				○	緩和ケア看護学	
	看護管理学		1			○	看護の統合と実践Ⅱ	
	看護経済論		1			○	看護の統合と実践Ⅱ	
	国際保健看護学	1				○		
	産業保健学	1				○		
	保健医療福祉制度論	2				○		
	保健医療福祉制度論演習	1				○		
	卒業論文Ⅰ	1			○			
	卒業論文Ⅱ	2				○		
	専 門 領 域 分 野	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	1		○		
基礎看護学Ⅱ			1		○			
基礎看護学Ⅲ			1		○			
基礎看護学演習Ⅰ			2		○			
基礎看護学演習Ⅱ			1		○			
看護技術論演習			1				○	看護の統合と実践Ⅰ
基礎看護学実習Ⅰ			1		○			
基礎看護学実習Ⅱ		3		○			2単位(1単位は在宅看護学実習へ)	
看成人		成人看護学Ⅰ	2		○			
		成人看護学Ⅱ	2		○			
		成人看護学Ⅲ	1			○		
		成人看護学演習	1			○		
		成人看護学実習	3			○		
看精神	精神看護学	2		○				
	地域精神看護学	1			○			
	精神看護学演習	1			○			
	精神看護学実習	3			○		2単位(1単位は看護の統合と実践実習へ)	
看小児	看護心理学	1		○				
	小児看護学Ⅰ	1		○				
	小児看護学Ⅱ	1			○			
	小児看護学演習Ⅰ	1		○				
看母性	小児看護学演習Ⅱ	1			○			
	小児看護学実習	3			○		2単位(1単位は看護の統合と実践実習へ)	
	母性看護学	3			○		母性看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	
看老年	母性看護学演習	1			○			
	母性看護学実習	3			○		2単位(1単位は看護の統合と実践実習へ)	
	老年看護学	3			○			
看地域	老年看護学演習	1			○			
	老年看護学実習	3			○			
	地域看護学Ⅰ	1			○			
	地域看護学Ⅱ	1			○			
	地域看護学Ⅲ	2				○		
看在宅	地域看護学演習	1				○		
	地域看護学実習	3				○		
	在宅看護学Ⅰ	1		○				
	在宅看護学Ⅱ	1			○			
計	在宅看護学演習	1			○			
	在宅看護学実習	1			○		2単位(1単位は基礎看護学実習Ⅱより)	
計		95	3					

* (2008～2010年度入学者カリキュラムへの移行措置として4年生で「看護の統合と実践実習」を行う。)

平成16年4月1日制定

(趣旨)

第1条 この規則は、東京医科歯科大学医学部履修規則（平成16年制定。以下「履修規則」という。）第11条第3項に基づき、医学部における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の試験に関し、必要な事項を定める。

(試験の種類)

第2条 試験は、定期試験、科目試験、共用試験、追試験及び再試験とする。

(試験の方法)

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口頭試験、実地試験のいずれかによって行う。

(定期試験)

第4条 定期試験とは、履修した授業科目について、定期に行う試験をいう。

- 2 定期試験は、当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。
- 3 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。
- 4 定期試験を受験することのできる者は、次のとおりとする。
 - (1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者
 - (2) 実習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者
 - (3) 医学科第6学年の定期試験は、次の授業科目の単位をすべて取得し、かつ、臨床実習Ⅱ及び臨床実習Ⅲの実習評価が60点以上の者
臨床解剖学、臨床実習関連講義、CPE、先端医学、基礎臨床総合講義
- 5 試験の結果は、合否をもって公示する。

(科目試験)

第5条 科目試験とは、原則として履修した授業科目の最終日に行う試験をいい、試験の実施日時は、当該年度の授業時間割に明記し、受験資格並びに試験の結果は、前条第4項第1号、第2号及び第5項のとおりとする。

(共用試験)

第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（以下「CBT」という。）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（以下「OSCE」という。）をいい、当分の間医学科において行う。

- 2 CBTは第4学年の前期末、OSCEは第5学年の臨床実習Ⅰ終了後に行う。
- 3 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。
- 4 共用試験を受験することのできる者は次のとおりとする。
 - (1) CBT 第4学年に在学する者
 - (2) OSCE 臨床実習Ⅰを終了した者
- 5 試験の結果は、合否をもって公示する。

(追試験)

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により定期試験、科目試験又は共用試験（以下「定期試験等」という。）を受験できなかった者に対して、受験できなかった授業科目又は共用試験について行う試験をいう。

- 2 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、当該定期試験等終了後5日以内に医学部長に願い出て、許可を受けなければならない。
- 3 医学部長は、前項の申請について担当教員と協議のうえ、その可否を決定し、申請者に通知するものとする。
- 4 試験の結果は、合否をもって公示する。

(再試験)

第8条 再試験とは、定期試験等を受験し、不合格となった授業科目がある者又は共用試験が不合格となった者に対し、当該授業科目又は共用試験について、改めて行う試験をいう。

2 再試験の時期は、次のとおりとする。

(1) 医 学 科 定期試験 第6学年の学年末

科目試験 原則として第3学年は学年末、第4学年は12月

共用試験 CBTは第4学年の12月、OSCEは第5学年の夏季休業中

(2) 保健衛生学科 原則として、次回の定期試験期間及び第4学年の学年末

3 再試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 再試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書により試験期日の7日前までに医学部長に願い出なければならない。

5 試験の結果は、合否をもって公示する。

(学習の評価)

第9条 定期試験、科目試験及び追試験並びに履修規則第11条第1項ただし書きによる成績については、授業科目ごとに担当教員が100点満点で採点し、次のとおり学習の評価を行う。

成績区分	評価区分	単位認定
100～80点	優	合格
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

2 再試験の成績については、授業科目ごとに担当教員が採点する。ただし、成績は、60点を上限とする。

3 正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は、0点とする。

4 第1項及び第2項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。

5 共用試験の評価については、医学科教育委員会が別に定める。

(成績の報告)

第10条 担当教員は、定期試験、科目試験、追試験及び再試験について授業科目ごとに所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

2 医学科教育委員会委員長は、共用試験並びにそれに伴う追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

(罰則)

第11条 試験において、不正行為があったときは、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号）第58条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、試験等に関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は平成16年4月1日から施行する。

2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この規則の規定にかかわらずなお従前の例による。

東京医科歯科大学試験規則

平成23年4月1日
規則第 号

（趣旨）

第1条 この規則は、東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目及び専門に関する教育科目（以下「授業科目」という。）の試験に関して、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）、東京医科歯科大学全学共通科目履修規則（平成16年規則第217号。）及び東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。）に定めるもののほか、必要な事項を定める。

（試験の種類）

第2条 試験は、本試験、追試験及び再試験とする。

（試験の方法）

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口答試験及び実地試験のいずれかによって行う。

（本試験）

第4条 本試験は、定期試験及び共用試験をいう。

2 共用試験は、医学部医学科及び歯学部歯学科において行う。

（定期試験）

第5条 定期試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

2 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

3 定期試験を受験することのできる者は原則として次のとおりとする。

(1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者

(2) 実習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者

4 定期試験の結果は、公示する。

5 第3項に定めるもののほか、定期試験の受験資格に関し必要な事項は、医学部、歯学部又は教養部（以下「部局」という。）において別に定めることができる。

（共用試験）

第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（CBT）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（OSCE）をいう。

2 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

3 共用試験を受験することのできる者は医学部医学科及び歯学部歯学科において

別に定める。

4 共用試験の結果は、公示する。

(追試験)

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により本試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。ただし、追試験は原則として1回限りとする。

2 追試験を受験しようとする者(以下「追試験申請者」という。)は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、本試験終了後原則として5日以内に医学部長、歯学部長又は教養部長(以下「学部長等」という。)に願い出て、許可を受けなければならない。

3 学部長等は、前項の申請について、教育委員会又は教務委員会と協議のうえ、その可否を決定し、追試験申請者に通知するものとする。

4 追試験受験決定が否の場合は、本試験を不合格とする。

5 試験の結果は、公示する。

6 第2項に定めるもののほか、追試験の申請に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

(再試験)

第8条 再試験とは、本試験又は追試験を受験し、不合格となった者に対し行う試験をいう。ただし、再試験は、原則として1回限りとする。

2 再試験の実施日時は、指定の期日までに公示する。

3 再試験は当該学部長等の判断により、受験を許可しないことがある。

4 再試験受験決定が否の場合は、当該授業科目を不合格とする。

5 試験の結果は、公示する。

6 第3項に定めるもののほか、再試験の許可に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

(試験の成績)

第9条 本試験及び追試験による成績については、科目責任者が100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

2 再試験の成績については、科目責任者が採点する。ただし成績は、60点を上限とする。

3 共用試験の成績については、前2項の規定にかかわらず、医学部医学科及び歯学部歯学科において別に定める。

(成績の報告)

第10条 科目責任者は、本試験、追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長等に報告しなければならない。

2 医学科教育委員会委員長又は歯学科教育委員会委員長は、共用試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長に報告しなければならない。

(罰則)

第 11 条 試験において不正行為があったときは、学則第 58 条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第 12 条 この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部試験規則（平成 16 年規則 202 号）は廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成 16 年規則 214 号）は廃止する。
- 4 この規則は、平成 23 年 3 月 31 日において現に医学部または歯学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 23 年 4 月 1 日以降在学者が所属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部試験規則または東京医科歯科大学歯学部試験規則の例による。

東京医科歯科大学医学部保健衛生学科試験内規

平成23年 2月16日
医学部保健衛生学科長制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東京医科歯科大学試験規則（平成23年4月1日規則第 号。以下「試験規則」という。）第8条第6項及び第12条に基づき、医学部保健衛生学科における専門に関する教育科目の試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

(再試験)

第2条 再試験の時期は、原則として後期終了後の定期試験実施期間後に予め設定した再試験期間内に実施するものとする。ただし、第4学年で履修した科目の再試験は、第4学年の年度末とする。

- 再試験の実施日時は、試験実施日2週間前までに公示する。
- 再試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書により原則として試験期日7日前までに医学部長に願い出なければならない。

附 則

- この内規は、平成23年4月1日から施行する。
- 東京医科歯科大学医学部に平成23年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

看護学専攻第3学年における臨地実習履修条件(平成22年度以前入学者用)

平成12年11月 7日
保健衛生学科教育委員会
平成17年 3月15日改正
保健衛生学科教育委員会
平成20年12月24日改正
保健衛生学科教育委員会

臨地実習のうち、別表に掲げるものは、病院等において実際の患者に接して行われるものであり、あらかじめ、それぞれの実習を行うに十分な基礎知識を持つことが必要であることから、当該臨地実習に関連する講義・演習の試験に合格した者でなければこれを履修することができないものとする。

(別表)

臨地実習名	関連する講義・演習科目名
成人看護学実習	成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，成人看護学演習
精神看護学実習	精神看護学，地域精神看護学，看護心理学，精神看護学演習
小児看護学実習	小児看護学Ⅰ・Ⅱ，小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ
母性看護学実習	母性看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，母性看護学演習
老年看護学実習	老年看護学，老年看護学演習
在宅看護学実習	在宅看護学Ⅰ・Ⅱ、在宅看護学演習

臨地実習に関連する講義・演習科目の合否判定及び再試験について

前期定期試験（7月）の結果により合否を判定する。なお、不合格者については再試験を1回行い、7月末までに掲示にて連絡する。

看護学専攻第3学年における臨地実習履修要件（平成23年度入学者用）

平成12年11月 7日
 保健衛生学科教育委員会
 平成17年 3月15日改正
 保健衛生学科教育委員会
 平成20年12月24日改正
 保健衛生学科教育委員会
 平成23年 1月 5日改正
 保健衛生学科教育委員会

臨地実習のうち、別表に掲げるものは、病院等において実際の患者に接して行なわれるものであり、あらかじめ、それぞれの実習を行うに十分な基礎知識を持つことが必要であることから、当該臨地実習に関連する講義・演習の試験に合格したものでなければこれを履修することができない。

(別表)

臨地実習名	関連する講義・演習科目名
基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰ
成人看護学実習	成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人看護学演習
精神看護学実習	精神看護学、地域精神看護学、精神看護学演習
小児看護学実習	小児看護学Ⅰ・Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ
母性看護学実習	母性看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、母性看護学演習
老年看護学実習	老年看護学、老年看護学演習
在宅看護学実習	在宅看護学Ⅰ・Ⅱ、在宅看護学演習

医学部保健衛生学科看護学専攻卒業論文実施要項

平成11年 7月14日承認
平成12年12月13日改正
保健衛生学科教育委員会
平成14年 2月13日改正
保健衛生学科運営会議

(趣 旨)

- 1 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻（以下「看護学専攻」という。）における「卒業論文 I・II」の実施については、この要項に定めるところによる。

(授業目的)

- 2 看護・保健に関する研究を実践することにより、論文の読み方、研究の進め方、論文のまとめ方、口頭発表の仕方の基本を修得させることを目的とする。

(指導教員)

- 3 指導は、総合保健看護学専攻の教授、准教授及び講師以上（以下「指導教員」という。）が行う。
- 4 一人の指導教員が指導を行う学生数の上限は、原則として次のとおりとする。
 - (1) 教授一人に対し 学生4名
 - (2) 准教授一人に対し学生3名
 - (3) 講師一人に対し 学生2名
- 5 看護学専攻卒業研究小委員会（以下「委員会」という。）は、学生より提出された研究テーマ等を考慮し、指導教員を決定する。

(卒業論文)

- 6 卒業論文は、別紙により6ページ以内で作成し、提出期限までに学務部教務課に提出しなければならない。

(卒業論文発表会)

- 7 口頭発表の場として卒業論文発表会（以下「発表会」という。）を行う。
- 8 発表会は委員会が主催し、卒業論文委員（学生より選出）が開催する。
- 9 発表会の開催日時は、毎年6月末日までに掲示により連絡する。
- 10 発表時間は、1人5分間とし、質疑応答は2分間とする。なお、発表開始から4分経過時及び5分経過時に合図し、発表時間超過者については質疑応答時間で調整する。
- 11 発表会用にスライドを作成する場合は、1枚あたり10行未満の文章で、見やすく作成する。

(評価及び単位認定)

- 12 「卒業論文 I・II」の評価及び単位認定は次のとおりとする。
 - (1) 「卒業論文 I」
指導教員が講義により評価し、総合保健看護学専攻主任が単位認定を行う。
 - (2) 「卒業論文 II」
指導教員が論文及び発表を8：2の比率で評価し、総合保健看護学専攻主任が単位認定を行う。
- 13 「卒業論文 I・II」の単位は、次に該当する者には認定しない。
 - (1) 「卒業論文 I」の出席が3分の2に満たない者
 - (2) 期限提出までに論文を提出できない者
 - (3) その他、卒論単位認定に支障があると判定された者

(評価基準)

- 14 論文の評価基準は、次のとおりとする。
 - (1) 論文に取り組む姿勢
 - (2) 論文内容
 - ① 研究目的
 - ② 研究方法
 - ③ 論文内容の論理性と明確性
 - ④ 考察の論理性と明確性

(実施)

- 15 この要項は、平成13年度3年次在学者より実施する。

(別紙)

卒業論文フォーム

1 卒業論文のフォーム

卒業論文のフォームは、以下のとおりとする。

- (1) はじめに
- (2) 方法
- (3) 結果
- (4) 考察
- (5) 引用文献及び参考文献

※ 倫理的配慮あるいは倫理的手続きに関する記述を盛り込むこと

2 引用文献の書き方

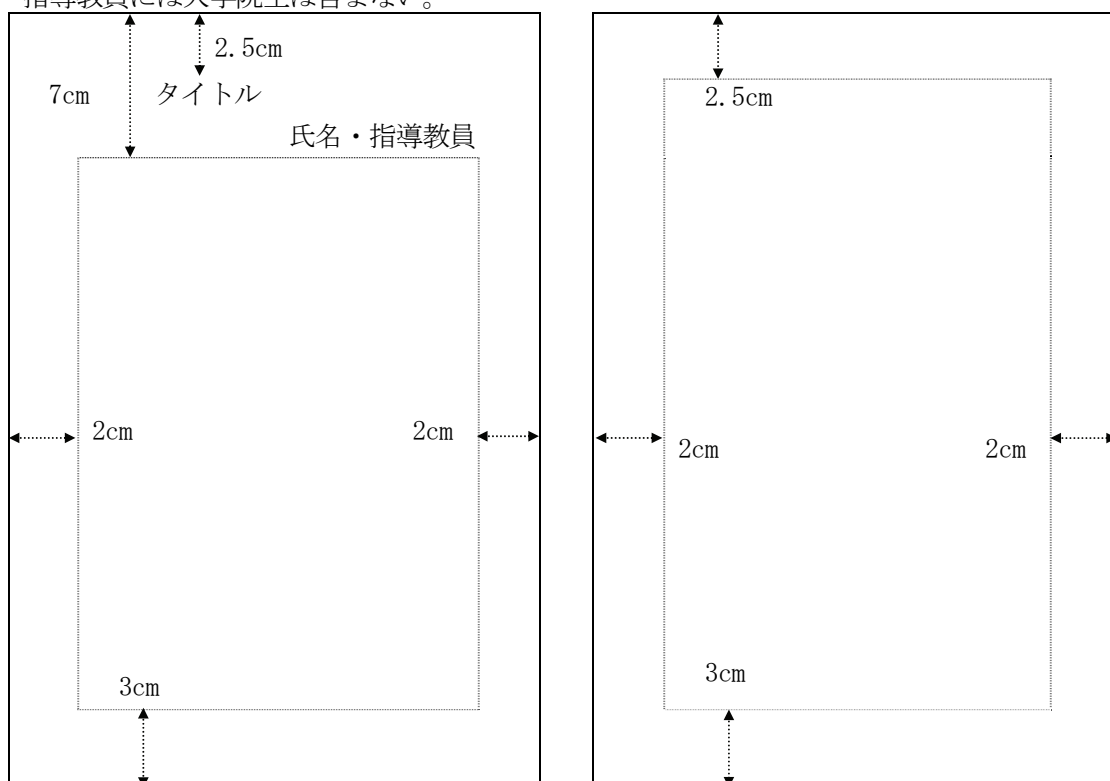
書式は、「お茶の水看護学雑誌」に準ずる。

<例>

- 1) 寺尾敦史, 小西正光, 馬場俊六, 他: 都市の一般住民におけるたばこ煙暴露状況喫煙の生化学的指標を用いた分析. 日本公衆衛生雑誌 45: 3-14,1995.
- 2) Browson RC, Chang JC, Davis JR: Occupation, smoking, and alcohol in the epidemiology of bladder cancer. Am J Public Health 77: 1298-1300, 1997.
- 3) 古野純典: 5つの癌の記述疫学的特徴. 廣畑富雄編 がんとライフスタイル, 日本公衆衛生協会, 東京, 1992, pp21-43.
- 4) Rothman KJ: Modern Epidemiology. Brown and Co, Boston, 1986.

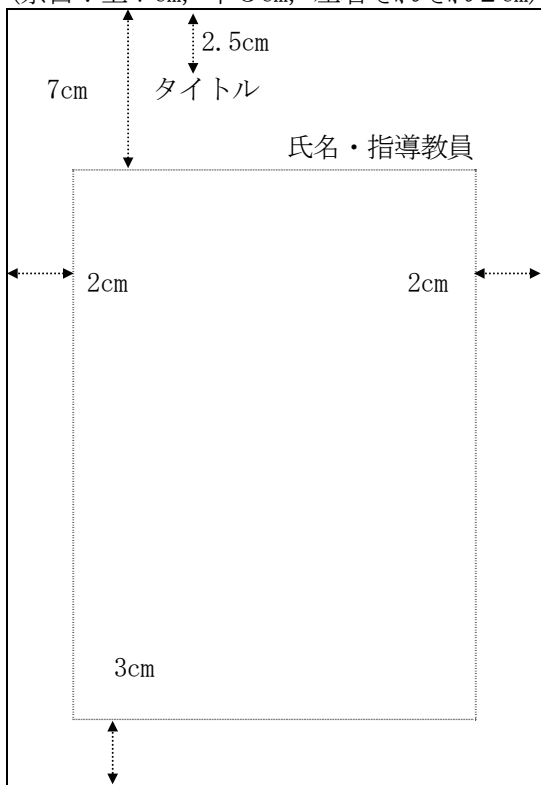
3 卒業論文の書式

- ・ A4用紙に6ページ以内とし、片面に印字する。
- ・ 字の大きさ及びフォントは、10～11ポイントで明朝体とする。ページ設定は2段組とし、文字数：全角46、行数：38とする。
- ・ 提出後の差し替え（誤字・脱字を含む）は一切認めない。
- ・ 全ページ余白は上2.5cm、下3cm、左右それぞれ2cmとする。
ただし、1ページ目は上2.5cmからタイトルを記載し、その下余白に、氏名・指導者名を記載する。
本文は7cm下から書き始める。
- ・ 指導教員には大学院生は含まない。



4 卒業論文抄録の書式

- ・ A4用紙に1枚とする。
 - ・ 字の大きさ、フォントおよびページ設定は卒業論文に準ずる。
 - ・ タイトル、氏名、指導教員名を上7cmの余白部分に書き、以下目的、方法、結果、考察を記入する。
 - ・ 提出後の差し替え（誤字・脱字を含む）は一切認めない。
- (余白：上7cm, 下3cm, 左右それぞれ2cm)



＜標題紙見本＞

医学部保健衛生学科レポート

学 部 医学部

学 科 保健衛生学科（看護学専攻）

科 目 名 「産業保健学」

標 題 「産業の場における看護職の五管理」

↑

感想の場合は、“感想「○○○○○○○○○○○○○○○○○○」”と書く。

提出月日 平成○○年○月○日

専 攻 看護学専攻

学 年 ○学年

学籍番号 ○○○○○○○○○

氏 名 山田 花子

山田 花子

本文（例）

産業保健の根幹を成す、産業の場で看護職が行う五管理について、その概要と業務の具体的事項を述べる。

- ・ 産業の場における看護職の五管理について
 1. 産業保健と五管理
 2. 作業環境管理
 3. 作業管理
 4. 健康管理
 5. 労働衛生教育
 6. 総括管理
 7. まとめ
 8. 参考文献

以下省略

※作成要領

1. レポート本文はワープロ打ちとする。
2. フォーマットはA4版・MS明朝体・10.5サイズとし、横44文字、縦32行で印字する。
3. すべてのページの1行目右上に氏名を記載し、最終行下欄にページ番号を付す。
※レポート本文のページ数、図、表、写真等の使用・貼付等については、担当教員の指示に従う。
4. 表題紙は、別様とする。
5. 書き出しは2行目2コマ目から始める。
6. 最後に引用文献及び参考文献の記載
※書式は、「お茶の水医学雑誌」に準ずる。

<書き方例>

引用文献

論文の場合

- 1) 宮崎美砂子, 春山早苗: 最新地域看護学. 各論2. 日本看護協会出版会
; 2006: 81-88.

著書の一部の場合

- 2) 鈴木太郎, 山田華子: 糖尿病性神経障害, 小島次郎編 糖尿病, 大学出版, 東京,
1986. pp975-982.

専任教員一覧 TEL 03-5803-(内線〇〇〇〇)

【総合保健看護学】

大講座	教育研究分野名	氏名	職名	内線	メールアドレス	部屋の場所
地域・在宅ケア看護学	地域保健看護学	佐々木明子	教授	5350	sasaki.phn@tmd.ac.jp	3号館 19F
		田沼 寮子	助教	4573	tanuma.phn@tmd.ac.jp	19F
		飯島 加奈子	技術補佐員	7769	iiima.phn@tmd.ac.jp	19F
	在宅ケア看護学	本田 彰子	教授	5355	ahonda.chn@tmd.ac.jp	19F
		松下 祥子	准教授	5884		19F
		山崎 智子	特任准教授	5356	tom-y.cc@tmd.ac.jp	15F
		内堀 真弓	特任助教	5356	m.uchi.cc@tmd.ac.jp	15F
	リプロダクティブヘルス看護学	大久保 功子	教授	5349	kouko.rhn@tmd.ac.jp	19F
		三隅 順子	講師	5357	j.misumi.rhn@tmd.ac.jp	17F
		巖 綾乃	事務補佐員	5347	iwao.rhn@tmd.ac.jp	19F
	精神保健看護学	宮本 真巳	教授	5354	miyamoto.ns@tmd.ac.jp	18F
		美濃 由紀子	准教授	5336	mino.pn@tmd.ac.jp	15F
渡邊 敦子		助教	5348	a.watanabe.pn@tmd.ac.jp	18F	
看護機能・ケアマネジメント開発学	生体・生活機能看護学	齋藤やよい	教授	5345	ysaito.fnl@tmd.ac.jp	18F
		大黒 理恵	助教	5344	r.daikoku.fnl@tmd.ac.jp	18F
		佐々木晶世	助教	5344	sakiahs@tmd.ac.jp	18F
		二宮 彩子	特任助教	4973	a.numata.fnl@tmd.ac.jp	17F
		後藤 孝子	技術補佐員	4973	t.goto.fnl@tmd.ac.jp	17F
	小児・家族発達看護学	廣瀬たい子	教授	5342	tykocho.ns@tmd.ac.jp	19F
		岡光 基子	助教	4511	motoko.cfn@tmd.ac.jp	18F
		富田 直子	技術補佐員	7229	tomita.cfn@tmd.ac.jp	19F
	先端侵襲緩和ケア看護学	井上 智子	教授	5351	tinoue.cc@tmd.ac.jp	19F
		佐々木吉子	准教授	4507	y.sasaki.cc@tmd.ac.jp	19F
		川本 祐子	助教	5353	kawamoto.cc@tmd.ac.jp	19F
	高齢者看護・ケアシステム開発学	山本 則子	教授	5358	nyamamoto.gh@tmd.ac.jp	19F
		岡本 有子	助教	5359	yokamoto.gh@tmd.ac.jp	19F
		高井ゆかり	特任助教	5359	yukagh@tmd.ac.jp	19F
	看護システムマネジメント学	深堀 浩樹	准教授	5352	hfukahori.kanr@tmd.ac.jp	15F
	健康教育開発学	健康情報分析学	佐藤 千史	教授	5335	c.sato.ns@tmd.ac.jp
佐久間夕美子			技術補佐員	4514	yumahs@tmd.ac.jp	18F
健康教育学		森田久美子	准教授	5337	morita.phn@tmd.ac.jp	15F
国際看護開発学		丸 光恵	教授	5387	mitsue.cfn@tmd.ac.jp	18F
		前田 留美	特任教授	5387	r-maeda.ind@tmd.ac.jp	18F

【生体検査科学】

大講座	教育研究分野名	氏名	職名	内線	メールアドレス	部屋の場所
生命情報解析開発学	分子生命情報解析学	赤澤 智宏	教授	5362	c.akazawa.bb@tmd.ac.jp	3号館 16F
		鈴木 喜晴	講師	5364	nsuzbb@tmd.ac.jp	16F
		原 央子	助教	5375	chikbb@tmd.ac.jp	16F
	形態・生体情報解析学	星 治	教授	5361		16F
		長 雄一郎	助教	5376	y.cho.mtec@tmd.ac.jp	16F
	生命機能情報解析学	松浦 雅人	教授	5372	matsu.mtec@tmd.ac.jp	16F
		川良 徳弘	准教授	5365	tkawara.mtec@tmd.ac.jp	16F
		原 恵子	助教	5376	hrkeiko.bi@tmd.ac.jp	16F
	生体機能支援システム学	若松 秀俊	教授	5366	wakamats.mtec@tmd.ac.jp	16F
		構木 智彦	特任講師	5367	utsuki.mtec@tmd.ac.jp	16F
本間 達		助教	5367	hommttec@tmd.ac.jp	16F	
分子・遺伝子応用検査学	先端分析検査学	戸塚 実	教授	5374	mtozuka.alc@tmd.ac.jp	16F
		栗原由利子	助教	5376	yuriko.ando.mtec@tmd.ac.jp	16F
	生体防御検査学	岡村 登	教授	5368	n.okamura.mtec@tmd.ac.jp	16F
		窪田 哲朗	准教授	5369	tetsuo.kubota.mtec@tmd.ac.jp	16F
		齋藤 良一	助教	5375	r-saito.mi@tmd.ac.jp	16F
	分子病態検査学	滝澤登一郎	教授	5370	休職中	16F
		熊谷 二郎	准教授	5370	j.kuma.pth1@tmd.ac.jp	16F
		吉田 祥子	助教	5375	yoshida.shoko.mp@tmd.ac.jp	16F
	先端血液検査学	小山 高敏	准教授	5882	koyama.lmg@tmd.ac.jp	16F
	先端生体分子分析学(教育研究協力分野)	笠間 健嗣	准教授	5794	kasama.bioa@tmd.ac.jp	共同教育研究棟1F

